

【歴史基礎文化学系】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
6601001	系共通科目(日本史学)	講義	2-4	4	通年	火2	上島 享		歴史基礎文化学系1
6701001	系共通科目(東洋史学)	講義	2-4	4	通年	火2	吉本 道雅		歴史基礎文化学系2
6801001	系共通科目(西南アジア史学)	講義	2-4	4	通年	水2	磯貝 健一		歴史基礎文化学系3
6901001	系共通科目(西洋史学)	講義	2-4	4	通年	水5	小山 哲		歴史基礎文化学系4
7001001	系共通科目(考古学)	講義	1-4	4	通年	火1	小井 秀夫		歴史基礎文化学系5
6631003	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	吉川 真司		歴史基礎文化学系6
6631001	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	谷川 穰		歴史基礎文化学系7
6631002	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	三宅 正浩		歴史基礎文化学系8
6631016	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	吉江 崇		歴史基礎文化学系9
6631017	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	吉江 崇		歴史基礎文化学系10
6631014	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	木3	熊谷 隆之		歴史基礎文化学系11
6631015	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	木3	熊谷 隆之		歴史基礎文化学系12
6631004	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	岩城 卓二		歴史基礎文化学系13
6631005	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	岩城 卓二		歴史基礎文化学系14
6631008	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	岩崎 奈緒子		歴史基礎文化学系15
6631012	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	高木 博志		歴史基礎文化学系16
6631013	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	高木 博志		歴史基礎文化学系17
6631006	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	福家 崇洋		歴史基礎文化学系18
6631007	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	市 大樹		歴史基礎文化学系19
6631009	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	木4	仁木 宏		歴史基礎文化学系20
6631010	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	能川 泰治		歴史基礎文化学系21
6631011	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	木4	東谷 智		歴史基礎文化学系22
6631018	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	藤目 ゆき		歴史基礎文化学系23
6631019	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	人見 佐知子		歴史基礎文化学系24
6631020	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	西山 伸		歴史基礎文化学系25
6631021	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	梶原 義実		歴史基礎文化学系26
6631022	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	クナウト・ティル		歴史基礎文化学系27
6631023	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	クナウト・ティル		歴史基礎文化学系28
6631024	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	山本 雅和		歴史基礎文化学系29
6640002	日本史学	演習I	3-4	4	通年	水5	吉川 真司		歴史基礎文化学系30
6640003	日本史学	演習I	3-4	4	通年	火3	上島 享		歴史基礎文化学系31
6640004	日本史学	演習I	3-4	4	通年	金3	谷川 穰		歴史基礎文化学系32
6640001	日本史学	演習I	3-4	4	通年	水1	三宅 正浩		歴史基礎文化学系33
6642001	日本史学	演習II	4	4	通年	木1	吉川,上島,谷川,三宅		歴史基礎文化学系34
6646001	日本史学	基礎演習	2-4	4	通年	木5	吉川,上島,谷川,三宅		歴史基礎文化学系35
6650001	日本史学	講読	2-4	4	通年	月5	笹川 尚紀		歴史基礎文化学系36
6650002	日本史学	講読	2-4	4	通年	火1	三宅 正浩,谷川 穰		歴史基礎文化学系37
6660001	日本史学	実習	3-4	2	前期	水3,水4	三宅 正浩,松井 直人		歴史基礎文化学系38
6660002	日本史学	実習	4	2	前期	水3,水4	三宅 正浩,松井 直人		歴史基礎文化学系39
6660003	日本史学	実習	3-4	2	後期	水3,水4	谷川 穰,松井 直人		歴史基礎文化学系40
6660004	日本史学	実習	4	2	後期	水3,水4	谷川 穰,松井 直人		歴史基礎文化学系41
6731001	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	吉本 道雅		歴史基礎文化学系42
6731002	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	吉本 道雅		歴史基礎文化学系43
6731003	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	中砂 明德		歴史基礎文化学系44
6731004	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	中砂 明德		歴史基礎文化学系45
6731007	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	小野寺 史郎		歴史基礎文化学系46
6731009	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	木5	箱田 恵子		歴史基礎文化学系47
6731010	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	須藤 瑞代		歴史基礎文化学系48
6731011	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	辻 正博		歴史基礎文化学系49
6731012	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	辻 正博		歴史基礎文化学系50
6731013	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火1	矢木 毅		歴史基礎文化学系51
6731014	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火1	矢木 毅		歴史基礎文化学系52
6731018	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	承 志		歴史基礎文化学系53
6731019	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	承 志		歴史基礎文化学系54
6731021	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	太田 出		歴史基礎文化学系55
6731022	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	太田 出		歴史基礎文化学系56
6731023	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	宮宅 潔		歴史基礎文化学系57
6731024	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	宮宅 潔		歴史基礎文化学系58
6731025	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	村上 衛		歴史基礎文化学系59
6731026	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	村上 衛		歴史基礎文化学系60
6731027	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水1	古松 崇志		歴史基礎文化学系61
6731028	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水1	古松 崇志		歴史基礎文化学系62
6741001	東洋史学	演習I	3-4	2	前期	金3	吉本 道雅		歴史基礎文化学系63
6741002	東洋史学	演習I	3-4	2	後期	金3	吉本 道雅		歴史基礎文化学系64
6743001	東洋史学	演習II	3-4	2	前期	火5	中砂 明德		歴史基礎文化学系65
6743002	東洋史学	演習II	3-4	2	後期	火5	中砂 明德		歴史基礎文化学系66
6749001	東洋史学	演習	3-4	2	前期	月2	石川 禎浩		歴史基礎文化学系67
6749002	東洋史学	演習	3-4	2	後期	月2	石川 禎浩		歴史基礎文化学系68
6749003	東洋史学	演習	3-4	2	後期	水2	小野寺 史郎		歴史基礎文化学系69
6750001	東洋史学	講読	2-4	4	通年	水4	中砂 明德		歴史基礎文化学系70
6750002	東洋史学	講読	2-4	4	通年	水2	中砂 明德		歴史基礎文化学系71
6761001	東洋史学	実習	3-4	2	通年	水5	吉本 道雅,中砂 明德		歴史基礎文化学系72

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
6831004	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	木3	仁子 寿晴		歴史基礎文化学系73
6831005	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	山口 元樹		歴史基礎文化学系74
6831006	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	岩本 佳子		歴史基礎文化学系75
6831007	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	帯谷 知可		歴史基礎文化学系76
6831009	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	野田 仁		歴史基礎文化学系77
6831011	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	岩本 佳子		歴史基礎文化学系78
6840001	西南アジア史学	演習I	3-4	4	通年	火3	岩本 佳子		歴史基礎文化学系79
6842001	西南アジア史学	演習II	3-4	4	通年	火2	磯貝 健一		歴史基礎文化学系80
6842002	西南アジア史学	演習II	3-4	4	通年	水3	岩本 佳子		歴史基礎文化学系81
6844001	西南アジア史学	演習II	3-4	2	前期	金3	伊藤 隆郎		歴史基礎文化学系82
6844002	西南アジア史学	演習II	3-4	2	後期	金3	伊藤 隆郎		歴史基礎文化学系83
6850001	西南アジア史学	講読	3-4	4	通年	金1	今松 泰		歴史基礎文化学系84
6851001	西南アジア史学	講読	3-4	2	前期	水2	東長 靖		歴史基礎文化学系85
6851002	西南アジア史学	講読	3-4	2	前期	月2	磯貝 健一		歴史基礎文化学系86
6851003	西南アジア史学	講読	3-4	2	後期	月2	稲葉 穰		歴史基礎文化学系87
6861001	西南アジア史学	実習	3-4	1	後期	月4	磯貝 健一		歴史基礎文化学系88
6861002	西南アジア史学	実習	3-4	1	前期	月4	磯貝 健一		歴史基礎文化学系89
9604001	西南アジア史学	語学	2-4	4	通年	木3	西尾 哲夫	学部共通科目	歴史基礎文化学系90
9608001	西南アジア史学	語学	3-4	4	通年	金2	杉山 雅樹	学部共通科目	歴史基礎文化学系91
9616001	西南アジア史学	語学	1-4	4	通年	月4	山口 周子	学部共通科目	歴史基礎文化学系92
9620001	西南アジア史学	語学	3-4	4	通年	金1	森 若葉	学部共通科目	歴史基礎文化学系93
9633001	西南アジア史学	語学	1-4	4	通年	金4・金5	虫賀 幹華	学部共通科目	歴史基礎文化学系94
9639001	西南アジア史学	語学	3-4	2	前期	火3	手島 勲矢	学部共通科目	歴史基礎文化学系95
9640001	西南アジア史学	語学	3-4	2	後期	火3	手島 勲矢	学部共通科目	歴史基礎文化学系96
6931002	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	安平 弦司		歴史基礎文化学系97
6931003	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	草生 久嗣		歴史基礎文化学系98
6931004	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火5	阿部 俊大		歴史基礎文化学系99
6931005	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	竹下 哲文		歴史基礎文化学系100
6931006	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	竹下 哲文		歴史基礎文化学系101
6931007	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	伊藤 順二		歴史基礎文化学系102
6931008	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	伊藤 順二		歴史基礎文化学系103
6931009	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	衣笠 太朗		歴史基礎文化学系104
6931010	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	金3	佐藤 公美		歴史基礎文化学系105
6931010	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	佐藤 公美		歴史基礎文化学系106
6931011	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	小関 隆		歴史基礎文化学系107
6931012	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	小関 隆		歴史基礎文化学系108
6931014	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	藤原 辰史		歴史基礎文化学系109
6931015	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	藤原 辰史		歴史基礎文化学系110
6931016	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	岸本 廣大		歴史基礎文化学系111
6931017	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	桑山 由文		歴史基礎文化学系112
6931018	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火3	金澤 周作		歴史基礎文化学系113
6931019	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火3	金澤 周作		歴史基礎文化学系114
6971001	西洋史学	演習I	3-4	2	前期	金5	藤井 崇		歴史基礎文化学系115
6971002	西洋史学	演習I	3-4	2	後期	金5	藤井 崇		歴史基礎文化学系116
6972001	西洋史学	演習II	3-4	2	前期	金5	佐藤 公美		歴史基礎文化学系117
6972002	西洋史学	演習II	3-4	2	後期	金5	佐藤 公美		歴史基礎文化学系118
6973001	西洋史学	演習III	3-4	2	前期	金5	小山 哲,安平 弦司		歴史基礎文化学系119
6973002	西洋史学	演習III	3-4	2	後期	金5	小山 哲,安平 弦司		歴史基礎文化学系120
6974001	西洋史学	演習IV	3-4	2	前期	金5	金澤 周作		歴史基礎文化学系121
6974002	西洋史学	演習IV	3-4	2	後期	金5	金澤 周作		歴史基礎文化学系122
6947001	西洋史学	演習V	4	4	通年	金2	小山 哲,金澤 周作,安平 弦司		歴史基礎文化学系123
6950001	西洋史学	講読	2-4	4	通年	月2	下垣 仁志	英書講読	歴史基礎文化学系124
6955003	西洋史学	講読	2-4	2	前期	火2	藤田 風花	英書講読	歴史基礎文化学系125
6955004	西洋史学	講読	2-4	2	後期	火2	宮崎 涼子	英書講読	歴史基礎文化学系126
6956001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	月2	小俣ラポー 日登美	独書講読	歴史基礎文化学系127
6956002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	月2	小俣ラポー 日登美	独書講読	歴史基礎文化学系128
6957001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	木1	小山 哲	仏書講読	歴史基礎文化学系129
6957002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	木1	小山 哲	仏書講読	歴史基礎文化学系130
6958001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	火3	伊藤 順二	露書講読	歴史基礎文化学系131
6958002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	火3	伊藤 順二	露書講読	歴史基礎文化学系132
6959001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	水4	村瀬 有司	伊書講読	歴史基礎文化学系133
6959002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	水4	村瀬 有司	伊書講読	歴史基礎文化学系134
6961001	西洋史学	講読	3-4	2	前期	火4	小山 哲	ポータルド書講読	歴史基礎文化学系135
6960001	西洋史学	実習	3-4	2	通年	水2	小山 哲,金澤 周作,安平 弦司		歴史基礎文化学系136
7031001	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	金2	吉井 秀夫		歴史基礎文化学系137
7031002	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	吉井 秀夫		歴史基礎文化学系138
7031003	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	山本 雅和		歴史基礎文化学系139
7031005	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	村上 由美子		歴史基礎文化学系140
7031006	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	杉山 淳司		歴史基礎文化学系141
7031007	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	中川 尚史		歴史基礎文化学系142
7031008	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	中務 真人		歴史基礎文化学系143
7031009	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	金3	下垣 仁志		歴史基礎文化学系144
7031010	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	下垣 仁志		歴史基礎文化学系145

講義コード	科目名		回 生	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
7031011	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	中久保 辰夫		歴史基礎文化学系146
7031012	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	月5	吉井 秀夫, 下垣 仁志, FORTE, Erika		歴史基礎文化学系147
7031015	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	千葉 豊, 伊藤 淳史		歴史基礎文化学系148
7031018	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	向井 佑介		歴史基礎文化学系149
7031019	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	火2	向井 佑介		歴史基礎文化学系150
7040001	考古学	演習I	3-4	4	通年	水4	吉井 秀夫		歴史基礎文化学系151
7042001	考古学	演習II	3-4	4	通年	金4	下垣 仁志		歴史基礎文化学系152
7045001	考古学	演習III	4	4	通年	金1	千葉 豊, 吉井 秀夫, 下垣 仁志		歴史基礎文化学系153
7050001	考古学	講読	2-4	4	通年	月2	下垣 仁志		歴史基礎文化学系154
7060001	考古学	実習	2-4	4	通年	火3, 火4	千葉, 伊藤, 吉井, 下垣		歴史基礎文化学系155

歴史基礎文化学系1

科目ナンバリング		U-LET23 26601 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本史学)(講義) Japanese History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上島 享			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本史学史・日本中世史概論									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、日本史学史概論（主に前期）と日本中世史概論（主に後期）のふたつのテーマを扱う。日本史学史概論では、主に明治以降の近代史学のあゆみを振り返りながら、古代・中世・近世という時期区分論の形成や京都大学における日本史学の特色などについて論じたい。次に、日本中世史概論では、中世社会の形成から解体までの約600年間の歴史をテーマごとに通観する。特に、中世社会の形成と転換を政治・社会・経済・文化・宗教の側面から具体的に論じ、それらの歴史的意義を明確にしたい。随時、自身の最新の研究成果も盛り込む予定である。なお、本講義は、日本史全体の研究入門という役割ももっている。</p>											
【到達目標】											
日本史学および日本中世史に関する基本的な知識を身につけるとともに、新たな歴史認識を獲得するための方法を体得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、自身の研究の進捗状況に応じて、新たなテーマも盛り込む予定である。そのため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考えたい。</p> <p>第1回 本講義の視角と問題意識</p> <p>第2～9回目：日本史学史概論</p> <p>第2回 日本史における時期区分</p> <p>第3回 前近代・明治期における日本史研究</p> <p>第4回 草創期における京都大学の日本史研究</p> <p>第5回 大正・昭和期（戦前）における日本史研究</p> <p>第6回 戦後歴史学と日本史研究</p> <p>第7回 研究視角の転換と新たな潮流</p> <p>第8回 近年の日本史研究の動向と課題</p> <p>第9回 小括</p> <p>第10～30回：日本中世史概論</p> <p>第10回 中世 という時代をどう考えるのか</p> <p>第11回 アジア世界の変化と日本</p> <p>第12回 火災の発生と貴族生活の変化 『源氏物語』の時代</p> <p>第13回 大規模造営の時代</p> <p>第14回 新たな神祇秩序の形成</p> <p>第15回 藤原道長と院政</p> <p>第16回 中世仏教の成立 顕教と密教</p> <p>第17回 荘園制の形成と国家財政</p>											
----- 系共通科目(日本史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(日本史学)(講義)(2)

- 第18回 都鄙間交流の展開
第19回 治承・寿永の内乱の歴史的意義 鎌倉幕府の成立
第20回 小括 古代社会から中世社会へ
- 第21回 鎌倉前期の社会と承久の乱
第22回 平安後期・鎌倉前期文化の特質
第23回 モンゴルインパクトと社会の変化
第24回 宋代禅と中世仏教の転換
第25回 南北朝動乱の歴史的意義
第26回 室町期の政治・社会経済・文化
第27回 応仁の乱の歴史的意義
第28回 戦国期社会へ
第29回 中世における神仏習合の展開
第30回 総括 世界史のなかの日本史

[履修要件]

高等学校等で「日本史B」を履修したこと、もしくはそれと同等の学力を有すること。

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポート(30点)、期末レポート(2回、70点)により評価する。
ともに到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

上島享 『日本中世社会の形成と王権』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0635-4

上島享ほか編 『論点・日本史学』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623093496

その他は必要に応じて指示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で参考文献等を示すので、積極的に読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系2

科目ナンバリング		U-LET24 26701 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(東洋史学)(講義) Oriental History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国専制国家の形成									
【授業の概要・目的】											
<p>秦始皇帝の天下統一（221BC）から清朝宣統帝の退位（1912）までの2000年あまり、中国では、皇帝が官僚を用いて集権的に人民を支配する専制国家が持続した。中国専制国家は自らを「中華」とし周辺諸民族を「四夷」とみなす「中華帝国」であった。「中華帝国」のもとで培われた政治文化は21世紀の現代に至るまでその痕跡をとどめている。本講義では秦の天下統一に至る歴史的推移を概観しつつ、中国専制国家の特質を考える。</p>											
【到達目標】											
中国史研究の最新の知見、および史料の批判的分析の方法論を習得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目を逐次論ずる。											
第1回 「中華帝国」の推移											
第2回 「中華帝国」起源論としての先秦史											
第3回 龍山期・二里头文化：国家の形成											
第4回 夏王朝											
第5回 殷前期・中期											
第6回 殷後期											
第7回 西周前期：周王朝の建国											
第8回 西周中期・後期：周王朝の変容											
第9回 『春秋』											
第10回 『左伝』											
第11回 『繫年』											
第12回 東遷期											
第13回 春秋前期前半：鄭莊公の小覇											
第14回 春秋前期後半：齊桓公の覇権											
第15回 春秋中期：晋文公の覇者體制											
第16回 秦											
第17回 楚											
第18回 呉											
第19回 春秋後期：晋覇の動揺											
第20回 『史記』											
第21回 孔子											
第22回 『竹書紀年』											
第23回 戦国前期：魏文侯・魏武侯											
第24回 戦国中期：魏恵王											
第25回 孟子											
----- 系共通科目(東洋史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(東洋史学)(講義)(2)

- 第26回 戦国後期：秦の独走
第27回 華夷思想
第28回 秦始皇帝の天下統一
第29回 前漢前期の秦史認識
第30回 「封建」と「郡縣」：伝統中国における専制国家批判

* フィードバック方法は授業中に説明する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。

【教科書】

講義資料は担当者が準備する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系3

科目ナンバリング		U-LET25 26801 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西南アジア史学)(講義) West Asian History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム世界史研究入門 An Introduction to the Study of History of the Islamicate World									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、初学者向けにイスラーム世界史の研究に必要な基礎的な知識を説明する。勿論、アフリカ大陸から東南アジアに及ぶ広大なイスラーム世界の歴史すべてを、一人の教員でカバーすることなど出来ない。従って、授業の内容は、イスラーム世界史の理解、研究に最低限必要な事項（たとえばイスラーム教の基本的な教義など）の説明に重点が置かれる。</p> <p>This course aims to explain students of such basic knowledge and skills required to engage in the research activity into history of the Islamicate world as essential teachings of Muslim religion, crucial events in its history, and so on.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界を理解するために最低限必要な専門的知識を獲得し、これにもとづきイスラーム世界の現状について自分自身の見解を持つことが出来る。 ・イスラーム世界史の研究に必要な基礎的知識を獲得し、自ら研究を開始することが出来る。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire necessary knowledge for understanding current picture of the contemporary Muslim world. (2) obtain essential knowledge required for the research activity into history of the Muslim world.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業で扱うトピック、および、各トピックに配当される目安となる授業時間は下記の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入：現代イスラーム世界の概観（2回） イスラーム世界の範囲、人口、ヨーロッパのムスリムなど ・イスラーム教の基礎知識（2回） コーランとハディース、および、その日本語訳書の紹介など ・イスラーム世界史の概観（12回） イスラーム教の成立、イスラーム世界の拡大過程、シーア派とスンナ派の形成、19世紀までのイスラーム世界など ・イスラーム法（3回） イスラーム法と法学派の形成、近代におけるイスラーム法の法典化など ・イスラーム世界史研究入門（3回） 各種工具書の紹介、研究対象となる時代・地域別に必要な言語、辞書、歴史資料の類型など ・ワクフ（2回） ワクフ制度の説明、ワクフ文書の実例紹介など ・知識の伝達（2回） 口承の重要性、マドラサとそのカリキュラムなど ・スーフィズム（2回） 「スーフィズム（イスラーム神秘主義）」の概要、歴史研究におけるスーフィズムなど ・イスラーム法廷（2回） 											
----- 系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)

「法廷文書」とその類型、法廷の役割、裁判のながれ、「法廷文書」の歴史資料としての可能性など

- Contour of the contemporary Islamic world (2 weeks)
- Basic teachings of the Muslim religion (2 weeks): al-Quran and Hadith (the traditions about the words and deeds of Prophet Muhammad)
- Brief explanation of history of the Muslim world (12 weeks)
- Islamic law (3 weeks)
- How to embark on the research into history of the Islamicate world? - dictionaries, tools, and typology of historical sources (3 weeks)
- Waqf (pious donation) (2 weeks)
- The way of transmitting knowledge in the pre-modern Islamicate world - the curriculum of madrasa (2 weeks)
- Sufism in history (2 weeks)
- Sharia court documents (2 weeks)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験（筆記）により評価する。

Final exam

【教科書】

使用しない

担当教員が作成するレジユメを教科書とする。尚、レジユメは紙媒体では配布せず、PDFファイルを配布する。ファイルの受信方法については、初回授業時に説明する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

初回授業を除き、必ず前回の授業内容を復習したうえで授業に臨むこと。また、前回の授業で参考書、関連URL等が提示された場合は、予めこれに目を通したうえで次回の授業に臨むこと。

Students should review class notes before attending each lesson.

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系4

科目ナンバリング		U-LET26 26901 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋史学)(講義) European History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋史学序説									
【授業の概要・目的】											
<p>ヨーロッパ世界では、歴史をどのように認識してきたのであろうか。また、歴史を研究する視角や方法は、時代の変化にともなって、どのように変化してきたのであろうか。この講義では、古代から現代までのヨーロッパにおける歴史認識の歴史を、各時代の全般的な状況をふまえながら概観し、それぞれの時代の歴史叙述の特徴や、歴史研究の方法をめぐる議論を紹介する。本講義をつうじて、古代から現代にいたるヨーロッパ史の流れを把握するとともに、西洋世界における歴史認識の特徴についての理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について考える素材を提供することを目標とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・古代から現代にいたるヨーロッパ史の展開を把握し、各時代の全般的な状況について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識や歴史叙述の歴史についての基本的な知識を習得し、それぞれの時代の特徴について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識の特徴について理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について各自の関心に即して考察する。 											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
以下のようなテーマをとりあげる予定である。											
第I部 イン트로ダクション											
第1回 ふたつの問い 序説の序説											
第2回 図像からみた「ヨーロッパ」のイメージの変遷											
第II部 近代歴史学の成立から現在まで											
第3回 事実は一体どうであったのか レオポルト・フォン・ランケの歴史学											
第4回 ランケの日本的領有(その1) 日本における「西洋史学」の成立											
第5回 ランケの日本的領有(その2) 京都学派とランケ史学											
第6回 歴史のなかに「繰り返すもの」をみる ブルクハルトの歴史観											
第7回 病としての歴史的教養 ニーチェの歴史学批判とブルクハルト											
第8回 人間がつくる歴史、歴史に縛られる人間 マルクスの歴史像											
第9回 脱魔術化する世界 マックス・ウェーバーにとっての西洋近代											
第10回 日本におけるマックス・ウェーバー受容と「西洋史学」											
第11回 人食い鬼としての歴史家 アナール学派の歴史学(その1)											
第12回 歴史的時間の多層性 アナール学派の歴史学(その2)											
第13回 時系列史から表象の歴史学へ アナール学派の歴史学(その3)											
第14回 多元的世界から資本主義世界経済へ 世界システム論の視座											
第15回 17世紀危機論争と日本の「西洋史学」											
----- 系共通科目(西洋史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋史学)(講義)(2)

- 第16回 ポスト冷戦と歴史研究 ポーランドの場合
第17回 国境を越えて歴史認識を議論するには ポーランド・ドイツ「記憶の場」
第18回 感情に歴史はあるか 歴史研究のフロンティア
- 第Ⅲ部 近代歴史学以前のヒストリオグラフィ
- 第19回 自然哲学から歴史叙述へ ヘロドトスの歴史叙述
第20回 可能なかぎり厳密に トウキュディデスの歴史叙述(その1)
第21回 ファロクラシー? トウキュディデスの歴史叙述(その2)
第22回 ローマからみた「世界史」 ポリュビオスの歴史観
第23回 帝国の暗鬱 タキトゥスの描く帝政ローマ
第24回 救済史としての歴史 中世ヨーロッパの歴史叙述(その1)
第25回 過ぎし年月の物語 中世ヨーロッパの歴史叙述(その2)
第26回 普遍史の危機(その1) 人文主義と歴史叙述
第27回 普遍史の危機(その2) 啓蒙期の歴史観
第28回 ふたつの歴史哲学(その1) ヴォルテールの場合
第29回 ふたつの歴史哲学(その2) ヘーゲルの場合
第30回 授業の内容をふまえた総論

フィードバックについては、授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

前期と後期に各1回、レポートの提出を求める。成績の評価は提出されたレポートにもとづいて行う。

授業でとりあげた文献のなかから各受講生が1ないし複数の文献を選択し、その内容について論述することをレポート課題の内容とする。レポートの評価にあたっては、文献の読解の正確さ、ヨーロッパ世界における歴史認識の特徴にかんする理解度、文章表現や論理構成の適切さなどを総合的に評価する。

【教科書】

授業中に資料を配布する。

【参考書等】

(参考書)

服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編 『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』(京都大学学術出版会、2010年) ISBN:978-4-87698-948-5(京都大学における西洋史学研究・教育への導入解説をおこなっており、本講義全体を通じて参考となるであろう。)

金澤周作監修 『論点・西洋史学』(ミネルヴァ書房、2020年) ISBN:978-4-62308-779-2

上記の本以外の参考文献については、テーマに応じて、授業中に紹介する。

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)へ続く

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業のなかで、関連する文献のリストを提示する予定である。受講者には、各自の関心にしたがってリストから文献を選び、読み進めていくことを期待する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系5

科目ナンバリング		U-LET27 17001 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(講義) Archaeology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		考古学概説									
【授業の概要・目的】											
本講義では、考古学を研究するための基本的な概念と方法論を学ぶ(前期)。その上で、弥生時代以降の日本列島を中心とした考古資料の展開とその歴史的意義についての概要を講義する(後期)。											
【到達目標】											
考古学の基本的な概念や方法論について理解できるようになる。 弥生時代以降の日本列島における考古資料とその歴史的意義についての基本的な知識を身につける。											
【授業計画と内容】											
前期											
第1回 考古学とは?											
第2回 考古資料とその特質											
第3回 型式論											
第4回 層位論											
第5回 年代決定論(1)											
第6回 年代決定論(2)											
第7回 年代決定論(3)											
第8回 年代決定論(4)											
第9回 年代決定論(5)											
第10回 考古学と文化											
第11回 考古学と歴史学(1)											
第12回 考古学と歴史学(2)											
第13回 考古学と社会(1)											
第14回 考古学と社会(2)											
第15回 フィードバック											
後期											
第1回 旧石器時代の環境と編年											
第2回 旧石器時代から縄文時代へ											
第3回 縄文文化の展開											
第4回 縄文時代から弥生時代へ											
第5回 弥生時代の年代をめぐって											
第6回 弥生文化のはじまりと拡散											
第7回 弥生時代の生活と社会の諸様相											
第8回 弥生時代における金属器の受容と展開											
第9回 弥生時代から古墳時代へ											
第10回 古墳時代前期の社会											
----- 考古学(講義)(2)へ続く -----											

考古学(講義) (2)

- 第11回 古墳時代中期の社会
第12回 古墳時代後期の社会
第13回 考古学からみた古代国家形成過程
第14回 古墳時代から飛鳥・奈良時代へ
第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（講義の感想・小レポートなど）40%
期末試験60%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

講義内容を整理すると共に、関連する論文・書籍を通して学習を深めて下さい。また、各回講義の感想にコメントすることでも、学習事項の定着・補足をおこないます。

（その他（オフィスアワー等））

Pandaで提出する各回講義の感想を通して、質問などをしてください。また、講義終了後の質問も歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系6

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		行基四十九院の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代の律令体制を研究する上では、制度史研究が生み出してきた幻影を打ち払うためにも、政治・社会・文化の実態を捉えていくことが肝要である。その際に有効な視角の一つとして、寺院史研究を挙げることができる。仏教は律令体制のイデオロギー的基軸であり、寺院・僧尼については多彩な実態的史料が残されている。</p> <p>そこで本講義では、古代を代表する民間布教僧・行基が建立した寺院（いわゆる四十九院）について、文献史学・考古学・歴史地理学の方法による総合的検討を行なう。彼の宗教活動の特質を明らかにするとともに、それを支えた地域社会の実相を見きわめ、律令体制とその時代を深く理解する一助としたい。</p>											
【到達目標】											
日本古代史に関する基本的事項と研究方法を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、理解度に応じて詳しい説明を加えたり、新しい発見を紹介したりすることもあるため、それぞれの内容・回数については柔軟に考えることにする。なお、これらの週数には休日に実施する現地見学を含み、その際には平常授業を振り替える。</p> <p>01～02週 イン트로ダクション</p> <p>03～14週 行基四十九院の個別的検討：下記寺院について1～2週ずつ講じる。 ：生馬院、石凝院、大野寺、狭山池院、昆陽池院、菩提院、菅原寺</p> <p>15週 総括と展望</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末レポートの内容によって評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点（100点満点）の絶対評価で評点する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献や配付資料に基づき、講義内容の理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

現地見学を行なうので、学生教育研究災害傷害保険に必ず加入しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系7

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 谷川 穰			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		明治期の国民教化再考									
【授業の概要・目的】											
かつて政治学者の藤田省三は、戦前期の天皇制国家を「無比の教化国家」と評した。イデオロギー政策が全国に張り巡らされた様子をそう見なせるとしても、その「教化」の成果とは何であるのか、何をもって成功したと言えるのかは、実は一筋縄ではいかない非常な難題でありつづけている。本講義は、近代日本における国民教化政策を、明治初期に遡って改めてとらえなおし、昭和期に及ぶその政策の構造を宗教や教育との関わりとともに実証的に把握することを目指す。											
【到達目標】											
明治期を中心に大正・昭和期へ至る国民教化政策の系譜をたどることで、近代日本社会の形成・変容の歴史に対する理解を深め、視野を広げられるようになる。また多様な史料を用いて実証的に論じる歴史学の手法を習得するとともに、歴史研究の対象と自己との関係がいかにあるべきかを、重層的に考えられるようになる。さらに、講義内容を批判的に再考することで、自らの問題意識を反映した論文作成の基礎能力を得ることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回はイントロダクション、最終回は「まとめ」。以下のトピックを受講生の理解度も勘案しつつ各1~2回講じる予定であるが、受講生の理解に応じて折々組み替えることもある。											
<ul style="list-style-type: none"> ・「御一新」と「宣教使」 ・教部省と神仏合同教化政策 ・大教院体制下の僧侶と教員 ・自由民権運動と「徳育不十分」論 ・国語教科書を通じた国体思想の普及 ・「教育勅語」へのノからの道 ・宗教教育禁止訓令とその実際 ・地方改良と感化救済 ・「児童の世紀」の希望と隘路 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末のレポート（70%）と授業中に実施予定の小レポート（30%）で総合的に判断する。レポートにおいては、自らの見解を論理的、ないし歴史学の手法に即して実証的に論じることができているかを評価基準とする。											
【教科書】											
授業に際してはハンドアウト・史料プリントを配布する予定である。											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生が各自の興味関心にしながら独力で考え実践する。ただし授業において参考文献も示すので、適宜それを読み、自らの考えを深めるよすがとしてもらえればと思う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系8

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世武家社会研究									
【授業の概要・目的】											
<p>近年の日本近世政治史研究は、史料批判をしつつ、一次史料にもとづいて政治過程を描き出す手法が求められる段階に到達している。従来の通説的理解を一次史料を駆使して塗り替えつつ、新たな方法論と論点を獲得する過程を示すことで、日本近世史研究の基礎的方法と面白さを示したい。担当者は、主に武家文書（書状・日記・法令などの一次史料と編纂史料などの二次史料）を用いて、近世前期の政治史を研究している。特に、大名家の政治構造や幕藩関係に着目しつつ、近世国家が如何なる過程を経て形成され、その結果として如何なる構造・特質を有することになったのかを中長期的に考えているところである。</p> <p>今年度は、近世国家の構造・特質を意識しつつ、譜代大名と旗本について、近世成立期を中心に分析をおこなう。</p> <p>授業では、具体的な史料を示し、その解釈を説明しながら論じていくことになる。知識ではなく、授業を通して示される研究手法をこそ学んでもらいたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近世の史料、特に前期の政治史・武家社会に関する史料を読み解くための基礎的能力を獲得する。期末には、自分なりに、個別の史料をとりあげて読み込み、日本史学の方法論に基づいてレポートを作成できるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下に示したテーマ・回数・順番については固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況、また、担当者の研究進展状況や学界動向に伴い、変更がありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.導入 近世大名をどう捉えるか 【2週】 2.譜代大名・旗本研究の先行研究と課題【2週】 3.近世国家における譜代大名・旗本の位置づけについての分析【5週】 4.個別事例からみる譜代大名【5週】 5.まとめと総括【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポートで評価する											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献を読むほか、自分で史料をとりあげて分析し、レポートを作成する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系9

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 吉江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、天皇制とも密接に関わる年号制定のあり方に焦点をあて、年号の制定に不可欠な知識や時代認識の変容を検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、年号制定のあり方に焦点をあてながら、宮廷社会における知識の内実や時代認識の変遷について検討する。まずは天皇制と年号との関係性を整理し、年号を日本の古代国家の歴史の中に位置付ける。次いで、陣定としての年号定がどのように成立したかを考察し、年号の制定過程が定式化していく意義を明らかにする。最後に、年号定の中に登場する年号勅文や難陳といったものを取り上げ、年号の制定に不可欠な知識や時代認識の変遷を検討する。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
イントロダクション（第1回）											
1 問題の所在 年号と天皇制（第2回～第3回）											
2 陣定としての年号定の成立（第4回～第7回）											
3 年号勅文の典拠と文人貴族の知識（第8回～第10回）											
4 年号難陳にみる宮廷社会の時代認識（第11回～第13回）											
総括（第14回）											
《期末試験》											
フィードバック（第15回）											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【成績評価の方法・観点】

授業時間内で実施する小テスト（10点×2回）と学期末に課す期末レポート（80点）の合計素点（100点満点）で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系10

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 吉江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、古代国家の政務のあり方に焦点をあてながら、平安時代における政務の変容と宮廷社会の様相との関係性について検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、古代国家の政務のあり方に焦点をあてながら、平安時代における政務の変容と宮廷社会の様相との関係性について検討する。まずは政務を支えた官僚制について整理し、律令国家における政務の特質を確認する。次いで、「政」と「定」の二つの系統で構成される政務のあり方を素描し、それぞれがどのように変質していったのかを考察する。最後に、政務における法秩序と先例・故実との相互補完関係を検討し、それを踏まえて、平安時代における政治意志の決定方法を概観する。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
イントロダクション（第1回）											
1 問題の所在 政務と官僚制（第2回～第3回）											
2 「政」と「定」の変容（第4回～第7回）											
3 法秩序と先例・故実（第8回～第10回）											
4 撰関期における政治意志の決定方法（第11回～第13回）											
総括（第14回）											
《期末試験》											
フィードバック（第15回）											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト(10点×2回)と学期末に課す期末レポート(80点)の合計素点(100点満点)で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系11

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世の西国と東国									
【授業の概要・目的】											
今期は、日本中世史のうち、院政～鎌倉期の「西国」と「東国」をテーマに、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本中世史に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。											
【授業計画と内容】											
第1回 古代の五畿七道と北陸道 第2回 平氏政権と「六波羅幕府」 第3回 中世都市・京都 第4回 武家地・六波羅 第5回 平氏政権と畿内近国 第6回 治承・寿永の内乱 第7回 寿永二年一〇月宣旨 第8回 国地頭の設置と停廃(1) 第9回 国地頭の設置と停廃(2) 第10回 関東知行国 第11回 承久の乱 第12回 六波羅管国の形成 第13回 鎌倉幕府支配の西国と東国(1) 第14回 鎌倉幕府支配の西国と東国(2) 第15回 学習到達度の評価											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。#160											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも必ず目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系12

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		伊賀国の古代・中世史									
【授業の概要・目的】											
今期は、伊賀国の古代・中世史を題材に、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
伊賀国の古代・中世史に関する認識を深めるとともに、政治史・地域史の分析方法を理解する。また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。											
第1回 伊賀国の地勢とその歴史											
第2回 東大寺領の誕生前史											
第3回 東大寺領の誕生(1)											
第4回 東大寺領の誕生(2)											
第5回 東大寺領の誕生(3)											
第6回 東大寺領の誕生(4)											
第7回 東大寺領の誕生(5)											
第8回 摂関期における伊賀国の荘園公領											
第9回 天喜事件と東大寺領玉滝・黒田荘の確立											
第10回 伊勢・伊賀平氏の濫觴											
第11回 伊勢平氏の雄飛と伊賀平氏											
第12回 保元・平治の乱と伊勢・伊賀国											
第13回 治承・寿永の内乱と伊勢・伊賀平氏の乱											
第14回 鎌倉幕府の成立と三日平氏の乱											
第15回 学習到達度の評価											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。											
【教科書】											
授業中にプリントを配布する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系13

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		18世紀近世社会論									
[授業の概要・目的]											
18世紀とはどのような社会であったのか。石見銀山を支配するために陣屋が置かれた大森町を対象に、「成熟」した近世社会の諸相と、19世紀初頭までも含め「変質」過程について、掛屋を務めた熊谷家を中心に考えていく。授業は講義形式であるが、史料を読み込みという歴史学にとって必要な基礎的力を習得することを目的とする。そのため受講生は事前に配布する史料を読み込んで授業に臨むという姿勢が必要である。											
[到達目標]											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
1, 石見銀山と銀山附幕領(1回) 2, 熊谷家の歴史(3回) 3, 掛屋一件(7回) 4, 幕領支配の変質(3回) 5, まとめと総括(1回) *なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。											
[履修要件]											
一定の漢文読解力を必要とする。											
[成績評価の方法・観点]											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する史料の精読。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系14

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		19世紀近世社会論									
[授業の概要・目的]											
近代への移行がはじまる19世紀とはどのような社会であったのか。石見国西部に配置された幕領飛び地において銅山師を務めた堀家を対象に、近世社会の制度的疲労に対してどのような施策が講じられ、どのような社会が構築されていったのかについて、考えていく。授業は講義形式であるが、史料を読み込みという歴史学にとって必要な基礎的力を習得することを目的とする。そのため受講生は事前に配布する史料を読み込んで授業に臨むという姿勢が必要である。											
[到達目標]											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
1, 石見銀山附幕領の飛び地(2回) 2, 銅山師堀家の歴史(2回) 3, 堀家による「取締」の展開(6回) 4, 長州戦争という「危機」(4回) 5, まとめと総括(1回) *なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。											
[履修要件]											
一定の漢文読解力を必要とする。											
[成績評価の方法・観点]											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する史料の精読。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系15

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合博物館 教授 岩崎 奈緒子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世後期の対外認識 11									
[授業の概要・目的]											
日本における植民地主義の起源をさぐる。											
[到達目標]											
近世後期の世界認識の特質を学び、近代への移行を内在的に考察できる視角を得る。											
[授業計画と内容]											
以下の各項目について講述する。各項目には、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．研究史と本講義の視座【2週】 2．最上徳内のアイヌ描写の特質～松前広長との比較から～【4週】 最上徳内「蝦夷国風俗人情之沙汰」・「渡島筆記」 松前広長「松前志」 3．第一次蝦夷地幕領化政策の特質【2週】 4．本多利明の進歩史観～西川如見・新井白石との比較から～【6週】 本多利明「経世秘策」「西域物語」 西川如見「華夷通商考」 新井白石「采覧異言」「西洋紀聞」「蝦夷志」 5．フィードバック【1週】 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に予習・復習すべきポイントを指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系16

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代天皇制と伝統文化									
【授業の概要・目的】											
<p>「近代天皇制と伝統文化」と題する本講義においては、近代国民国家とともに成立した近代天皇制（天皇をいただく国家の制度）が、同時に、前近代以来の文化を再構築した「伝統文化」を不可欠としたことを論じる。</p> <p>ここでいう「伝統文化」とは、前近代に起原しながらも、近代において欧米/中国との関係性において形成されてきたものである。大嘗祭・陵墓・国花としての桜・古社寺・文化財・古都・郷土愛などを俎上に上げる。また近代天皇制の伝統文化によって、第一次世界大戦後に先進国のなかで少数となった君主制を存続できる大きな原因となったこと、20世紀に地方城下町では藩主に帰依した地方の郷土愛が天皇を重んじる愛国心に包摂されそれが社会の大きな基盤となったこと、そして天皇制における「伝統文化」が極めて現代的な政治課題であること、を論じる。近代天皇制の特質として、記紀神話に基づく、天照大神の血統に代々の天皇が存在する神学についても明らかにする。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「近代天皇制と伝統文化」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近代天皇制と「史実と神話」 ・19世紀の大嘗祭 ・20世紀の大嘗祭 ・19世紀の陵墓 ・20世紀の陵墓 ・伝統文化の創造と近代天皇制 ・皇室の神仏分離と泉涌寺 ・近代皇室の仏教信仰 ・奈良女高師の修学旅行と奈良・京都 ・奈良女高師の修学旅行と伊勢・東京 ・桜の近代 弘前・京都 ・桜の近代 帝国 ・郷土愛と愛国心をつなぐもの ・20世紀の日本の文化財保護と伝統文化 ・現地保存の歴史と課題 											
以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究 天皇就任儀礼・年中行事・文化財』（校倉書房、1997年）

高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

【授業外学修（予習・復習）等】

「近代天皇制と伝統文化」に関わる巡見を希望者で行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系17

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「京都らしさ」の近代と遊廓・花街									
【授業の概要・目的】											
<p>近代京都のイメージとして、貴族文化・国風文化、町衆・桃山文化とともに、現代では「もてなし」の文化が流布する。平安朝の貴族文化が日清・日露戦争期に、織豊・桃山・寛永文化が大正期の「帝国」の時代に顕彰されることには歴史的背景があった。また大正期に南蛮憧憬とともに、合わせ鏡のように祇園や舞妓が「京都らしさ」の表象となることには、文学・美術・学術・映画など総合的な時代思潮があった。後半には、華やかな京都イメージの実態として、大衆社会状況下で全国一、芸娼妓の人口比が多い府県であった京都の売買春観光や遊廓の立地について明らかにする。また娼妓の性病快癒や年季明けへの願いに向き合う、民衆宗教・金光教の布教に迫る。民衆史の方法として、京都や姫路の教師が娼妓の悩み・願いを書き留めた「祈念帳」を分析する。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「京都らしさ」の近代と遊廓・花街」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 明治維新と京都 ・ 1883年の岩倉具視の「京都皇宮保存に関する意見書」と「伝統文化」 ・ 1895年の平安遷都千百年記念祭と平安時代 ・ 1907年、与謝野寛・木下杢太郎・北原白秋・吉井勇『五足の靴』 ・ 1917年、入江波光による延命寺「キリシタン墓碑」の発見 ・ 1920年、茨木・千提寺・ザビエル画像の発見 ・ 大正期、南蛮ブームと南蛮文化研究 ・ 「祇園もの」の文学 ・ 鴨川・東山の周縁性 性・差別・死 ・ 近代京都の花街・遊廓 ・ 大衆社会と売買春の盛行 ・ 民衆宗教としての金光教 ・ 金光教と歌舞伎・映画（マキノ省三・尾上松之助・中村鴈治郎ら） ・ 金光教と遊廓・花街布教 ・ 民衆の肉声に迫る「祈念帳」の史料性 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

高木博志ほか 『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

【授業外学修（予習・復習）等】

「「京都らしさ」の近代と遊廓・花街」に関わる巡見を希望者で行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系18

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本社会運動史									
【授業の概要・目的】											
<p>明治期から敗戦後までの日本社会運動史について講義を行う。本講義の目的は、近現代日本の社会運動について通史的な知識を提示することである。あわせて、日本史・日本思想史において社会運動とその思想が果たした役割を理解することを目指す。本講義への参加によって、日本近現代史を複合的・重層的にとらえる視点を育んでくれるとありがたい。</p>											
【到達目標】											
日本近現代史における社会運動の意義を理解し、基本的な知識を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 自由民権運動 3 「初期社会主義」と労働運動 4 アジア主義と対外硬運動 5 2つの戦争と「大正デモクラシー」 6 コミンテルンの結成と日本社会主義運動 7 国家改造運動 8 無産政党と社会民主主義の形成 9 総力戦とクーデター未遂事件 10 満洲事変と「転向」 国家社会主義の台頭 11 昭和維新運動 テロと叛乱未遂 12 天皇機関説事件と宗教運動 13 反ファシズム統一戦線 14 占領下の民主化運動 15 まとめ <p>なお、COVID19の状況や授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート（40点）と期末レポート（40点）、平常点（20点）等により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 明治篇 』（ちくま新書、2022年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 明治篇 』（ちくま新書、2023年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 大正篇 』（ちくま新書、2022年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 戦前昭和篇 』（ちくま新書、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系19

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学文学研究科 教授 市 大樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジアのなかの日本古代宮都(その2)									
【授業の概要・目的】											
日本古代史の史料は限られているが、発掘調査を通じて、新たな知見が次々と明らかにされつつある。本講義では、既存の文献史料に加え、新たな考古資料も積極的に活用しながら、飛鳥・奈良時代を中心に宮都の展開過程を跡づけ、日本古代国家の形成・展開過程に迫ってみたい。その際、日本古代史を一国史にとどめるのではなく、東アジア史の文脈のなかに位置づけるように注意したい。											
【到達目標】											
資料の取り扱い方法を習得する。日本古代史の主要な論点を理解する。東アジア史の文脈で、日本古代史像をイメージできるようになる。											
【授業計画と内容】											
基本的に下記のように講義を進める予定である。ただし、受講者の理解状況に応じて詳しく説明したり、新たな知見を紹介することなどもあるため、各テーマの内容などについては柔軟に考えることにする。											
<ol style="list-style-type: none"> 1、イントロダクション 古代宮都の概観 2～3、大宝遣唐使のみた唐長安城 4～6、藤原廢都と平城遷都の歩み 7～8、遷都当初における平城宮・京の姿 9～10、交通体系の再編成 11～12、「彷徨の5年間」 13～14、奈良時代後半の平城宮 15、授業全体のまとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末のレポート(70%)と授業中に実施予定の小レポート(30%)で総合的に判断する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
プリントを配布して授業をおこなう。

[参考書等]

(参考書)
川尻秋生他 『シリーズ古代史をひらく 古代の都』(岩波書店, 2019年) ISBN:9784000284967
必要に応じて授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で言及した参考文献を図書館などで見てみる。飛鳥・平城京などの遺跡を訪れてみる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系20

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪公立大学大学院文学研究科 仁木 宏 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世都市史の構造									
【授業の概要・目的】											
<p>日本の中世都市にかかわる従来の研究を前提に、中世都市史の全体構造を提示する。</p> <p>講師（仁木）は、1980年代以降、京都、宗教都市（寺内町、「山の寺」）、港町、城下町など、中世都市全般について研究してきた。文献史料にもとづきつつ、空間のあり方から都市の性格を分析する手法を採用している。考古学や建築史学の成果に学び、歴史地理学的手法に多く拠っている。また地域社会における都市の位置づけ、守護や戦国期地域権力・統一政権と都市とのかかわりについても関心をもって研究を進めてきた。本講義では、こうした研究史の結論として「日本中世都市史」がどのように構想できるのかを概観する。</p> <p>具体的には、まず1980年代までの中世都市研究の成果や論点を確認する。ついで講師が注目してきた都市類型を時期ごとにふりかえるなかで、日本中世都市の特色を明らかにする。都市の社会構造は、権力・領主と都市との相互関係、ならびに住民組織のあり方に規定される。それらはまた、各都市の空間構造に反映される、と考える。</p> <p>中世史研究の課題と都市史研究のかかわりにも言及する。中世史研究、中世・近世移行期研究における都市史研究の重要性についても理解してほしい。</p>											
【到達目標】											
<p>授業で示された具体的な研究事例を学び、その内容を批判的に検証することで、卒業論文執筆に必要な能力が修得できるようになる。つまり、歴史学の基礎をなす実証の方法、先行学説に対する向き合い方、自説を論理的に構成する能力などを獲得することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。</p> <p>第1回 日本中世都市史研究の成果と論点 ; 豊田武、林屋辰三郎、脇田晴子など</p> <p>第2回 日本中世都市史研究の成果と論点 ; 佐々木銀弥、網野善彦など</p> <p>第3回 寺内町 ; 中世都市を「復元」する</p> <p>第4回 寺内町 ; 「寺の論理」と「町（まち）の論理」</p> <p>第5回 京都 ; 都市共同体</p> <p>第6回 京都 ; 権力と都市</p> <p>第7回 京都 ; 首都論</p> <p>第8回 京都 ; 洛中洛外</p> <p>第9回 城下町 ; 「楽市令」批判</p> <p>第10回 城下町 ; 発展段階と多様性</p> <p>第11回 城下町 ; 地域権力・統一権力と地域社会</p> <p>第12回 港町 ; 流通・交通の変化と都市</p> <p>第13回 「山の寺」 ; 宗教と都市</p> <p>第14回 (総括) 日本中世都市史の構造</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポート(50%)と授業のさいに実施予定の小レポート(50%)。
レポートにおいて、自らの見解を論理的あるいは実証的に論じることができているのかを評価基準とする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

仁木 宏 『空間・公・共同体 - 中世都市から近世都市へ - 』(青木書店, 1997年) ISBN:4-250-97021-3

仁木 宏 『戦国時代、村と町のかたち』(山川出版社, 2004年) ISBN:9784634542600

仁木 宏 『京都の都市共同体と権力』(思文閣出版, 2010年) ISBN:978-4-7842-1518-8

その他については、適宜、授業で指示をする。

(関連URL)

<https://researchmap.jp/read0181614>(講師の研究情報を示すリサーチマップ。「書籍等出版物」「論文」のページ参照。)

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・事前に配布する史資料を読んだ上で、授業にのぞむこと。
- ・授業終了後は、授業内容を批判的に検討すること。

(その他(オフィスアワー等))

- ・質問などがあれば、メールにて連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系21

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		金沢大学人間社会研究域 教授 能川 泰治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		大阪城の近現代史 - 近代都市史研究として -									
【授業の概要・目的】											
<p>大阪城を建てたのは誰か。この問いに対しては、誰もが豊臣秀吉を思い浮かべるであろう。そのこと自体は誤りではない。それでは、現在の大阪城天守閣はいつ誰が建てたのか。そして、現在の壮大な石垣と濠はいつ築かれたものなのか。そこに秀吉の築いた大坂城の痕跡は残されているのか。現在の大阪城に関する、これらの基本的な問いに対して正確に答えられる人は、意外に少ないように思われる。本講義はこれらの重要論点を、単なる近現代の城郭史としてではなく、近代都市史研究の視点で、当時の国内外の政治・社会の動向をふまえながら語ることを課題とする。</p>											
【到達目標】											
<p>幕末維新から戦後にかけての日本の近現代史について、近代都市史研究の視点で理解を深める。そして、史料の収集・解読方法をはじめとする歴史学の手法を習得し、歴史遺産の保存と活用についての考え方を深化させる。さらに、講義内容を批判的に再考することで自らの論文作成能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>「大阪城の近現代史」というテーマで、幕末維新时期から高度経済成長期にかけての都市史について、下記のような内容で講義する。</p> <p>第1回 開講ガイダンス 第2回 近代都市史研究の現状と課題 第3回 基礎知識習得のための序論 第4回 幕末維新时期の大阪城 第5回 陸軍史料にみる大阪城 第6回 大阪城天守閣復興（その1） 第7回 大阪城天守閣復興（その2） 第8回 大阪城天守閣復興（その3） 第9回 十五年戦争と大阪城（その1） 第10回 十五年戦争と大阪城（その2） 第11回 戦後の大阪城復興（その1） 第12回 戦後の大阪城復興（その2） 第13回 戦後の大阪城における「豊臣の城」の発見（その1） 第14回 戦後の大阪城における「豊臣の城」の発見（その2） 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。レポートの評価基準については、教室で開示する。

[教科書]

使用しない

毎回の授業で史資料のプリントを配布して解説する。

[参考書等]

(参考書)

岡本良一 『大坂城』 (岩波新書, 1970) ISBN:978-4004131038

渡辺 武 『図説 再見大阪城』 (大阪都市協会, 1983)

木下直之 『わたしの城下町』 (筑摩書房, 2007) ISBN:978-4480098931

[授業外学修(予習・復習)等]

授業は短期間の集中講義形式で行うので、上記3点の参考書のうちいずれか一つだけでも事前に目を通すと、講義内容が理解しやすくなると思われる。

集中講義終了後に大阪城公園と天守閣を各自で実地見学するのが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義のため、オフィスアワーを特に設けることはしない。質問等があれば各回の授業終了後に適宜受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系22

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		甲南大学文学部 教授 東谷 智			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		江戸時代の支配の仕組み									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、江戸時代の藩と大名を素材として、支配の仕組みについて論じる。 参勤交代を行う大名は国元と江戸を往復し、両所に拠点を持つ。江戸と国元、それぞれの拠点での藩政機構のあり方や役割について論じることで、江戸時代の領主について理解を深めたい。講義では、武家文書や地方文書を具体的に示しながら、大名や藩の世界に分け入っていくことから、京都大学総合博物館所蔵の古文書を実験する機会を設けたい。 また大名の儀礼を取り扱うことから、大名御殿の指図（設計図）なども用いるとともに、二条城二の丸御殿の見学など学外講義も行い、空間的把握にも留意したい。</p>											
【到達目標】											
藩と大名について基礎的な知見を得ると共に、史料の基本的な分析が出来るようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 大名の姿 3. 大名の家族と交際 4. 大名の官位と役職 5. 江戸の大名屋敷 6. 江戸城における儀礼 7. 国元における城下町 8. 国元の屋敷と儀礼 9. 家臣団 10. 番方と役方 11. 藩政機構 12. 行政の仕組み 13. 機構改編と藩政改革 14. 支配の広がり 15. まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 40%

期末レポート 60%

[教科書]

授業中に指示する
レジュメを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

史料を読む講義を受講することを心懸けて下さい。

期末レポートでは、具体的に史料を分析してもらう課題を出します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系23

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学人間科学研究科 教授 藤目 ゆき			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		占領軍被害の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>連合占領期は闇の深い時代である。占領期は戦争と軍国主義からの解放と民主化という明るい側面がしきりに強調され、日本占領こそ輝かしい「占領の成功モデル」だといった言説が今も流布されている。だが占領期は、連合占領軍が絶大な権力を行使し、その事故や犯罪のために市民が殺傷されてすら闇にられてしまう恐ろしい時代でもあった。本講義では、一九五〇年代後半におこなわれた調達庁労働組合による大規模調査資料をはじめ、長い年月埋もれてきた史料を用いて、占領軍人身被害の角度から占領史を再考する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)「8・15終戦」論や「占領の成功モデル」といった言説の虚構性を理解する。</p> <p>(2)占領初期から日本の非軍事化・民主化に背反し、日本をアジアの「反共防波堤」として再建する方向へ向かう統治が始まっていることを理解する。</p> <p>(3)朝鮮戦争期に日本が「国連軍」の基地となり、日本が戦域に入ったことによって各地に人身被害が発生していたことを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
各1～3回で以下のテーマとそれに関連する事項について学びます（全15回）。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．研究の意義と方法 2．日本軍武器弾薬処理に伴う人身被害 3．占領軍労務動員と労働災害死傷 4．暴行・傷害・殺人 5．軍事演習被害・朝鮮戦争被害 6．占領軍人身被害補償運動の歴史的意義 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（コメントシートやミニ・レポートの提出、授業中のディスカッションへの積極的参加など）60点、期末レポート40点で評価する。											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

藤目ゆき 『占領軍被害の研究』(六花出版、2021年) ISBN:ISBN978-4-86617-157-9
授業中に配布するレジюмеと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

(参考書)

『占領軍による人身被害調査資料集 編集復刻版』(六花出版、2021年)
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学修(予習・復習)等]

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系24

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学文芸学部 准教授 人見 佐知子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		遊廓・性売買（買売春）の近現代史									
[授業の概要・目的]											
本講義では、一次史料を読み解きながら女性史やジェンダー史の視座から近代日本の性売買や遊廓・公娼制度の歴史を考えていく。性売買は社会構造の歴史的な性格と不可分なので、性売買の歴史を考えることは近代社会の歴史的な特質についての理解を深めることにもつながる。また、近代日本の公娼制度と深く関係する日本軍「慰安婦」問題や、現代の性売買をめぐる諸問題についても考えたい。											
[到達目標]											
近代日本の性売買の歴史を理解するとともに、近代社会の歴史的な特質について考察を深める。また、一次史料を読み解く方法や、女性史・ジェンダー史の射程についても理解を得る。さらに、歴史の理解をふまえて現代社会の諸問題を考察する視座を養う。											
[授業計画と内容]											
1～2 ガイダンス：用語の説明と近代日本の性売買研究の動向について 3～5 娼妓と近代日本の公娼制度：娼妓の手紙を読む 6～8 性売買の拡大とその背景：芸娼妓周旋業者の経営史料を読む 9～10 廃娼運動の展開と性売買の変容：貸座敷経営者の史料を読む 11～13 戦時下の性：日本軍「慰安婦」問題を中心に 14 戦後～現代へ 15 まとめ 受講生の問題関心や理解度によって内容や構成を変更する可能性があります。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業中の小レポート（30点）と期末レポート（70点）により総合的に判断する。											
[教科書]											
使用しない レジュメプリントもしくはPDFファイルを配布予定											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業中に紹介する参考文献を適宜読み、予習・復習をおこなうこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
初回授業時にメールアドレスを示すので、それで連絡すること。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系25

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 西山 伸			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「京都大学百二十五年史」を読む 2									
【授業の概要・目的】											
1897年に創立された京都大学は、2022年に創立百二十五周年を迎えた。その間、1947年までは京都帝国大学、2004年までは京都大学、以後は国立大学法人京都大学と位置づけを変化させながら研究教育活動を行ってきた。その軌跡を一次資料に基づいて考察することによって、近現代日本史・高等教育史のなかで京都大学がいかなる存在であったのかを検証することを本講義の目的とする。今年度は、戦後改革から現在までを対象とする。											
【到達目標】											
現代日本における高等教育の概要を把握し、一次資料に基づいて京都大学の歴史を理解する。合わせて日本現代史資料を読み込む能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 戦後高等教育改革 3 新制京都大学の発足 4 京都大学における一般教育 5 占領期の学生 6 高度経済成長下の拡大 7 京大紛争(1) 8 京大紛争(2) 9 諸問題への対応と学生生活 10 教育・研究体制の再編 11 大学改革(1) 12 大学改革(2) 13 国立大学法人京都大学の発足 14 京都大学の現在 15 まとめ(フィードバック) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の授業終了時に提出するコメントとレポート試験により評価する。その割合はコメント30%、レポート70%とする。											
【教科書】											
使用しない											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

京都大学百二十五年史編集委員会編 『京都大学百二十五年史』（京都大学学術出版会、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で提示する参考文献、一次資料の典拠などを各自調べること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系26

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		名古屋大学人文学研究科 教授 梶原 義実			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代寺院の考古学									
【授業の概要・目的】											
飛鳥時代に日本に仏教が導入されたことは、日本の古代社会の変革の大きな要因となった。本講義では、古代寺院の立地や遺構、出土瓦やその生産組織等の考古学的分析から、とくに地域社会において、古代寺院の造営がどのようなインパクトを与えたのかについて考察することを目的とする。											
【到達目標】											
考古学からみた古代寺院についての知識を取得することを目標とするとともに、授業の内容はもとより、講義者の研究のあり方が、自身の研究姿勢を考えるなんらかの手掛かりになることを期待している。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画に沿って講義を進める。ただし、授業の進度や受講生の興味。理解度によって、適宜変更もあり得る。											
第1回 インTRODクシヨン：本講義における視座											
第2回～第8回 国分寺造瓦組織に関する研究											
第2回：国分寺の考古学的研究史と問題の所在											
第3回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（1）西海道											
第4回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（2）東海道											
第5回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（3）山陽道・山陰道・南海道											
第6回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（4）東山道・北陸道											
第7回：国分寺の造営に関する考察（1）－造営の進捗状況－											
第8回：国分寺の造営に関する考察（2）－造瓦組織の編成－											
第9回～第14回 古代寺院に関する景観論的研究											
第9回：古代寺院の立地研究と問題の所在											
第10回：古代寺院の立地に関する事例研究（1）畿内以東											
第11回：古代寺院の立地に関する事例研究（2）畿内以西											
第11回：古代寺院の選地傾向についての考察											
第12回：霊峰信仰・水源祭祀と古代寺院											
第13回：古墳・祖先信仰と古代寺院											
第14回：古代寺院をめぐる景観構成											
第15回（補論） 日本考古学をめぐる現状と課題への私見											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによって評価する(100%)。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日本考古学一般や、歴史考古学についての諸文献を読んでおくことが望ましい。また、遺跡や博物館に足を運び、本授業で扱う古代瓦などを含め、考古遺物を直接みておくことを推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

下記メールアドレスまで連絡してください。
kajiwara.yoshimitsu.j1@f.mail.nagoya-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系27

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		20世紀日本技術社会史									
【授業の概要・目的】											
特殊講義の目的は、社会、政治、テクノロジーが相互に関連していることを学生に紹介することである。特に、社会変革のために技術がどのように考案されたか、また、政治思想や社会がどのように技術を構築したかに焦点を当てる。											
【到達目標】											
技術の社会史・思想史の基本をなす日本近代社会における資本主義構造の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点から歴史を吟味し、考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション 第2回 現在の技術観 第3回～第4回 技術社会史の理論的基礎 第一部 帝国 第5回 鉄筋コンクリートと近代のアジア 第6回 情報通信と帝国 第7回 飛行機と戦争 第二部 戦後日本 第8回 鉄道と労働 第9回 家電と女性 第10回 車と家族 第三部 情報化社会の日本 第11回 エネルギーと環境 第12回 コンピュータと子供 第13回 ロボットと国民 第14回 まとめ 期末試験 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
討論への積極的な参加（10点）、報告（1回、40点）、試験（50点）により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系28

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本の左翼のグローバルヒストリー									
【授業の概要・目的】											
日本の左翼は、社会変革の過程において、社会的・思想的な影響力を持つ存在であった。本講演では、20世紀の革命と反革命、帝国主義と脱植民地化、冷戦といったグローバルな文脈の中で、日本の左翼がどのように発展してきたかを概観することを目的としている。											
【到達目標】											
グローバルヒストリーの枠組みを使って、日本の左翼の政治の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点から社会運動・思想史を吟味し、考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション 第2回 「レフト」というのは何か 第3回 ヨーロッパの資本主義と社会主義 第4回 ロシアの帝国と日本のアナキスト 第5回 帝大セツルメント 第6回 インターナショナルと日本の共産主義 第7回 帝国とレフト 第8回 脱植民地化と戦後のレフト 第9回 女性労働運動 第10回 国鉄労働組 第11回 ベ平連 第12回 1968の第三世界反帝国主義 第13回 日本のヒッピーとカリフォルニア 第14回 まとめ 期末試験 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
討論への積極的な参加(10点)、報告(1回、40点)、試験(50点)により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系29

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学文化学部 客員教授 山本 雅和			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
[授業の概要・目的]											
入力して下さい											
[到達目標]											
入力して下さい											
[授業計画と内容]											
入力して下さい											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
入力して下さい											
[教科書]											
未定											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
入力して下さい											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系30

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本古代史総合演習									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代史に関する基礎的素養を身につけるため、(1)『続日本紀』の精読、(2)基本論文の選読、の二つのことを毎週行なう。</p> <p>『続日本紀』は六国史の第二にあたり、文武元年(697)～延暦十年(791)の歴史を記した書物である。政治・社会・文化に関するさまざまな記事が立てられ、奈良時代史のみならず日本前近代史の基本史料と言ってよい。本演習では毎週、輪読形式でその精読を行なう。それとともに、毎週一本ずつ日本古代史の基本論文を選読する。</p>											
【到達目標】											
日本古代史に関する基礎的知識と史料読解能力を得る。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 日本古代史および『続日本紀』の概要を説明する。使用すべき辞書・工具書、および基本的な概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回：『続日本紀』の精読と基本論文の選読 『続日本紀』を天平十四年紀から精読し、内容について討論する。記事の内容と担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね『新訂増補国史大系』の半ページ程度を読み進めることになる。調査が十分でなかった部分については、補足調査を課す。これに加え、毎週一本ずつ日本古代史の基本論文を選読する。出席者は論文を入手し、800字の要約文を作成して提出する。授業では各論文の視角・方法や研究史的意義などを解説する。</p> <p>第30回：まとめ 史料精読・論文選読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について討論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(40点)と年度末レポート(60点)による。											
----- 日本史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

日本史学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

『新訂増補国史大系 続日本紀』（吉川弘文館）（前篇・後篇の2冊とも必ず購入すること）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・史料の次回読み進める部分を必ず読んでおく。
- ・論文を読み、800字要約を作成する。意見・質問を付加することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系31

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上島 享			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本中世史総合演習									
【授業の概要・目的】											
<p>日本中世史に関する基礎的知識と史料読解能力を身につけるため、 中世荘園史料の精読 基本論文の精読 を行う。</p> <p>では、丹波国大山荘の史料（『兵庫県史』所収）をとりあげ、一字一句を正確に解釈するとともに、その背景にある政治・社会・文化に関する基礎知識を身につけることを目的とする。</p> <p>では、最新の研究成果を含めて、日本中世史の重要論文を精選し、その論点を整理し、研究上の意義や課題について議論を行う。</p>											
【到達目標】											
日本中世史に関する基礎的知識と史料読解能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 丹波国大山荘およびその史料に関する概要を説明する。また、使用すべき辞書や参考書を紹介し、今後の授業の進め方と発表の方法を周知したうえで、受講生の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回 丹波国大山荘史料と基本論文の精読 毎回、数通の文書を精読する。担当者はレジュメを作成し、史料を解釈するとともに、当該史料が発給された政治・社会・文化的背景を考察する。また、基本論文の精読では、論文の要旨と疑問点等を確認して、研究史の意義と今後の課題を考察する。授業では、担当者の発表にもとづき、参加者全員で議論を深めることとする。</p> <p>第30回 まとめ 史料・論文の精読の成果をまとめ、今後の課題を討論する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（40点）と年度末レポート（60点）による。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 日本史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

日本史学(演習Ⅰ)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・史料を精読し、解釈した上で、授業にのぞむこと。
- ・論文を熟読し、疑問点をあげ、成果と課題を考察した上で、授業にのぞむこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系32

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習 I) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 谷川 穰			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		明治初期の建白書を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>大部の史料集『明治建白書集成』に収録されている、明治初期に政府へ提出された建白書を精読する。本演習では、単なる「教科書的政治史」にとうてい収まらないその多様な内容を読み解くこと、それに関わる発表を求める。それらをつうじて、近代日本社会の形成過程を考察・討議すること、その際史料を精緻に読むとともに関連史料の探索という基礎的技量を高めること、あくまで史料に基づく実証的な歴史研究の能力を涵養すること、などを目的とする。また必要に応じて、日本近代史の学術論文・専門書を適宜選読する場合もある。</p>											
【到達目標】											
<p>史料を「読解」する能力（ただ字面を正確に読む、だけではない）を高めるとともに、関連する多様なレベルの史料や研究文献を積極的に探索する技量を身につける。直接に扱う対象は明治初期であるけれども、それを起点として展開する近代日本の諸問題を捉えその後を展望することで、各自の問題意識を深められるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回はガイダンスと出席者の担当史料の決定。発表は単位取得の絶対条件であり、したがって担当箇所を決める初回の出席は必須となる。 第2回～第30回は各自の発表にあてる予定である。 なお出席者の状況等を勘案し、発表の進め方を検討しなおしたり、新たな史料群の読解へ発展的に変更したりする可能性もある。また、適宜研究文献の選読なども行っていきたい。</p>											
【履修要件】											
日本近代史に関する通史的知識をある程度備えておくことが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（発表と、議論への積極的参加。50％）、および期末レポート（50％）。 レポートにおいては、史料の正確な読みと先行研究の探索を踏まえて、自らの見解を論理的、ないし歴史学的手法に即して実証的に論じることができているかを評価基準とする。</p>											
----- 日本史学(演習 I)(2)へ続く -----											

日本史学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

『明治建白書集成』の中から、適宜選んでコピーしたものを第1回に共有する。今年度は明治8（1875）年の建白書を読み進める予定である。ただし、受講生の多寡やその理解の度合い等に応じて、他の手稿史料（明治中期の名望家による日記）や刊本史料（明治後期の都市社会を扱った雑誌記事）へ変更する可能性もある。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

基本的に受講生が各自独力で考え実践すべきことだが、授業で得た断片的知識を立体的・有機的につなげるよう、日本近代史に関する通史的著作や学術的研究成果に親しむこと。

（その他（オフィスアワー等））

演習授業は学部生にとって学修の軸となるものですから、基本的に全て出席することを前提としています。無断欠席等についての扱いは授業初回に申し伝えます。

討議の場では、史料に基づいた丁寧な問い、根源的な問いを積極的に発することが求められます。十分な予習をもとに、拙くとも多くのクエスチョンを携えて出席すること。何の疑問も持たずに史料の字面をなぞる、あるいは先行研究を鵜呑みにする「素直さ」からは脱却されますように。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系33

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習 I) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近世の史料（「池田光政日記」）を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>近世（概ね16世紀末～19世紀前半）の一般的な史料の読解方法と、史料から歴史を考察する方法や視点を学ぶ。具体的には、近世前期の大名である池田光政（備前岡山31.5万石）の記した日記を取り上げるが、近世の多くの史料に応用しうる視角と方法論を学ぶことになる。</p> <p>史料の文脈を把握し、登場人物や事項を調査し、当該時期の時代状況をふまえつつ、史料を正確に読解できるようにする。加えて、近世国家や社会のしくみについての基礎的理解を深める。なお、テキストは活字史料を用いるが、原文書との対照作業も合わせて行う。</p>											
【到達目標】											
<p>近世史料の読解、人物や地名、歴史用語などの調べ方についての基本的な技術を習得する。また、幕藩関係や藩の政治組織のあり方を中心に、近世国家・社会についての理解を深め、歴史分析の方法についてさまざまな示唆を得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回目 導入 史料の概要、報告の仕方、関連資料について説明する。</p> <p>第2回目～29回目 報告と討議 受講者が、あらかじめ担当部分を調べてきて報告し、討議する。</p> <p>第30回目 まとめ 成果をまとめ、残された課題や疑問点について確認する。</p> <p>初回の授業で担当を決め、予習方法などについて説明するので必ず出席すること。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業での分担部分の個人報告、討議への参加度、提出物、レポートを総合して評価）で評価する。											
----- 日本史学(演習 I)(2)へ続く -----											

日本史学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない

使用する史料は授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中、特に第1回目に詳しく説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系34

科目ナンバリング		U-LET23 46642 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習II) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司 文学研究科 教授 上島 享 文学研究科 教授 谷川 穰 文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	木1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本史上の諸問題									
[授業の概要・目的]											
卒業論文の提出予定者全員が、論文の構想や研究内容を発表し、学史を踏まえたテーマ設定、史料の調査・分析、立論や論述などについて、基本的な方法を修得する。											
[到達目標]											
独自の史料分析と学史理解に立脚した、優れた卒業論文を作成する。											
[授業計画と内容]											
4～5月には論文のテーマを考え、先行研究や論拠とされた基本史料について調査する。7月末には第1回の中間発表を行なう。先行研究の到達点と問題点を把握し、研究課題を明確にすることが発表の最低ラインであるが、史料の調査・読解を独自に進めていることが望まれる。9月末には第2回の中間発表を行なう。史料の分析を深め、独自の論点を見出し、論文の骨格を見定めていることが求められる。											
第1回 卒業論文作成にあたっての概要説明 第2回 希望テーマの提出 第3～4回 各自のテーマの内容・研究史・史料などについての発表 第5～15回 各自の研究内容の中間発表(7月末に集中形式で行なう) 第16～29回 各自の研究内容の発表(9月末に集中形式で行なう) 第30回 論文執筆要領の説明											
[履修要件]											
今年度卒業論文提出を予定する者は、全員かならず受講すること(昨年度提出せず、留年した場合にも、再度の履修が必要)。											
[成績評価の方法・観点]											
中間発表と卒業論文の総合評価による。											
[教科書]											
使用しない											
----- 日本史学(演習II)(2)へ続く -----											

日本史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

先行研究を読破・整理するとともに、さまざまな史料を調査・分析した内容をまとめて中間報告を行ない、最終的に卒業論文に結実させる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系35

科目ナンバリング		U-LET23 26646 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(基礎演習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司 文学研究科 教授 上島 享 文学研究科 教授 谷川 穰 文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	木5	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		日本史の古代から近代まで									
[授業の概要・目的]											
日本史研究の基本となる論文を精読し、それぞれの内容について全員で討論する。古代・中世・近世・近代の各時代に関する基本的知識を培うとともに、研究の動向やその到達点・課題を理解することを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の各時代に関する基本的知識を身につける。 ・日本史研究の動向を把握し、到達点と課題を理解する。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：イントロダクション 授業の進め方と準備・発表の方法を周知し、全員の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回：論文精読と議論 毎回2編ずつの論文を精読する。発表担当者はレジュメを作成して、論文の要旨および意見・疑問点などを報告する。他の出席者も必ず論文を読み、意見・疑問点をまとめてくる。その上で各論文について全員で討論する。</p> <p>第30回：まとめ</p>											
[履修要件]											
できる限り2回生時に履修すること。											
[成績評価の方法・観点]											
<p>平常点評価を行なう。</p> <p>その際には準備・参加状況(50点)、担当回の報告内容(20点)、討論の参加状況(30点)を組み合わせで評価する。</p> <p>なお、古代・中世・近世・近現代のすべての時代の授業に出席していることを要件とする。</p>											
[教科書]											
<p>使用しない</p> <p>テキストとなる論文は、前もって配布する。</p>											
----- 日本史学(基礎演習)(2)へ続く -----											

日本史学(基礎演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

論文の末尾などに示された参考文献を参照すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

各回取り上げる論文を必ず読み、意見・疑問点をまとめる。また、参考文献として挙げられた先行研究も併せ読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系36

科目ナンバリング		U-LET23 26650 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(講読) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 笹川 尚紀			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		平安時代政治社会史史料									
【授業の概要・目的】											
<p>竹内理三編『平安遺文』に収められた古文書を精読し、古代の日本人が書いた漢文史料の解釈法を学ぶ。</p> <p>『平安遺文』は、平安時代の古文書などを年代順に編集した史料集である。本講読では、同書に収められた古文書のうち、担当教員が選択したものを読み進めていく。担当者は、割りあてられた古文書の書き下し・現代語訳・語句説明・考察などをおこなう。</p>											
【到達目標】											
日本史の基礎史料の読解力、ならびに基本的な研究方法を修得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 講読でとりあげる史料の概要を説明する。また、使用すべき辞書・工具書、および基本的な概説書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。そのうえで、各出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回：『平安遺文』の精読 『平安遺文』から担当教員が選択した古文書を精読し、内容について討議をおこなう。史料の内容と担当者の読解力によって、進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、一人2回は報告できるようにする。担当者は、割りあてられた部分について、くわしく調べ発表する。</p> <p>第30回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について、全員で議論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充にあてることもある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価とする。割合は発表が70%、授業中の発言・応答が30%。担当箇所を決めるため、初回の出席が必須となる。											
----- 日本史学(講読)(2)へ続く -----											

日本史学(講読)(2)

[教科書]

使用しない
テキストを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次回読み進めるものを精読しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系37

科目ナンバリング		U-LET23 26650 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(講読) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩 文学研究科 教授 谷川 穰			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		近世・近代の史料を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>日本近世史・近代史の史料を輪読し、近世・近代の基本的な史料の読解方法を学ぶ。</p> <p>前期は近世史の史料を扱う(担当:三宅)。具体的には、近世の京都の町に回達された町触を読む。町触は近世都市史研究に関する基礎的史料であるとともに、近世社会の構造・特質を理解する上でも格好の教材である。京都町触の輪読を通して、いわゆる「候文」と呼ばれる近世史の基本的な史料の読解の基礎を学ぶことになる。</p> <p>後期は近代史の史料を扱う(担当:谷川)。具体的には、明治時代の政治家に宛てた書簡、または歴史家が記した日記を読む予定である。書簡や日記という個人的文書を精読し、また折々新聞など関連史料の探索・読解も重ねることで、多種多様に存在する近代史料の基礎的読解力を身につけ、近代日本における政治や社会の諸側面を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
日本史、特に近世史・近代史に関する基礎的な史料の読解力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 前期イントロダクション 取り上げる史料の概要を説明し、近世史において使用すべき辞書・基本的な概説書・注釈書などを紹介する。そして、授業の進め方と準備・発表の方法を周知し、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第14回 近世史料の輪読 割り当てられた担当者が、担当部分の史料を読み下し、解釈する。そのために必要な語句・人名・地名などを調べ、報告する。記事の内容と担当者の習熟度・参加人数によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、概ね一回の授業で1～2名に報告してもらうことになる。</p> <p>第15回 前期まとめ 輪読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p> <p>第16回 後期イントロダクション 取り上げる史料の概要を説明し、近代史において使用すべき辞書・基本的な概説書・注釈書などを紹介する。そして、授業の進め方と準備・発表の方法を周知し、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第17回～第29回 近代史料の輪読 割り当てられた担当者が、担当部分の史料を読み下し、解釈する。そのために必要な語句・人名・地名などを調べ、報告する。記事の内容と担当者の習熟度・参加人数によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、概ね一回の授業で1～2名に報告してもらうことになる。</p>											
----- 日本史学(講読)(2)へ続く -----											

日本史学(講読)(2)

第30回 後期まとめ

輪読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読できなかった場合、この回を補充に充てることもある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（概ね授業中の応答が30%、発表が70%）。とくに重要視される発表は単位取得の絶対条件であり、したがって担当箇所を決める前期・後期それぞれの初回授業の出席は必須である。

【教科書】

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

発表予定者以外にも、授業中に発言を求めるので、毎回該当箇所を精読してくる。辞書・人名辞典・年表などを傍らにおき、語句・文意・背景などを各自がきちんと事前に調べて史料に向き合うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系38

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩 文学研究科 助教 松井 直人			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		近世の古文書（初級）									
[授業の概要・目的]											
古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、京都大学総合博物館所蔵の種々の近世史料を解読することを通して、くずし字を正確に読み取り、記載内容を理解する力を養成するとともに、近世文書の種類や性格を理解し、近世文書を適切に扱う技能を獲得することを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を習得する。 ・近世文書を適切に扱う技能を獲得する。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション 対象とする文書の性格、使用すべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。</p> <p>第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の近代文書の解読 主に教員2名とティーチングアシスタント1名により、マンツーマン方式で指導する。</p> <p>第15回 総括と期末試験</p>											
[履修要件]											
原則として日本史学専修に在籍する学生を対象とする。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（50％）と実習終了時に行う試験(50％)で総合的に判断する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する。『くずし字用例辞典』『くずし字解読辞典』などは各自で用意すること。</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業での指示に従い、近世文書に関する知識を自学すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系39

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩 文学研究科 助教 松井 直人			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		近世の古文書（中級）									
[授業の概要・目的]											
古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、京都大学総合博物館所蔵の種々の近世史料を熟覧・解読することを通して、くずし字を正確に解読し、記載内容を理解する力を高めるとともに、近世文書の特徴についてさらに理解を深め、近世文書を適切に扱う技能に熟達することを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を向上させる。 ・近世文書の特徴について理解を深める。 ・近世文書を適切に扱う技能をより高める。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション 対象とする文書の性格、使用すべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。</p> <p>第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の近代文書の解読 主に教員2名、ティーチングアシスタント1名により、マンツーマン方式で指導する。</p> <p>第15回 総括と期末試験</p>											
[履修要件]											
原則として日本史学専修に在籍する学生を対象とする。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（50％）と実習終了時に行う試験(50％)で総合的に判断する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する。『くずし字用例辞典』『くずし字解読辞典』などは各自で用意すること。</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業での指示に従い、近世文書に関する知識を自学すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系40

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 助教		谷川 穰 松井 直人	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		近代の古文書（初級）									
[授業の概要・目的]											
古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、京都大学総合博物館所蔵の明治期の書簡史料等を解読することを通して、くずし字を正確に読み取り、記載内容を理解する力を養成するとともに、近代文書の種類や性格を理解し、近代文書を適切に扱う技能を獲得することを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を習得する。 ・近代文書を適切に扱う技能を獲得する。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション 対象とする文書の性格、使用するべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。</p> <p>第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の近代文書の解読 主に教員2名とティーチングアシスタント1名により、マンツーマン方式で指導する。</p> <p>第15回 総括と期末試験</p>											
[履修要件]											
原則として日本史学専修に在籍する学生を対象とする。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（50％）と実習終了時に行う試験（50％）を総合的に判断する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する 『くずし字解読辞典』『くずし字用例辞典』などは各自で用意すること。</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業での指示に従い、近代文書に関する知識を自学すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系41

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 助教		谷川 穰 松井 直人	
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		近代の古文書（中級）									
【授業の概要・目的】											
古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、「近代の古文書（初級）」受講済の学生を対象として、初級で養った能力を向上させることを目的とする。京都大学総合博物館所蔵の明治期の書簡史料等を熟覧・解読することを通して、くずし字を正確に解読し、記載内容を理解する力を高めるとともに、近代文書の特徴についてさらに理解を深め、近代文書を適切に扱う技能に熟達することを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を向上させる。 ・近代文書の特徴について理解を深める。 ・近代文書を適切に扱う技能をより高める。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 対象とする文書の性格、使用するべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。</p> <p>第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の近代文書の解読 主に教員2名、ティーチングアシスタント1名により、マンツーマン方式で指導する。</p> <p>第15回 総括と期末試験</p>											
【履修要件】											
原則として日本史学専修に在籍する学生、「近代の古文書（初級）」受講済の学生を対象とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50％）と実習終了時に行う試験（50％）を総合的に判断する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する 『くずし字解読辞典』『くずし字用例辞典』などは各自で用意すること。</p>											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業での指示に従い、近代文書に関する知識を自学すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系42

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		史記研究序説									
[授業の概要・目的]											
<p>史書には二つの側面がある。第一は、史料としての側面であり、この場合は史書に保存された情報が問題となる。第二は、著作としての側面であり、これは史書そのものが問題となる。『史記』についても、この二つの側面に対応した研究がそれぞれ可能である。本講義では、『史記』の著作として側面に重点を置き、その編次を手掛かりに、『史記』の歴史認識について考えてみたい。</p>											
[到達目標]											
中国古代史研究の最新の知見、および史料の批判的分析の方法論を習得する。											
[授業計画と内容]											
<p>以下の項目を逐次論ずる。</p> <p>第1回 序論 第2～第3回 本紀 第4～第5回 表 第6～第7回 書 第8～第9回 世家 第10～第11回 列伝 第12～第14回 太史公自序 第15回 結論</p> <p>* フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業中に別途指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系43

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		孔子とその時代									
[授業の概要・目的]											
孔子伝復元の試みには、今日に至るまで膨大な蓄積があるが、実のところ『史記』孔子世家の記述を恣意的に取捨選択するものであったに過ぎない。これらの研究は先秦時代の歴史の実態および『史記』の編纂上の特徴に対する理解が決定的に不十分であった。このような批判的視点に立ちつつ、春秋時代後期の歴史を概観し、『史記』孔子世家を解析することで、孔子伝復元の可能性を追求する。											
[到達目標]											
先秦史研究の最新の知見、および中国古代文献の批判的分析の方法論を習得する。											
[授業計画と内容]											
以下の項目を逐次論ずる。 第1回 序論 第2回～第4回 前半生(551-505BC) 第5回 陽虎専権(505-501BC) 第6回～第7回 短期間の政治的成功(501-498BC) 第8回～第10回 諸国遍歴(497-484BC) 第11回～第13回 晩年(484-479BC) 第14回～第15回 結論 *フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート(30点)と期末レポート(70点)に基づき総合的に評価する。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系44

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		1 6世紀におけるカトリックの世界的展開									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、17世紀初頭にフランスのイエズス会士ピエール・ド・ジャリックが著した『東インドならびにポルトガル人が発見した他国に起きた記憶すべき出来事の歴史』を読む。彼自身は海外に布教に行ったことはないが、ポルトガル王の布教保護権下にあるアジア、アフリカ、そしてブラジルにおける同胞の活動を編集したのが本書である。本書は各地の布教報告をまとめた二次的な編纂物ではあるが、ポルトガル人とイエズス会の活動を俯瞰的に見るには恰好の材料である（ただし、もっとも布教に成功した日本はザビエルとの関連で言及されるだけである）。本書を概観することで、16世紀におけるキリスト教の世界布教をトータルに把握することを試みる。</p>											
【到達目標】											
<p>近世におけるカトリックの世界的展開について知ることができる。 近世世界の「半分」の概観が得られる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、導入 2、ポルトガル人のインド到達、ザビエルの到来 3、ザビエル、さらに東へ向かう 4、インド西岸 5、インド東岸、東南アジア 6、アフリカ 7、ブラジル 8、ホルムズ 9、ムガル 10、中国 以上が16世紀、以下は17世紀初頭 11、インド 12、アフリカ、ブラジル 13、インド 14、東南アジア、中国 15、フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによる評価。レポートはこの授業で紹介する史料ないし研究にもとづいて作成してもらう。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の受講に備えること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系45

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		1 7世紀オランダにおける世界認識									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、17世紀に世界に打って出たオランダ人が、異世界をどのように認識し、表象したかを、地図や地誌に即して読み解く。彼らがイエズス会などの既存の知識と自ら獲得した知識をいかに編集し、それを主にオランダ語で公刊して公衆に届けたのかを見る。この世界認識はタイムラグにおいて、江戸日本にももたらされたものである。</p>											
【到達目標】											
<p>1, 近世の西欧人の世界認識を知ることができる。 2, 出版と知の関係について考察を深めることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1, 導入 2, エルゼビア社のレス・プブリカ・シリーズ 3, ブラウの地図 4, ヨハネス・デ・ラート『新世界』 5, ラートとグロティウスのアメリカ人起源論争 6, オルフエルト・ダッペルの『アフリカ』 7, ダッペル『シナ』 8, ダッペル『アジア』 9, ダッペル『シリア』 10, ダッペル『メソポタミア』 11, コルネリウス・ハザルト『世界教会史』 12, アルヌルドゥス・モンタヌス『日本』 13, モンタヌス『アメリカ』 14, 出版業者ヤコブ・ファン・マース 15, フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートで評価する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読むことによって、問題点を確認するとともに次週の授業に備える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系46

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 小野寺 史郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		第一次世界大戦と東アジア									
【授業の概要・目的】											
今から百年あまり前に起きた第一次世界大戦は、それまでの西洋世界の在り方を一変させたが、同時に日本を含む東アジアにも大きな変化をもたらした。近年の研究成果を踏まえ、第一次世界大戦が東アジアの国際関係および政治・社会に及ぼした影響について解説する。											
【到達目標】											
東アジア、とくに中国の歴史と現状について、資料と先行研究にもとづいて考察する視座と方法を獲得し、批判的に理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 第一次世界大戦の概要 第3回 開戦時の東アジア 第4回 第一次世界大戦の勃発と東アジアの反応 第5回 二十一か条要求とその影響 第6回 第一次世界大戦の東アジア社会への影響 第7回 中華民国の「以工代兵」政策 第8回 中華民国の参戦問題と国内対立 第9回 シベリア戦争と東アジア 第10回 第一次世界大戦の終結と東アジアの反応 第11回 パリ講和会議と東アジアの反応(1) 第12回 パリ講和会議と東アジアの反応(2) 第13回 戦間期の国際関係と東アジア 第14回 まとめ 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点40%とレポート60%による。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

あらかじめ資料を配付する場合はこれを読んだ上で出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学研究科 准教授 箱田 恵子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代中国と仲裁裁判制度 米国の影響を中心に									
[授業の概要・目的]											
<p>この講義では、清末中国における近代国際関係の受容に関し、特に仲裁裁判制度の受容について解説する。いくつかの外交交渉を取り上げ、清朝の国際法や仲裁裁判制度に対する認識・態度を講義する。その際、仲裁裁判の推進に積極的であり、東アジアでの独自の使命を自任していた米国が果たした役割や影響について検討し、近代の米中関係を新たな視点から論じる。米国の影響のもと清末中国で形成された独特な仲裁裁判観は、近年の中国の国際秩序に対する姿勢の背景を理解するてがかりとなる。また、日露戦争後の満洲における日本の勢力拡大に対し清朝は仲裁裁判を利用して抵抗を試みるが、それを報じて国際世論を喚起したタイムズ通信員モリソンの言動について、当時の米国の新聞・雑誌にみえる中国論との関係を検討する。それにより、20世紀初めの中国の変化とそれが米国においていかに評価され、東アジアの国際関係にいかなる影響を与えたのかを講義する。</p>											
[到達目標]											
<p>受講生はまず、清末中国をめぐる国際関係を理解する。さらに近代において世界的に注目されていた仲裁裁判制度が、清朝の外交や東アジアの国際関係にいかなる影響を与えたのか、米国の果たした役割や影響を中心に学び、特殊な関係と呼ばれる近代の米中関係が、中国における近代国際関係の受容や近代外交の形成に与えた影響を理解する。それと同時に、中国における変化を米国のメディアがいかに評価して報じたのか、またその報道が中国をめぐる国際関係にいかなる影響を与えたのかについても理解する。以上により、近代中国と諸外国との関係をより広い視野から考察することができる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に以下の予定にそって講義を進めるが、講義の進み具合や受講生の理解などに応じて、講義内容の順序や同じテーマの講義回数を調整することがある。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1.近代における仲裁裁判制度の発展 2.東アジアの伝統的国際秩序 3.清朝の対外体制の変化 4.中国における仲裁裁判制度の紹介と米国の果たした役割 5.華工虐待問題をめぐる対スペイン交渉と米国の自由移民原則の影響 6.台湾出兵と清朝の「公評」提起 7.琉球処分と仲裁裁判：グラント元大統領の調停と日清の対応 8.ベトナムをめぐる清仏紛争と仲裁裁判：駐清米国公使ヤングの役割 9.清末中国の新聞雑誌にみる仲裁裁判観 10.20世紀初めにおける中国をめぐる国際関係の変化：米国の門戸開放宣言 11.日露戦争後の中国の変化 12.第二辰丸事件と清朝による仲裁裁判提起：満洲問題への波及 13.モリソンの活動とモリソンパンフレット：米国の雑誌記事の分析を中心に 14.モリソンの活動と中国への影響 											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

15.フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加状況（20点）、学期末のレポート（80点）で成績を評価する。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
毎回資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）
岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』（ミネルヴァ書房，2019年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書の関連項目を事前に読むなどして、授業で扱う外交交渉に関する基礎知識をもって授業に臨むようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

現在の中国や日本にも関わる問題なので、参考文献を読むだけでなく、ニュース報道などにも注意してみてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学国際関係学部 須藤 瑞代 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ジェンダーからみる近代中国史									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、19世紀末から20世紀前半にかけての中国におけるジェンダー秩序の変容について分析する。具体的には以下の三つに重点をおいて講義を行う。</p> <p>(1) 思想：国家形成と密接に関連して論じられた「女権」や、前近代から続く節婦烈女の褒揚に関する議論を分析し、ジェンダー秩序の変容がどのように展開したのかを考察する。</p> <p>(2) メディア：『婦女雑誌』『上海婦女』など複数の女性向け雑誌をとりあげ、各雑誌の特徴をふまえて、どのような議論が展開され、中国におけるジェンダー秩序にいかなる影響を与えたのかを分析する。</p> <p>(3) 日中女性交流：日本人女性記者竹中繁は1926～27年の半年間にわたり中国の各都市を旅行し、女性たちと交流した。その中には、宋慶齡など著名な女性から、女性教員や女性記者などほぼ無名の人々も含まれる。竹中繁の視線を通して当時の中国社会を考察し、日中関係史の中で女性間のつながりがどのような意味を持つものであったのか、双方の社会のジェンダー秩序の変容とどのようにかかわっていったのかを考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>近代における中国社会の変容について、ジェンダーに着目して分析できるようになる。</p> <p>近代中国女性史に関する基本的知識を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 「女権」をめぐる議論</p> <p>第3回 「女権」をめぐる議論</p> <p>第4回 女子学生の登場</p> <p>第5回 「節婦烈女」の褒揚</p> <p>第6回 『婦女雑誌』にみる日本女性像</p> <p>第7回 日本人女性記者竹中繁の半生</p> <p>第8回 竹中繁のみた中国(1926～1927年)</p> <p>第9回 竹中繁のみた中国(1926～1927年)</p> <p>第10回 竹中繁のみた中国(1926～1927年)</p> <p>第11回 竹中繁による日中双方向レポート</p> <p>第12回 竹中繁の中国再訪・市川房枝とともに(1940年)</p> <p>第13回 『女声』にみる日本女性の不在</p> <p>第14回 『上海婦女』にみる「つながる」女性たち</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義への参加度：評価60%（毎回の授業でのコメントシート提出も含む）
レポート：評価40%（各自の問題関心に基づいてテーマを設定し、レポートにまとめる）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

須藤瑞代『中国「女権」概念の変容 清末民初の人権とジェンダー』（研文出版、2007年）
村田雄二郎編『「婦女雑誌」からみる近代中国女性』（研文出版、2005年）
山崎真紀子・石川照子・須藤瑞代・藤井敦子・姚毅『女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本
一九二六#12316二七年の中国旅行日記を中心に』（研文出版、2018年）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業時に適宜参考資料等を指示するので、必ず目を通して理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

担当教員への連絡は電子メール（mizuyos@cc.kyoto-su.ac.jp）で行ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 辻 正博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		官制に見る唐宋変革									
【授業の概要・目的】											
<p>古代日本にも多様な形で影響を与えた唐代の官制（『大唐六典』に示される官制。以下「『六典』官制」とよぶ）は8～10世紀にかけて大きく変貌する。この講義では、中国史上の一大変革期とされるこの時期の官制について、その変化のありさまを明らかにしたいと思う。当時の社会・経済の激変に対して官制が（後追いではあるが）いかに対応していったのかを認識することが目標である。</p>											
【到達目標】											
<p>唐から宋にかけて官制がいかなる変貌を遂げたのかを認識することにより、唐宋変革の実相を、その背景となった歴史的背景もふくめて総合的に理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について、おおむね1～2週をめぐりに講義を進める。 なお、初回授業（ガイダンス）時に、学期の授業計画および講義で必要とされる諸事項について説明を行うので、必ず出席すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『六典』官制前史 <ol style="list-style-type: none"> (1) 魏晉の官制 中央官制と地方官制 (2) 開皇官制の成立 隋の文帝による官制整備 2. 『六典』官制の成立 <ol style="list-style-type: none"> (1) 唐初の官制 隋制との関係 (2) 『六典』官制と『周礼』 官制史における則天武后時代の意義 3. 使職と『六典』官制 <ol style="list-style-type: none"> (1) 使職設置と地方統治の深化 財務使職と節度使・觀察使 (2) 使職と『六典』官制 重複とすみ分け 4. 唐末五代の官制 『六典』官制の形骸化 5. 宋初の官制 元豊官制への道 6. まとめとフィードバック 											
【履修要件】											
<p>中国史、特に魏晉～五代・宋までのおおまかな流れについて理解しておくこと（受講前に、概説書を一読しておくこと）。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポートの成績による。(100%)

レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対して、高い評価を与えます。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

講義資料を適宜配布する。事前に以下の文献を熟読しておくことで、講義内容の理解が進むであろう。

辻 正博：隋唐国制の特質（荒川正晴ほか編『岩波講座 世界歴史』第7巻、岩波書店、2022年所収）

[授業外学修（予習・復習）等]

中国史に関する概説書を事前に一読しておくこと。

(その他（オフィスアワー等）)

事前に連絡して日時を調整すること。（学生番号、氏名を明記してメールしてください。）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系50

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 辻 正博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		唐史研究史料論									
【授業の概要・目的】											
<p>「唐史研究史料論」 今期の講義では、唐史研究で用いる史料について、使用するテキスト（版本）に焦点を当てて論じる。いわゆる「通行本」がいかなる経緯を経てその地位を得たのか、通行本のテキストに問題はないのか、などの点について検討を加えてゆきたい。</p>											
【到達目標】											
唐史研究史料に関する基礎的な知識を身につけるとともに、史料の伝存・整理事情についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマについて、おおよそ1～2週を目処に講義を進める。</p> <p>0. ガイダンス……学期の授業計画および講義で必要とされる諸事項について説明する</p> <p>1. 正史 『旧唐書』と『新唐書』</p> <p>2. 『資治通鑑』 『通鑑考異』と胡三省注</p> <p>3. 『通典』 政書（1）</p> <p>4. 『文献通考』 政書（2）</p> <p>5. 『唐会要』 政書（3）</p> <p>6. 『大唐六典』</p> <p>7. 『唐大詔令集』 唐代の詔勅</p> <p>8. 『冊府元龜』 類書について</p> <p>9. 石刻史料</p> <p>10. 敦煌・トルファン出土文献</p> <p>11. まとめとフィードバック</p>											
【履修要件】											
中国史、特に秦漢～隋唐史に関する基本的な事項（概説レベル）を理解していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポートの成績による。（100％） レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。 よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対して、高い評価を与えます。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処します。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
必要に応じてプリントを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

講義中に紹介した参考文献を自主的に閲読し、講義内容に対する理解を各自深めること。

(その他(オフィスアワー等))

事前に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系51

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮末期政治外交史の研究(19世紀)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮末期(19世紀)における政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界との関連において朝鮮史への理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 純祖朝の政局 第2講 辛酉の教難 第3講 殉教者の群像 第4講 僻派の失脚 第5講 洪景来の乱 第6講 洪景来の乱・続き 第7講 在地社会の構図 第8講 イギリス船の来航 第9講 ソウルの食糧暴動 第10講 王世子の代理聴政 第11講 己亥の教難 第12講 己亥の教難・続き 第13講 アヘン戦争の風聞 第14講 フランス船の来航 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。

[教科書]

使用しない
講読史料、レジュメ等のプリントは事前に PandA で配信し、授業当日にも同じものを配布する。

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社)ISBN:9784634462137
姜在彦『朝鮮半島史』(角川ソフィア文庫)ISBN:9784044006419
矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』(塙書房)ISBN:9784827331110
矢木毅『韓国の世界遺産 宗廟』(臨川書店)ISBN:9784653043713

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系52

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮末期政治外交史の研究(19世紀)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮末期(19世紀)における政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界との関連において朝鮮史への理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 辛亥禮論 第2講 党争の再燃 第3講 三南の民乱 第4講 三政の紊亂 第5講 大院君の執政 第6講 丙寅の教難 第7講 丙寅洋擾 第8講 辛未洋擾 第9講 朝鮮の開國 第10講 壬午軍乱 第11講 日清戦争 第12講 大韓帝国 第13講 日露戦争 第14講 韓国併合 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信し、授業当日にも同じものを配布する。

[参考書等]

(参考書)

姜在彦 『朝鮮半島史』 (角川ソフィア文庫) ISBN:9784044006419

森万佑子 『韓国併合：大韓帝国の成立から崩壊まで』 (中公新書) ISBN:9784121027122

李成市ほか 『朝鮮史1』 (山川出版社) ISBN:9784634462137

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系53

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
<p>マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と講読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業ではマンジュ語入門と基礎文法、史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。</p>												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ</p>												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点												
[教科書]												
<p>使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。</p>												
[参考書等]												
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>												
[授業外学修(予習・復習)等]												
授業前の予習を必須とする。												
(その他(オフィスアワー等))												
<p>質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>												

歴史基礎文化学系54

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と購読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業では史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点												
[教科書]												
読解史料は、授業の際にプリントを配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学修(予習・復習)等]												
授業前の予習を必須とする。												
(その他(オフィスアワー等))												
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

歴史基礎文化学系55

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 太田 出			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国近世・近代の謠言とパニック									
【授業の概要・目的】											
<p>ここ数年、トランプ前大統領やコロナワクチン、直近ではウクライナ戦争をめぐって、ネット上などでフェイクニュース、すなわち虚構とも事実ともつかない言説が流布していることは周知のとおりである。本講義では、歴史学の側からこうしたフェイクニュースなど流言を読み解こうと試みる。ある人にとっては、それは紛れもない事実であるが、また別の人にとっては全く信用ならない明らかかなでたらめであり、何が事実で、何が虚構なのかの選別を極めて難しくしている。そうした言説が人びとにいかに影響を与えたのかを歴史学的に検証する。</p>											
【到達目標】											
<p>中国近世・近代の流言とパニックをめぐる人々の恐怖心や信仰心、風俗・習慣などについて基本的な知識を身につけるとともに、古典漢文や中国語史料の読み方・使い方を学び、自ら史料分析を行う能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス 第2回：現代のフェイクニュース（一）：トランプ前大統領とQアノン 第3回：現代のフェイクニュース（二）：コロナワクチンをめぐる言説 第4回：光緒2年（1876）における謠言とパニックの発生 第5回：江南デルタの謠言・パニックをめぐる恐怖と冷笑 第6回：「国を挙げて狂うがごとし」 農民たちのパニック 第7回：他の地域への謠言の伝播とそのメカニズム 第8回：明代江南デルタの謠言・パニックと白蓮教 第9回：満州人王朝・清朝と割辯 第10回：他の地域にも伝播した謠言 第11回：紙人の謠言から見た王朝国家と社会 第12回：中国社会の底流にある恐怖と慣習 第13回：紙人を利用した王朝国家の支配の正当化 第14回：中華民国期の紙人の謠言・パニック 第15回：まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点40%、授業中の小テストおよび期末テスト60%で総合的に判定する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にレジユメを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に参考すべき論文や図書を紹介するから、それらを予習として読んだうえで授業に参加するか、あるいは復習として授業後に読んで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系56

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 太田 出			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		遙かなる中国山西省 宣撫官笠実の長い日中戦争									
【授業の概要・目的】											
<p>日本はまもなく戦後80周年を迎えようとしており、戦前・戦中・戦後を歩いてきた人びとの経験も次第に「歴史」となりつつあるとともに、過去のなかに忘却・風化されようとしている。中国大陸で勃発した日中戦争もそうした一側面を持っており、白や黒では表現できないさまざまな状況が現実には発生していたが、それを語る人は急速に減少している。本講義では、元宣撫官であり中国山西省で日中戦争を経験した笠実に焦点をあて、その日中戦争の長い道のりを振り返りながら、現代の我々が日中戦争から何を学ぶべきなのかを問い直す。</p>											
【到達目標】											
<p>日中戦争に関する歴史文献とフィールドワーク、歴史学・社会学といった各学問のディシプリンを乗り越えた研究手法を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス 第2回：日中戦争に関する基礎知識（一） 占領地行政と宣撫官 第3回：日中戦争に関する基礎知識（二） いつ日中戦争は終了したのか 第4回：帰ってきた宣撫官笠実 第5回：宣撫廟（国際霊廟）（一） 宣撫廟訪問 第6回：宣撫廟（国際霊廟）（二） 宣撫廟・宣撫官をめぐるフィールドワーク 第7回：宣撫官笠実（一） 1945年まで 第8回：宣撫官笠実（二） 1945年以降 第9回：宣撫総班長八木沼丈夫 第10回：漢人宣撫官陳一徳と宣撫工作（一） 外国人宣撫官 第11回：漢人宣撫官陳一徳と宣撫工作（二） 占領地行政と愛路運動 第12回：山西残留と城野宏（一） 城野の履歴 第13回：山西残留と城野宏（二） 残留の理念「日本人の立場」 第14回：それぞれの戦後日本 第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業中に行う小テスト50%（持ち込み不可）、平常点50%で総合的に評価を行なう。詳細は初回授業にて説明する。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
詳細は初回の授業において説明するので、必ず出席すること。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書のほか、参考にすべき論文や図書を紹介するから、それらを予習として読んだうえで授業に参加して欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系57

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 宮宅 潔			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代制度史と出土文字史料									
[授業の概要・目的]											
近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。											
[到達目標]											
新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス 2．中国簡牘史料の発見史 3．楚簡の概観 4．秦簡の概観 5．墓葬出土漢簡の概観 6．辺境出土漢簡の概観 											
初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。											
[履修要件]											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポート（50点）と平常点（授業内での質問・発言、小テスト 50点）を総合して評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 宮宅 潔			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		法廷から眺めた中国古代									
【授業の概要・目的】											
近年公表されている中国古代の出土文字史料のうち、裁判に関連する文献（睡虎地秦簡「封診式」、岳麓書院所蔵簡や張家山漢簡の裁判記録）を活用し、統一秦の頃から漢代初期に至るまでの、政治や社会の状況について講義する。まず、裁判が行われる場やその手続きについて整理し、制度の特徴や限界を明らかにする。そのうえで秦～漢初の政治状況、たとえば統一に伴う混乱や、皇帝と諸侯王との関係などについて、いくつかトピックを取りあげて講義する。さらに家族関係や地域社会の様子など、当時の社会についても紹介する。こうした考察を通じて、中国古代の専制国家の姿について、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につけたうえで、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の進め方 (2) 史料について 2. 法廷の風景 <ol style="list-style-type: none"> (1) 裁きの場 (2) 裁きの進行 (3) 冤罪の苦しみ 3. 秦～漢初の諸相 <ol style="list-style-type: none"> (1) 秦と楚 (2) 占領民の反乱 (3) 逃亡者たち 4. 家族と社会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 親子関係 (2) 夫婦関係 (3) 里の風景 <p>ガイダンスの後、各単元を1～2回に分けて講義する。</p>											
【履修要件】											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(50点)に平常点(50点 授業への参加態度、特に授業内での質問・発言)を加味して評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モノからみる中国近代史									
【授業の概要・目的】											
<p>近年における中国の台頭は中国の経済成長が原因であり、中国経済の動向は中国の今後を決めるだろう。中国近代史も戦争や革命などに目を奪われがちであるが、実は中国経済の動向に大きく左右されてきた。本講義では、中国近代経済史上、重要な役割を果たした商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆の生産・流通およびそれが中国近代史に与えた影響について概説し、新たな視点から中国近代史を理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>中国の「伝統的」な経済の仕組みをふまえつつ、中国近代において重要な商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆がどのような地域で誰によって生産され、どのような人々の手を経て流通していたのかを把握する。そのうえで、これらの商品の貿易が中国経済のみならず、中国の政治外交・社会に与えた影響について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国経済の仕組み 3. 中国茶貿易の発展 4. アジア間競争と中国茶の行方 5. アヘン貿易の発展 6. 外国アヘンと中国アヘン 7. 禁煙運動とその後 8. 清代中国の米流通 9. 動乱と外国米 10. 羊毛貿易の勃興 11. 羊毛貿易の展開 12. 清代大豆貿易の展開 13. 満洲大豆貿易の発展と東北地域の変動 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- 東洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系60

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近代中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展したことによって、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割は年々大きくなってきている。例えば、企業が海外のある地域の企業と提携する場合、現地の言語・習慣に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わってしまう可能性が高い。新型コロナウイルスによって人間の移動が著しく制限されたことによって、様々なビジネスに支障が生じたため、仲介者の果たしてきた役割はあらためて注目されている。本講義はこうした仲介者の意義について、近代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>開港場とそれ以外の地域（内地）を媒介するという近代中国における仲介者の役割を把握したうえで、前近代の中国や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 明代商業の発展と牙行 3. 東アジア海域交流と仲介者 4. 明代後期～清代中期の海上貿易の展開と仲介者 5. 外国人商人と買弁（1） 6. 外国人商人と買弁（2） 7. 苦力貿易の盛衰と客頭（1） 8. 苦力貿易の盛衰と客頭（2） 9. 開港場貿易の発展と行棧（1） 10. 開港場貿易の発展と行棧（2） 11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡 12. 前近代東南アジア海域の仲介者 13. 前近代地中海世界の仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系61

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古松 崇志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
【授業の概要・目的】											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
【到達目標】											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス（1回） 2．石刻学・石刻研究史の概観（2～3回） 3．石刻史料へのアクセス（伝統的な石刻文献を含めた典籍文献、新出史料集、ウェブ上のデータベースなど）概観（2～3回） 4．石刻史料積読（7～9回） 5．まとめ（1回） <p>積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p> <p>基本的に以上の予定にしたがって講義を進めるが、回数など変更の可能性があることに留意されたい。</p>											
【履修要件】											
実際に漢文で書かれた石刻史料を会読するので、漢文文献史料を自分で読む意欲を持っていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

積読史料は、プリントなどを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

積読する史料を指定してからは、受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系62

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古松 崇志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
[授業の概要・目的]											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
[到達目標]											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
[授業計画と内容]											
1．ガイダンス（1回） 2．石刻史料精読（13回） 3．まとめ（1回） 精読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。											
[履修要件]											
前期からつづけて履修することが望ましい。実際に漢文で書かれた石刻史料を会読するので、漢文文献史料を自分で読む意欲を持っていること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
[教科書]											
精読史料は、プリントなどを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
精読する史料は受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系63

科目ナンバリング		U-LET24 36741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系64

科目ナンバリング		U-LET24 36741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系65

科目ナンバリング		U-LET24 36743 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		崇禎帝と大臣の召対を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>明朝最後の皇帝である崇禎帝の初年は、それまでの苛烈な党争が終焉を告げたものの、政局が安定したわけではなく、満洲族の攻勢、李自成の反乱によって内憂外患の状況にあった。</p> <p>本授業では、明末の党争に関する重要な史料とされている金日升の『頌天臚筆』巻3・4に収録される「召対」（宮中における皇帝と大臣の問答の記録）を通して、崇禎初年の政治情勢と皇帝のそれに対する姿勢を読み取る。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文テキストを読むことで、自力で句読する能力が身に付く。 2、明末の政治情勢を知ることができる。 3、皇帝と大臣の政治空間を把握することができる。 											
[授業計画と内容]											
<p>進度については、受講生次第なので、確言できない。</p> <p>第1回 史料の性質について説明</p> <p>第2～8回 巻3（崇禎元年六月二十七日～十月二日）</p> <p>第9～14回 巻4（崇禎元年十月十一日～二年正月二十八日）</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
テキストはこちらから配布する。											
[参考書等]											
<p>（参考書）</p> <p>授業中に紹介する</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前もってテキストを配布するので、十分に予習しておくこと。担当者には訳稿の提出を求める。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系66

科目ナンバリング		U-LET24 36743 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『明清档案』									
【授業の概要・目的】											
<p>中央研究院が刊行中の『明清档案』に収録されている清朝順治年間の文書を読み、中国制圧の過程を清朝サイドから見てゆく。明清の王朝交代は、日本では「華夷変態」として、またヨーロッパでも宣教師によってそのニュースが紹介されるなど、大事件として受けとめられていた。しかし、明末清初の動乱に関する歴史記述とそれを承けた研究は、満州人王朝の世界史的意義が強調されるようになった今日においてもなお「敗者」の側に片寄りすぎている。あらためてこの史料集を読むことで、勝者の視点から冷静に支配確立の過程を見てゆきたい。</p> <p>今年は順治七年(1650)の档案を読む。清朝支配の試行錯誤の過程を、文書を通じてたどってゆく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文に取り組むことで、自力で句読を行う能力を身につけることができる。 2、行政文書の形態に習熟できる。 3、清朝の中国征服史について理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>1回『明清档案』のテキストの性格を説明し、昨年読んだところについて言及しながら、順治年間前半の政治情勢について解説する。1コマにつき一、二本を読む予定。</p> <p>2～14回でとりあげる予定の档案のテーマは以下のとおり。</p> <p>討賊、招撫、重罪犯、漕運、広東・湖広・陝西情勢、偽王、虎害、残酷な県令、奸細、致仕願い、黄河水害など。</p> <p>15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 東洋史学(演習II) (2)へ続く -----											

東洋史学(演習II) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

1週間前に当番を決めて、文書1本ないしその一部を担当してもらうので、それについては責任をもって予習すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系67

科目ナンバリング		U-LET24 36749 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党史の諸問題に挑む									
【授業の概要・目的】											
<p>結党100年を迎えた中国共産党の歩みは、そのまま近百年の激動の中国史の歩みに重なると言ってよい。その間、反体制の革命政党から巨大政権党へと党の姿は大きく変わったが、脈々と受け継がれている政党文化や属性も少なくない。また、その革命運動の歴史には多くの謎が残されている。この授業では1920年代初めの党の結成から抗日戦争 中華人民共和国樹立までの30年ほどの歴史の中からいくつかのトピックを選び出し、その概要や背景、意義、影響などについて受講生に割り振って調べてもらい、それを授業で発表し討議することで党の歴史のアウトラインをたどることにする。</p>											
【到達目標】											
<p>中国共産党の基本的史実を知り、その歴史資料がどのように形作られ、どのような特質を持っているかを知ることによって、政党の歩みから中国現代史をたどるという視点を獲得し、合わせて革命の時代と言われる中国の20世紀の歴史の流れをトータルに理解できるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1-2回 基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。 3-14回 1920年前後の結党から1949年の中華人民共和国樹立に至る30年ほどの中で、大きな歴史事件となった事項に関し、受講生がそれぞれに割り当てられた時期・主題について、毎回順番に報告を行い、討議を行う。受講者の人数にもよるが、以下のトピックが割り当てられることになるだろう。中国共産党の結成、国共合作、北伐と国共合作の終焉、農村革命、中華ソヴィエト共和国、長征、抗日民族統一戦線、抗日戦争、延安整風運動、国共内戦とその帰趨、中国革命とソ連・コミンテルン 15回 中国革命と中国共産党について、総合討論を行う。</p>											
【履修要件】											
<p>配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(50点)と期末レポート(50点)の総合的評価による。</p>											
----- 東洋史学(演習)(2)へ続く -----											

東洋史学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系68

科目ナンバリング		U-LET24 36749 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党史の諸問題に挑む(続)									
【授業の概要・目的】											
<p>結党100年を迎えた中国共産党の歩みは、そのまま近百年の激動の中国史の歩みに重なると言ってよい。その間、反体制の革命政党から巨大政権党へと党の姿は大きく変わったが、脈々と受け継がれている政党文化や属性も少なくない。また、その革命運動の歴史には多くの謎が残されている。この授業では1949年の中華人民共和国樹立から2000年ごろまでの半世紀の歴史の中からいくつかのトピックを選び出し、その概要や背景、意義、影響などについて受講生に割り振って調べてもらい、それを授業で発表し討議することで、党の歴史のアウトラインをたどることとする。</p>											
【到達目標】											
<p>中国共産党の基本的史実を知り、その歴史資料がどのように形作られ、どのような特質を持っているかを知ることによって、政党の歩みから中国現代史をたどるという視点を獲得し、合わせて革命の時代と言われる中国の20世紀の歴史の流れをトータルに理解できるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1-2回 基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。 3-14回 1949年の中華人民共和国建国から2000年ごろに至る半世紀の中で、大きな歴史事件となった事項に関し、受講生がそれぞれに割り当てられた時期・主題について、毎回順番に報告を行い、討議を行う。受講者の人数にもよるが、以下のトピックが割り当てられることになるだろう。人民共和国建国と朝鮮戦争、過渡期の総路線と社会主義経済の建設、土地改革と農村、中国の計画経済、百家争鳴・百花齊放と反右派闘争、大躍進政策と大飢饉、文化大革命、林彪・四人組の失脚、華国鋒体勢、改革・開放政策と民主化運動、「歴史決議」と党の歴史認識。</p>											
【履修要件】											
<p>配布される関連資料の中には中国語資料も多い。また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(50点)と期末レポート(50点)の総合的評価による。</p>											
----- 東洋史学(演習) (2)へ続く -----											

東洋史学(演習) (2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系69

科目ナンバリング		U-LET24 36749 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 小野寺 史郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国近現代史に関する文献の講読									
[授業の概要・目的]											
近現代中国の歴史を扱った、研究史上重要な論文や研究書を講読する。特に、それらがどのような文脈や史料状況、問題意識の下で書かれたものか、論証の過程や結論にどのような特徴があるか、同分野の研究の展開にどのような影響を及ぼしたか、といった点から検討を加えることで、それらの研究のもつ意味についての理解を深める。											
[到達目標]											
中国近現代史に関する文献の読解能力および理解力を身につける。											
[授業計画と内容]											
近現代中国の政治・社会・思想に関する研究書を読解し、問題の所在や証明の方法について検討する。 テキストの担当を決め、担当者が内容要約と解説、コメントを行い、それについて参加者全員で討議を行う。 第1回 ガイダンス、授業の進め方や分担の決定。 第2回 教員によるテキスト講読 第3-14回 受講者によるテキスト講読 第15回 フィードバック また、必要に応じて論文作成に向けての研究報告とコメント、討議を行う。											
[履修要件]											
中国語を履修していることが望ましいが必須ではない。											
[成績評価の方法・観点]											
報告に関する評価および授業への取り組みなどの平常点。											
[教科書]											
授業中に指示する PandAに掲載する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
演習という形式上、担当者だけでなく、受講者全員に相応の予習・復習を要求する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系70

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『資治通鑑』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>長らく為政者の必読書とされてきた『資治通鑑』を読むことによって、漢文読解の力を養うだけでなく、中国の知識人が歴史から何を読み取ろうとしたかを考える機会を提供する。</p> <p>なお、本授業は東洋史学専修進学者の必修単位であるので、東洋史に進もうと考えている者は2回生のうちに履修しておくのが望ましい。</p> <p>他の専修に進む予定の人も歓迎する。「最後の漢文学習の機会」と考えて参加してほしい。</p>											
【到達目標】											
<p>1、漢文史書の読解力の基礎ができる。</p> <p>2、漢文史書の叙述のスタイルを体得できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>今年北齊王朝の興亡を主として取り上げる。なお、南朝の動向については華北の情勢と関係しない限りは取り上げない。授業の進捗については受講生次第なので、明確に計画を示すことはできないが、次のように予定している。</p> <p>1回 『資治通鑑』がいかに読まれてきたかを紹介 2～5回 高歡の死(544～547) 6～10回 北齊王朝の成立(548～550) 11～16回 北周王朝の成立(551～556) 17～20回 高演の専権、即位(557～560) 21～26回 和士開の専権(561～571) 27～29回 北齊の末年(572～577) 30回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----											

東洋史学(講読)(2)

[教科書]

プリントしたものを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

一回前の授業で次の授業分のテキストを配布する(A3用紙1枚分)ので、そのなかの担当分について予習し、あらかじめ訳稿を提出すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系71

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
Ricardo Padrón, The Indies of the Setting Sun: How Early Modern Spain Mapped the Far East as the Transpacific Westを読む。近世における環太平洋世界は、マニラ・アカプルコ間のガレオン交易の重要性はよく知られているものの、環大西洋世界に比べると、「世界史の裏街道」的な扱いを受けてきた。「スペインの湖」ともいわれている近世の太平洋世界の東岸(アメリカ)と西岸(アジア)の研究は別々に行われてきた。しかし、近年、スペイン人の「西進」運動が注目を集めつつあり、本書もそうした潮流に棹差すものである。副題が示すように、アジアを極東としてではなく、スペインの西進運動の極ととらえ、スペイン人の「西に対する想像力」を論じる本書を読むことで、東進するポルトガル人とは、別の想像力のあり様が浮上してくるだろう。											
【到達目標】											
1, 正確な英文和訳の力を身に着けることができる。 2, スペイン人の西進の世界史的意味を考えることができる。											
【授業計画と内容】											
1回 導入 2-4回 第1章 カーテンの背後の地図 5-8回 第2章 南海の夢 9-11回 第3章 太平洋の悪夢 12-14回 第4章 難破した野望 15-17回 第5章 太平洋の征服 18-21回 第6章 シナの位置 22-24回 第7章 日没する国 25-28回 第8章 紙の帝国の不安 29回 結論 30回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。											
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----											

東洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業で配布する

[参考書等]

(参考書)

特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

担当範囲の英文を日本語訳して提出する。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系72

科目ナンバリング		U-LET24 36761 PJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(実習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授		吉本 道雅 中砂 明德	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		東洋史学(実習)									
[授業の概要・目的]											
全教員3人によるリレー担当。東洋史学研究のうち、特に中国史の全時代にわたって、先行研究をどのようにして探るか、古文書をどのようにあつかうか、コンピューターを研究にどのように用いるかなど実習させるとともに、自らテーマを選んで「小論文」を発表させる。											
[到達目標]											
東洋史の卒論を書くにあたって基本的なスキルを習得できるようにする。											
[授業計画と内容]											
第1回～第30回： 主に3回生を対象とする。東洋史学専修の全教員が1年間にわたり、東洋史学を研究するにあたってのツール(工具)を教え、学生に実際に使わせる。先行研究の探し方を教えるとともに、優れた先行研究を選んで学生に読ませ、先人の達成したものを学びつつ、自らがおかれた研究状況を考えさせる。 11月頃までにツールの修得や先行研究の選読を終え、自らの問題関心に即した研究テーマを選ばせる。それまでに修得した知識と方法をもとにして、自ら先行研究を探し、あるいは原典の一部を読むことによって、自らの問題に解答を与えさせる。1月中頃にこれを「小論文」として授業で発表させる。 *フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点と「小論文」の発表を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回提出される課題を準備しておくこと。一年間を通して卒論のテーマを絞り込めるようにつねひごろから関心を持っておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業は各教員の研究室で行う											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 仁子 寿晴 研究員			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム言語哲学史研究									
【授業の概要・目的】											
<p>《授業全体のテーマ》</p> <p>通常のイスラーム思想史ではほとんど顧みられないのだが、或る類の言語哲学形態（なにがしかの意味でアラビア語から立ち上げられる言語哲学）がイスラーム思想の歴史において重要な柱であったと私は思う。ここ数年は、そうした言語哲学を集中的に扱ってきた。古典期バスラ系カラーム（神学）、ザーヒル主義の極端なタイプであるイブン・ハズムを論じてきたのは、そうした流れにおいてだ（言語哲学的色彩が強いイスラーム思想家として、下に挙げるファーラービーや、ハンバル派法学者イブン・タイミーヤ、更には、後期アシュアリー派神学も視野に入る）。昨年度講義では、ロジェ・アルナルデス（Roger Arnaldez）がイブン・ハズム（西暦1064年歿）を論じた研究書（Grammaire et theologie chez Ibn Hazm de Cordoue, Paris, 1956）並びにジャック・ランガド（Jacques Langhade）の『クルアーンから哲学へ』（Du coran a la philosophie）を採り上げた。後者は、哲学者ファーラービー（abu Nasr al-Farabi, 西暦950年歿）の言語思想に焦点を合わせていくのだが、副題（La langue arabe et la formation du vocabulaire philosophique de Farabi）が示すとおり、ランガドは、西暦十世紀までに己れの言語であるアラビア語を省察してきたアラビア語＝イスラーム文化の言語思想を網羅的に調べ、ファーラービーが如何にその言語思想の歴史を己れの哲学言語形成に組み込んだかを丹念に追う。その研究は、ファーラービーの哲学的思惟に新たな光を当てるだけでなく、元来、外来思想とのみ目されてきた哲学（ファルサファ）の持つ重要な、だがイスラーム思想史記述からはすっぽりと抜け落ちる局面を浮彫にする。</p> <p>残念なことに時間の都合上、昨年度は『クルアーンから哲学へ』の内容をごく概説的に提示するに留まった。本講義では、ランガドの研究書の詳細な内容の検討、並びにランガドの示した言語哲学像から披ける展望の紹介を行う。詳細は、授業計画をご覧ください。ランガド『クルアーンから哲学へ』の研究対象は、クルアーンやハディース（ムハンマドの言行録）の意味論から、アラビア文学、いわゆる宗教諸学を經由して、ファーラービー（西暦950年歿）の言語論に至る。その意味論の探究は、イスラーム文化が言語を如何に認識したかに焦点が当てられる（その分析に意味論が使われる）。現在、イスラーム哲学（ファルサファ）研究は、ほぼ同時代のイスラーム思想（コンテキスト）を無視する形で行われるが、ランガドの研究書は、その状況を打破する格好の素材であろう。なお、アルナルデスの前出研究書は、イスラーム思想研究に重要な示唆を与える点が多々あった。取り分けて日本人にとって重要なのは、井筒俊彦の英文著作群に意味論という方法論を与えるものであったことだ。アルナルデスでは、まだ萌芽的であった意味論が、ランガドでは、徹頭徹尾使い尽くすし方で扱われているのが興味深い（ランガドは、ほぼアルナルデスの弟子と言ってよい）。井筒の意味論が如何なるものであったかは、アルナルデス、ランガドのフランス語圏イスラーム思想研究での意味論研究の深まりと比較することなくして充分評価できないのではなからうか。</p> <p>上に展望と言った。それは、後期アシュアリー派神学に係わる。古典期バスラ系カラームと違って後期アシュアリー派神学は、哲学（ファルサファ）を經由する。そうした哲学への関与は、如何なるし方で為されたのか。その一端が記されるのがアルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー　クルアーン注釈者、並びに哲学者』（Roger Arnaldez, Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe, J. Vran, 2002）である。アシュアリー学団の神学の転換点にあるファフルッディーン・アッ＝ラーズィー（西暦一二〇九年歿）の神学は、古典期バスラ系カラームの意味論的構成とも、ファーラービーを筆頭とする哲学／ファルサファの意味論的構成とも異なる</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

る構成を持つ。だが、これもまた時間の都合上、概要を説明するに留まらざるをえない。

なお二つの研究書（Langhad, Du Coran a la philosophieとArnaldes, Fakhr al-Din al-Razi）は仏文であるが、事前に和訳と原文テキストを配布する。

[到達目標]

本講義は「イスラーム言語哲学史研究」と銘打った。イスラーム思想において「言語／アラビア語」を研究対象とするのは、限られた思想家だけでない。或る意味で既にクルアーンにおいてそうした傾向が見えるし、主要な思想家たちはほぼ例外なく言語哲学的な側面を有つ。種々の思想家たちの言語思想に触れることで、イスラーム思想史のかなりの部分が言語思想／言語哲学であることを考察できる。これは、別の言い方をすれば、従来イスラーム思想史記述に何が欠けていたのかを理解することでもある。

取り分けて本講義では、ファーラービーにおける論理学と文法学の連関が詳しく採り挙げられ、イスラーム思想において論理学／文法学の問題がただならぬ問題であることを考察できる。更に、論理学と文法学（伝統的な言語思想）がファフルッディーン・アッ＝ラーズィーにおいて更なる展開を見せることと併せて、イスラーム言語哲学が動的に展開するのを観ることができる。

[授業計画と内容]

基本的にJ・ランガド『クルアーンから哲学へ』の章立て（と部分的にR・アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』の章立て）に従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい鋭い質問への対応も含む に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。事前に私の日本語訳を配布するので出来る限り眼を通していただきたい。

第1回 概説 イスラーム哲学（ファルサファ）とギリシア文献の翻訳と伝統的アラビア語言語学の意味論的配置とファーラービーの位置づけ

第2回 ランガド『クルアーンから哲学へ』(1) クルアーンとハディースの言語観／言語の意味論

第3回 ランガド『クルアーンから哲学へ』(2) クルアーンとハディースの言語観／言語の意味論

第4回 ランガド『クルアーンから哲学へ』(3) アラビア語散文学における言語観／言語の意味論

第5回 ランガド『クルアーンから哲学へ』(4) 法学・神学・神秘主義における言語観／言語の意味論

第6回 ランガド『クルアーンから哲学へ』(5) 文法学・辞書学における言語観／言語の意味論

第7回 ランガド『クルアーンから哲学へ』(6) ファーラービーの言語理論(1)諸言語の形成と諸学における術語形成

第8回 ランガド『クルアーンから哲学へ』(7) ファーラービーの言語理論(2)哲学言語の形成

第9回 ランガド『クルアーンから哲学へ』(8) ファーラービーの言語実践(1)哲学語彙の検討

第10回 ランガド『クルアーンから哲学へ』(9) ファーラービーの言語実践(2)哲学用語と哲学

概念の分析

第11回 神学（カラム）と哲学（ファルサファ） 思想言語をめぐる意味論的闘争の概観

第12回 アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』(1) イスラーム思想におけるクルアーン由来の言語思想／言語哲学とファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの思想

第13回 アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』(2) 西暦十二世紀までの政治宗教的状況

第14回 アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』(3) ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの生涯

第15回 アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』(4) ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーが触れた文化遺産

西南アジア史学(特殊講義)(3)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートのみで評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

【教科書】

使用テキストは、J. Langhade, Du Coran a philosophie: La langue arabe et la formation du vocabulaire philosophique de Farabi, Damas: L'Institut Francais d'Etudes Arabes de Damas, 1994とR. Arnaldez, Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe, Paris: V. Vrin, 2002.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に仏文テキストと和訳を配布するので講義に備えて読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系74

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東南アジアのイスラームと中東アラブ地域との関係 Islam in Southeast Asia and its relationship with the Arab Middle East									
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジアは、イスラーム世界の「周縁」に位置しながらも現在では非常に多くのムスリム人口を抱えている。この地域に住む人々のイスラームの信仰はしばしば表層的なものに見做されてきた。しかし、この宗教が東南アジア社会の中で歴史的に重要な役割を果たしてきたことを無視すべきではない。本講義では、東南アジア島嶼部を中心に、前近代から近代までのイスラームの歴史的展開について解説する。特にイスラーム世界の「中心」である中東アラブ地域との関係について、史料を参照しながら検討していく。</p> <p>Southeast Asia, although located on the periphery of the Muslim world, now has a very large Muslim population. The Islamic faith of the inhabitants has often been viewed as superficial. However, we should not ignore the fact that this religion has historically played an important role in Southeast Asian society. In this lecture, I will explain the historical development of Islam from pre-modern to modern times, focusing on the maritime Southeast Asia. In particular, we will examine the relationship with the Arab Middle East, the center of the Muslim world, referring to historical documents.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・前近代から現代までの東南アジアにおけるイスラームの歴史について基礎的な知識を獲得する。 ・東南アジアを事例として、イスラーム世界の中に存在する地域性や多様性、そして中心・周縁の関係性について理解する。 <p>Upon the success of completion of this course, students (1) will acquire a basic knowledge of the history of Islam in Southeast Asia from pre-modern times to the present, and (2) will understand the regional characteristics and diversity that exists within the Islamic world, and the relationship between the center and the periphery, using Southeast Asia as a case study.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 東南アジアのイスラームの基礎知識 第2回 西アジアのムスリム商人と東南アジア 第3-4回 東南アジアにおけるイスラーム化の始まり 第5回 ワリ・ソング(九聖人)とジャワのイスラーム 第6-7回 マレー世界の形成と発展 第8回 東南アジア古典文学のなかのイスラーム 第9-10回 アラブ地域との学問ネットワーク 第11-12回 東南アジアからのマッカ巡礼 第13-14回 植民地支配の進展と抵抗運動 第15回 まとめ</p> <p>講義の進み具合や受講者の関心によって内容を変更することがある。</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

- 1: Basic Knowledge of Islam in Southeast Asia
2. West Asian Muslim Traders and Southeast Asia
- 3-4. The Beginning of Islamization in Southeast Asia
5. Wali Songgo (Nine Saints) and Islam in Java
- 6-7 The Formation and Development of the Malay World
- 8 Islam in the Classical Literature of Southeast Asia
- 9-10. Intellectual Network with the Arab region
- 11-12. Pilgrimage to Makkah from Southeast Asia
- 13-14 Progress of Colonial Rule and Resistance Movements
15. Conclusion

The contents may be changed depending on the progress of the lecture and the interests of the students.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加（50点）、レポート（50点）で評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系75

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 岩本 佳子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オスマン朝の成立とオスマン朝の「古典期」統治体制の成立と変容 Reserch of the Ottoman Empire I: Its Origin and Ruling System in the "Classical Period"									
【授業の概要・目的】											
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」の、特に15 - 17世紀に焦点をあてて、多様な人々がどのように出会い、それが何を生み出していったのかを、近年の新たな研究動向を参考に、年代記やオスマン語（アラビア文字表記トルコ語）の定期刊行物など実際の史料を取り上げて考察する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines how diverse peoples met and what emerged from their encounters in the 15-17th centuries Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years.</p>											
【到達目標】											
<p>前近代オスマン朝の支配や管理諸制度の持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。</p> <p>The class achievement is an understanding of the feature of the ruling systems of the pre-modern Ottoman Empire, as well as their origins and transformations.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週：ガイダンス 第2~第4週：オスマン朝の成立および「古典期」統治体制の概説 第5~第6週：研究史料の解説 第7~14週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the Ottoman Empire and its administration system weeks 5-6: Introducing historical materials. weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials week 15: Feedback and discussion</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

[教科書]

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

第5週から14週にかけて、研究書、論文、オスマン語年代記(ラテン文字転写含)等を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系76

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相									
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（帝政ロシア支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従って、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週） * 民族史の記述（第3-4週） * ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週） * 独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週） * 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週） * 新しい正史（第13-14週） * まとめ（第15週） 											
なお、参加者の関心次第で、現代ウズベク語またはロシア語の資料を読むことも視野に入れる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

宇山智彦(編著)『中央アジアを知るための60章』(明石書店)ISBN:978-4-7503-3137-9(中央アジア研究の入門書)

小松久男『革命の中央アジア』(東京大学出版会)ISBN:4-13-025027-2(ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」『地域研究論集』Vol. 2, No. 1(1999)』(国立民族学博物館地域研究企画交流センター)(ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」酒井啓子・臼杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』(東京大学出版会)ISBN:4-13-034185-5(ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』(明石書店)ISBN:9784750346373(ウズベキスタン地域研究入門編)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系77

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授 野田 仁			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中央アジアの東と西：境界をめぐる歴史と史料									
【授業の概要・目的】											
中央アジアの歴史のなかで、たとえば「トルキスタン」というよく知られた地理的な名称を取り上げても、その境界は明確ではなく、歴史史料における言及も多様であった。本講義では、中央アジア史上の境界に着目し、前近代のさまざまな表象を検討する。とりわけ、現在は中国新疆ウイグル自治区となっている東側と、ロシア帝国・ソ連領であった西側との間の境界・国境に焦点を当て、それが次第に近代的な国境となる過程をたどりたい。したがって、本講義が重点を置くのは、18世紀から20世紀初頭にかけての時期である。											
【到達目標】											
中央アジアの歴史の流れを、その周辺の大国との関係の推移と共に理解し、説明できるようになる。 近代的な国境の成立過程を、中央アジアの事例から理解して、説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画にしたがって進めるが、受講者の理解や授業の進み具合に応じて順序などを変更する可能性がある。											
第1回：イントロダクション（中央アジアの地理と境界） 第2回：地図からわかること 第3回：東と西のつながり 第4回：中央アジアの南北の違い、ポスト・モンゴル時代 第5回：ジュンガルの時代 第6回：露清関係とカザフの外交1 第7回：露清関係とカザフの外交2 第8回：清朝の東トルキスタン統治 第9回：コーカンド・ハン国の東方関係 第10回：露清間の境界画定と条約 第11回：グレートゲームとパミールの境界 第12回：探検・調査の時代 第13回：辛亥革命とロシア革命による人の移動 第14回：国境を越える人・モノ・情報の動き 第15回：まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

野田仁 『露清帝国とカザフ=ハン国』(東京大学出版会, 2011年) ISBN: 9784130261395

小沼孝博 『清と中央アジア草原: 遊牧民の世界から帝国の辺境へ』(東京大学出版会, 2014年)

ISBN:9784130261494

吉田金一 『近代露清関係史』(近藤出版社, 1974年)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の中で紹介する参考文献を参照し、必要に応じて関連する論文も探し、参照することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

授業中の質問、メールによる質問を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系78

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 岩本 佳子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オスマン朝の転換と近代化 Reserch of the Ottoman Empire II: Its Transformation and Modernization									
【授業の概要・目的】											
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」の、特に18 - 20世紀に焦点をあてて、多様な人々がどのように出会い、それが何を生み出していったのかを、近年の新たな研究動向を参考に、年代記やオスマン語（アラビア文字表記トルコ語）の定期刊行物など実際の史料を取り上げて考察する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines how diverse peoples met and what emerged from their encounters in the 18-20th centuries Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years.</p>											
【到達目標】											
<p>近代オスマン朝の支配や管理諸制度の持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。 また、史料から歴史的事実を引き出す技術を習得し、自身の研究に活かすことができるようになる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) understand the feature of the ruling systems of the modern Ottoman Empire, as well as their origin and transformation.</p> <p>(2) gain skills to deduct reliable facts from historical sources.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2~第4週：オスマン朝の近代化の概説 第5~第6週：研究史料の解説 第7~14週：史料の講読・分析を通じた近代オスマン朝統治体制の探求 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the modern Ottoman Empire weeks 5-6: Introducing historical materials. weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials Week 15: Feedback and Discussion</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

第5週から14週にかけて、研究書、論文、オスマン語年代記（ラテン文字転写含）等を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。

Students will be required to review class notes before attending each lesson.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系79

科目ナンバリング		U-LET25 36840 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習 I) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 岩本 佳子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史に関する英文文献講読 Reading English text about Western and Southern Asian history									
【授業の概要・目的】											
<p>西南アジア史、イスラーム史の初学者である学部生を対象として、比較的近年に刊行された英語のイスラーム史概説（詳細は「授業計画と内容」を参照）を講読する。イスラーム史に関する基礎的知識を獲得するだけでなく、英語の研究文献においてアラビア語・ペルシア語・トルコ語の歴史用語がどのような語に置き換えられているのかを知ること、本授業の大きな目的の一つである。</p> <p>In this course students read English text on Islamic world history. Through reading the text students will gain an adequate knowledge not only about early stages of the development of Muslim history, but also the rules for translating Arabic, Persian and Turkish technical terms into English.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム史に関する海外の研究動向について知り、これを他者に対して説明することができる。 ・イスラーム史に関する英語の研究文献に頻出する専門用語の意味を知り、これに対応するアラビア語その他の現地語における原語を指摘することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) be informed of contemporary research trend in the field of history of the Islamic world.</p> <p>(2) understand the meaning of technical terms which frequently appear in research literature on the field.</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・講読対象とする文献は、講義の際に事前に適宜指定する。 ・各回の授業では、受講者全員がテキストの翻訳を実施する。 <p>Each student will be required to translate the English text into Japanese.</p> <p>Week 1: (講読文献、および、講読箇所の説明と各回の担当者決定) 受講生と相談のうえ講読テキストを決定する Deciding the text we will read in this course by consulting with students.</p> <p>Weeks 2-29: 講読 Reading of the assigned text</p> <p>Week 30: (これまで講読した内容についての議論) Having discussion on the key issues presented by the authors.</p>											
----- 西南アジア史学(演習 I)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

参加者の受講姿勢と講読担当の内容によって評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

講読史料やその他必要な資料は適宜PDFしたうえ、Web上で共有する。

Reading Texts and Handouts will be shared through the Internet Cloud System.

【参考書等】

(参考書)

必要な資料は適宜PDFしたうえ、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

【授業外学修(予習・復習)等】

授業では受講生全員が翻訳に参加する。必ず予習をしておくこと。

All Students are required to make an adequate preparation for reading the text so that they can participate in translation work.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系80

科目ナンバリング		U-LET25 36842 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	ペルシア語、アラビア語両語による法学文献講読 Reading Islamic legal texts in both Persian and Arabic										
【授業の概要・目的】											
<p>16世紀のシャーフイー派ウラマーであるIbn Ruzbihanが、ペルシア語で著した統治マニュアル、Suluk al-Mulukを講読する。ペルシア語本文と引用元のアラビア語原文を対照することにより、アラビア語がペルシア語に翻訳される際、アラビア語固有の表現がどのようにペルシア語に移し替えられたのかにつき学習する。</p> <p>In this course students read Suluk al-Muluk, the early 16th century Central Asian governance manual compiled by Ibn Ruzbihan, a Shafiite ulama who fled there to avoid persecution from Shiite Safavids. The work consists of citations from different Arabic lawbooks, which were literally translated into Persian by the author. We can easily find out original Arabic text of each part of the work owing to annotations made by the author about reference sources. Students will read the work in both Persian and Arabic, thereby acquiring knowledge about to what extent Arabic syntax left its traces on translated text.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ペルシア語、および、アラビア語の文法をより深く理解し、歴史的なテキストを正確に読解することができる。 ・イスラーム法学の基本的な術語について正確に理解し、これを他者に説明することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) gain an in-depth understanding about the grammar of both Persian and Arabic and obtain the ability to read historical text written in these languages accurately.</p> <p>(2) have an adequate knowledge about the technical terms used by Islamic jurists.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業の進め方についての説明。講読文献の著者、および、その内容についての解説。</p> <p>第2回~第14回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、ハラージュの用途について述べた箇所の講読。</p> <p>第15回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>第16回~第29回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、イクターについて述べた箇所の講読。</p> <p>第30回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>Week 1: Explaining about the author and work Weeks 2-14: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) dealing with the topics about how to spend kharaj</p>											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

Week 15: Feedback and Discussion

Weeks 16-29: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) dealing with iqta and soyurghal

Week 30: Feedback and Discussion

【履修要件】

アラビア語ないしペルシア語の基礎文法を学習していることが望ましい。

Students are expected to have learned the basic grammar of either Arabic or Persian.

【成績評価の方法・観点】

講読の担当、予習の状況にもとづき、平常点で評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

使用しない

PDF化したファイルを、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、前回の授業時に予告された講読箇所を一通り読んで授業に参加すること。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系81

科目ナンバリング		U-LET25 36842 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 岩本 佳子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		オスマン朝の遊牧民と国家 Reserch of the nomadic people in the Ottoman Empire									
【授業の概要・目的】											
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」に焦点をあてて、オスマン朝における遊牧民と国家の関係を、近年の新たな研究動向を参考にしつつ、オスマン語（アラビア文字表記トルコ語）で書かれた行財政文書など実際の史料を取り上げて考察する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines nomadic people in the Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years.</p>											
【到達目標】											
<p>オスマン朝の遊牧民支配のシステムの持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。</p> <p>The class achievement is an understanding of the feature of the ruling systems of the Ottoman Empire, as well as their origins and transformations.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>前期</p> <p>第1週：前期ガイダンス</p> <p>第2～第4週：オスマン朝およびオスマン朝の遊牧民統治システムの概説</p> <p>第5～第6週：研究史料の解説</p> <p>第7～14週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求</p> <p>第15週：まとめ</p> <p>後期</p> <p>第16週：後期ガイダンス</p> <p>第17～第20週：研究史料の解説</p> <p>第21～29週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求</p> <p>第30週：まとめ</p> <p>Spring Term</p> <p>week 1: Guidance</p> <p>weeks 2-4: Outline of the nomadic people in the pre-modern Ottoman Empire</p> <p>weeks 5-6: Introducing historical materials.</p> <p>weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials</p> <p>week 15: Feedback and discussion</p> <p>Autumn Term</p>											
----- 西南アジア史学(演習II) (2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II) (2)

week 16: Guidance

weeks 17- 20 : Outline of the nomadic people in the modern Ottoman Empire

weeks 21-29: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials

week 30: Feedback and discussion

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

適宜、研究書、論文、オスマン語行財政文書（ラテン文字転写含）を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系82

科目ナンバリング		U-LET25 36844 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>本年度は、マムルーク朝時代後期の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p> <p>なお、授業はZoomミーティングを利用した遠隔リアルタイム型で行う。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
講読教材および関連資料は配布する。											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系83

科目ナンバリング		U-LET25 36844 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>前期に引き続き、マムルーク朝時代の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
<p>アラビア語(フスハー)文法を習得していること。 前期から続けて受講することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。 評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
<p>講読教材および関連資料は配布する。</p>											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系84

科目ナンバリング		U-LET25 36850 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 今松 泰 客員准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代トルコ語文法・講読									
【授業の概要・目的】											
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後、現代トルコ語で書かれた研究書あるいは論文の講読を行う。 さらに受講者の必要に応じて、アラビア文字表記のトルコ語（オスマン語）文献の講読をおこなう。											
【到達目標】											
現代トルコ語の基礎的な文法事項を確実に習得し、それらの知識を活用してトルコ語の文献を読みこなせるようになることが到達目標である。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 文字と発音 第2回 母音の交替、子音の交替 第3回 数詞、形容詞、複数接尾辞、人称、所有人称接尾辞 第4回 格接尾辞（1） 第5回 格接尾辞（2）、名詞修飾 第6回 代名詞、否定文、疑問文、後置詞 第7回-第9回 動詞 活用 第10回 動詞語幹の派生 第11回 動名詞 第12回 形動詞（分詞、連体形） 第13回 副動詞ほか * 以降の授業では現代トルコ語、さらにはオスマン語のテキストを講読する 第14回-第30回 テキスト講読											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価。 参加者の受講態度と担当した講読の内容をもとに評価する。 文法習得時には、課題を課し、確認のため小テストを行うことがある。											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

文法事項の説明をしている間、予習は特に必要ではないが、毎授業後の復習は必ず行なうこと。
テキスト講読に入ってから、必ず予習を行なうこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系85

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		アラビア語講読									
【授業の概要・目的】											
スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。											
【到達目標】											
アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。											
【授業計画と内容】											
上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、年に1～2点程度の資料を取り上げ、丹念に読み込む訓練を行う。											
以下のように講義を進める。											
1．イントロダクション・テキストの決定											
2～14．テキスト講読											
15．全体のまとめ											
講読の対象としては、以下のような書目が挙げられる。											
これまでに本講義で取り上げてきた主要な書目は以下の通り。											
【用語集】											
クシャイリー「スーフィー派の言表とその意味の書」											
カーシャーニー『スーフィー用語集』											
【伝記】											
ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッバース・アフマド・ティジャーニー」											
タシュキョプリユザーデ(ターシュクブリーザーダ)『オスマン朝のウラマーについての紅いアネモネ』											
イブン・ザイヤート著『スーフィズムの徒へのまなざし』：マグリブの聖者伝											
イブン・アラビー『聖霊』(2018)：アンダルスの聖者伝											
【地理書】											
ナーブルスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』											
【理論書】											
アブー・ハーミド・ガザーリー『宗教諸学の再興』：古典マニュアルの集大成											
アブー・ナジブ・スフラワルディー『修行者たちの作法』：修行論											
アブドゥッラー・ボスネヴィー『叡智の台座注釈』：完全人間論。写本を読む練習を兼ねて											
アフマド・ザルーク『タサウウフの基礎』：理論書											
ジャズリー『信条』：神学書(マグリビー体の練習を兼ねて)											
【詩】											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

イブン・アラビー 『欲望の解釈者』：神秘主義詩

1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。

【履修要件】

初級アラビア語を修得していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する
テキストは当方で用意し、教室で配布する。

【参考書等】

(参考書)

東長靖 『イスラームとスーフィズム』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0721-4
ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』(創元社) ISBN:978-4-422-21212-8 (豊富な図版が特徴。東長靖監修。)
東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』(山川出版社) ISBN:978-4-634-47475-8 (前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。)
山内昌之・大塚和夫編 『イスラームを学ぶ人のために』(世界思想社)(I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。)
西尾哲夫・東長靖編 『中東・イスラーム世界への30の扉』(ミネルヴァ書房, 2021年) ISBN: 9784623091782 (30のトピックから、現代のイスラーム世界を見る。)
その他、教室で指示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。辞書・参考図書を十分に活用すること。

(その他(オフィスアワー等))

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語講読 Reading Persian historical text									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、ミールホンド（1498年没）が著した著名なペルシア語年代記『Raudat al-Safa』の一部を講読する。講読対象となるのは、ティムールによるシリア攻撃（1400-01年）を叙述する箇所である。本授業では、近世のイラン、中央アジアで作成された美文体ペルシア語年代記の読解能力の涵養を目指す。</p> <p>In this course students read some parts of Raudat al-Safa, a famous Persian chronicle compiled by Mirkhwand (d. 1498). The parts that will be read in this course record the events which occurred during Timur's campaign toward Syria (1400-01). The main purpose of the course is to gain the ability to read Persian historical text written in the florid prose style common to almost all chronicles created in pre-modern Iran and Central Asia.</p>											
【到達目標】											
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品、および、時代背景の説明 第2回~第14回 同作品中、1400年から翌年にかけてのシリア攻撃に関する箇所を講読する 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Mirkhwand and his Raudat al-Safa Weeks 2-14: Reading the parts of Raudat al-Safa concerning Timur's campaign toward Syria in 1400-01. Week 15: Feedback and Discussion</p>											
【履修要件】											
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>											
----- 西南アジア史学(講読) (2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読) (2)

[成績評価の方法・観点]

講読への取組と、事前準備の状況を基準として、平常点により評価する。

Participation in class and preparation for reading

[教科書]

使用しない
必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。目安となる予習時間は、180分程度である。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text (about 180 mins. for each class)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系87

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲葉 穰			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古典ペルシア語資料の講読									
[授業の概要・目的]											
13世紀以前に書かれたペルシア語資料を題材に、古典ペルシア語文献の読解方法、分析、活用方法を学ぶことを目的とする。											
[到達目標]											
11世紀、ガズナ朝の書記であったアブー・アルファズル・バイハキーが著した年代記『バイハキーの歴史』を題材に、13世紀以前の古典ペルシア語文献の持つ特徴や、アラビア語文献との関係、あるいはイラン文化とイスラーム文化の接合の有り様について理解することを目的とする。基本的には担当者が和訳と注を作成し、それを出席者全員で共有しつつ、会読を進める。											
[授業計画と内容]											
第一回～二回 『バイハキーの歴史』の背景についての解説 第三回～第十五回 ペルシア語資料の講読（訳注の作成）											
[履修要件]											
近世ペルシア語文法を学んでいること											
[成績評価の方法・観点]											
訳注の準備や発表などを踏まえた平常点80%。期末のレポート20%											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
上記のように出席者に和訳と註釈の準備を求めらるので、予習は必須である。準備なしの出席は認めない。また、自らの担当回を無断で欠席した場合は単位認定しない。											
（その他（オフィスアワー等））											
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史学実習 Practice education for Western and Southern Asian history									
【授業の概要・目的】											
<p>学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。</p> <p>The main purpose of this course is to explain students the essential skills necessary to undertake research activity into history of the Islamicate world.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire knowledge about the basic tools required to undertake research activity as dictionaries, encyclopedias, websites, and so on.</p> <p>(2) be able to decide their own topics of research.</p> <p>(3) be able to make a presentation about the contents of a professional paper relating to his/her topic of research.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 後期授業の進め方について</p> <p>第2回 期末の研究発表に向けての個人指導</p> <p>第3-5回 日本語論文の内容紹介発表</p> <p>第6回 期末の研究発表に向けての個人指導</p> <p>第7-9回 英語論文の内容紹介発表</p> <p>第10回 期末の研究発表に向けての個人指導</p> <p>第11-13回 英語論文の内容紹介発表</p> <p>第14-15回 研究発表</p> <p>Week 1: Explaining the tasks which will be assigned to students in the 2nd semester</p> <p>Week 2: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester</p> <p>Weeks 3-5: Making a presentation about a research essay written in Japanese</p> <p>Weeks 6: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester</p> <p>Weeks 7-9: Making a presentation about a research essay written in English</p> <p>Weeks 10: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the</p>											
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(実習)(2)

semester

Weeks 11-13: Making a presentation about a research essay written in English

Weeks 14-15: Making a research talk

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。

Participation (50%)

Presentations (50%)

【教科書】

使用しない

必要資料を電子ファイル化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

Students are required to make adequate preparations for each presentation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系89

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史学実習									
【授業の概要・目的】											
学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 各時代、地域を研究するにあたり習得が必要な言語、および、辞書についての説明</p> <p>第2回 日本語および英語による事典、工具書類の説明</p> <p>第3回 インターネットを利用した各種文献の検索方法とその実践</p> <p>第4回～第6回 専門論文の読み方、自身の研究への利用方法、レジュメ化の方法について</p> <p>第7回～第9回 受講生各人が選択した時代、地域について、主に概説書等に基づきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第10回～第12回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が日本語の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第13回～第15回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が英語（または、それ以外の外国語）の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。											
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(実習)(2)

[教科書]

授業の際に必要な資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系90

科目ナンバリング		U-LET49 29604 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラブ語(初級)(語学) Arabic				担当者所属・ 職名・氏名		国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 西尾 哲夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		アラビア語の初級									
【授業の概要・目的】											
<p>アラビア語は、西はモロッコから東はイラクまでの中東・北アフリカ諸国で使われており、およそ一億五千万人の母語となっている。またイスラム教(イスラーム)の聖典『コーラン(クルアーン)』はアラビア語で書かれているため、南アジア・東南アジア・中国などのムスリム(イスラム教徒)もアラビア語の知識をもっている。</p> <p>この授業では、アラビア語の文字の書き方からはじめ、初級程度の文法事項をおしえる。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア文字が読めて書けるようになる。また基本的単語については、弱子音を語根に含む単語についてアラビア語の辞書が引けるようになる。基本的な文章表現について読む・書く・話すができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) アラビア語についての概説(1回目)</p> <p>(2) アラビア語学習法の概説(1回目)</p> <p>(3) アラビア文字(2回目から5回目)</p> <p>(4) 名詞(3回目)</p> <p>(5) 冠詞(4回目)</p> <p>(6) 名詞の格変化(5回目)</p> <p>(7) 規則複数(6回目)</p> <p>(8) 形容詞の用法(7回目)</p> <p>(9) 疑問文(8回目)</p> <p>(10) 場所の前置詞(9回目)</p> <p>(11) これまでの復習(10回目)</p> <p>(12) 存在文(11回目)</p> <p>(13) 国名とニスバ形容詞(12回目)</p> <p>(14) 数字の書き方と1~10までの数詞(13回目)</p> <p>(15) 不規則複数(1)(14回目)</p> <p>(16) 色の表現(15回目)</p> <p>(17) 動詞完了形(16回目)</p> <p>(18) 辞書の引き方(17回目)</p> <p>(19) 不規則複数(2)(18回目)</p> <p>(20) 11~100までの数詞(19回目)</p> <p>(21) これまでの復習(20回目)</p> <p>(22) 曜日の表現(21回目)</p> <p>(23) 動詞未完形(22回目)</p> <p>(24) 名詞文と動詞文(語順)(23回目)</p> <p>(25) 時間表現(24回目)</p> <p>(26) 比較表現(25回目)</p>											
----- アラブ語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

アラブ語（初級）(語学)(2)

- (27) 弱動詞 (26回目)
(28) 動詞派生形 (1) (27回目)
(29) 未来表現 (28回目)
(30) 動詞派生形 (2) (29回目)
(31) これまでの復習と今後の学習方法 (30回目)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。出席を重視し、欠席が多い場合には単位を認めない。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

西尾哲夫 『言葉から文化を読む アラビアンナイトの言語世界』 (臨川書店) (とくに現代アラブ世界の言語状況についてふれた第1章)
西尾哲夫・東長靖 『中東・イスラーム世界への30の扉』 (ミネルヴァ書房) (中東・イスラーム世界の理解のために必読)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業毎に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系91

科目ナンバリング		U-LET49 39608 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イラン語（初級）（語学） Iranian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山 雅樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イラン語（初級）									
【授業の概要・目的】											
この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。											
【到達目標】											
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
（前期）											
第1回 イントロダクション、文字											
第2回 発音と表記の注意点											
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞											
第4回 形容詞、エザーフェ、人称代名詞											
第5回 過去形、前置詞											
第6回 現在形、複合動詞											
第7回 現在形、未来形、副詞											
第8回 現在完了形、命令形											
第9回 仮説法、助動詞											
第10回 助動詞、人称代名詞、受動態											
第11回 接続詞											
第12回 関係詞、祈願文、副詞											
第13回 接続詞、複合動詞、過去分詞、現在分詞、その他											
第14回 数詞											
第15回 確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について											
（後期）											
第16～18回 現代文（物語）の読解（1）～（3）											
第19～21回 現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）											
第22～29回 古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）											
第30回 フィードバック（詳細については授業内で指示する）											
前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。 後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。 原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。											
----- イラン語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

イラン語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（前期と後期の合計で100点）
前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）
後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

各期で5回以上欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

前期は文法事項をまとめたレジユメを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーをある程度まとめて事前に配布する。

【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。
その他の辞書や文法書など参考文献については、授業内で指示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。
実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系92

科目ナンバリング		U-LET49 19616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
[授業の概要・目的]											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
[到達目標]											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

[履修要件]

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

- ・平常点(練習問題への理解度(授業期間中に「確認テスト」を実施)、40点)
- ・年度末筆記試験(60点)

[教科書]

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社,2015)
ISBN:978-4393101728

[参考書等]

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店,1974) ISBN:978-4000202220

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくる。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておく。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系93

科目ナンバリング		U-LET49 39620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学イラク古代文化研究所 森 若葉 特別研究員			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
[授業の概要・目的]											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
[到達目標]											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p><前期> 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板実習 - 粘土板を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学について</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む（1）</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判文書、行政文書を読む</p> <p>第15回 シュメール文学作品を読む（2）</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

シュメール語（初級）(語学)(2)

<後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む（3）
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む（4）
- 第12回 シュメール文学作品を読む（5）
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

[教科書]

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。
楔形文字の実習の際、粘土やカッターナイフ等を各自用意してもらう必要がある。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 19633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（初級）（語学） Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定助教 虫賀 幹華			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金4,5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語（初級）									
【授業の概要・目的】											
<p>インドは多言語国家であり、それぞれの州で公用語が定められている。その中でヒンディー語は、憲法第343条でインド全体の唯一の公用語とされている。中国語、英語に次いで世界で3番目に多く話されている言語であり、第一言語でなくともヒンディー語を解する人や、文法や基本語彙が同じ、パキスタンの国語であるウルドゥー語話者までを含めると、ヒンディー語でコミュニケーションを取れる相手は膨大な数になる。本授業では、今後世界の中でますます存在感を増すインドの公用語であるヒンディー語の初等文法を学び、簡単な文章の講読や会話の練習をする。</p> <p>講師は北インドでの5年間の留学経験がある。ヒンディー語の独特の言い回しや語彙、ヒンディー語ならではの思考方法、文章の組み立て方があると実感した。日本語で考えてそれを「翻訳」するのでは全くしっくりこない。インドでは英語が通じると言われるが、英語を媒介に行われるコミュニケーションはヒンディーで行われるそれとは別物である。インド人と深い意思疎通をしたいのならば、ヒンディー語を知ることが近道だろう。そして嬉しいことに、ヒンディー語を学べば「インド英語」も断然聞き取りやすくなる。インドや南アジアについて知りたい・関わりたい人はもちろん、将来国際的に活躍したい人にぜひ受講してもらいたい。今後、世界中のどこにいてもインド人と出会うだろうから。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒンディー語の初等文法を習得する。 2. ヒンディー語の文章を、辞書を引きながら自力で読めるようになる。 3. 簡単なヒンディー語会話ができるようになる。 4. ヒンディー語を通してインドの文化に触れ、世界認識の幅を広げる。 											
【授業計画と内容】											
<p>全20課から成る教科書を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもある。毎回宿題を課し、次回授業で答え合わせをする。</p> <p>教科書が一通り終われば、新聞や物語などヒンディー語の文章を読んだり、ヒンディー語会話に挑戦してもらおう。教材は、履修者の希望に応じて決める。例えば、ハリウッド映画に関心があれば映画の挿入歌を翻訳したり、インド料理に関心があればレシピを読解する。インドの社会問題に興味を持っているのならば関連の新聞記事を読む。インド旅行を計画している人がいればテーマを設定して会話の練習をする。</p>											
<p>注意</p> <p>前期は、講師の都合で1日に2コマ連続（金曜4・5限）で授業を行い、6月9日に試験とフィードバック（15回目授業）を行う。後期は通常通りで、毎週金曜5限に授業を行う。</p>											
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、文字 											
----- ヒンディー語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

2~3. 文字と発音

4~14. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める

< 前期・期末試験 >

15. フィードバック

後期

1~10. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める

11~14. ヒンディー語文章講読や会話の練習

< 後期・期末試験 >

15. フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（40％）と2回の筆記試験（30％ずつ）で評価する。授業への積極的な参加を期待する。

【教科書】

田中敏雄・町田和彦 『エクスプレス ヒンディー語』（白水社、1986年）ISBN:4-560-00768-3（絶版のため入手困難。授業で配布する。）

【参考書等】

（参考書）

古賀勝朗・高橋明 『ヒンディー語 = 日本語辞典』（大修館書店、2006年）ISBN:978-4-469-01275-0
（履修前に辞書を購入する必要はない。）

町田和彦 『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水社、2008年）ISBN:978-4-560-06791-8

Snell, Rupert and Simon Weightman 『Teach Yourself, Complete Hindi』（London: Hodder Education, 1989）ISBN:978-1-444-10609-1

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回課される宿題をきちんと行う。授業を受け、復習して宿題を行い、次回授業で答え合わせというサイクルで学習を進めること。ヒンディー語に限らず、インドの話題に関心を持ち、授業で共有してもらえると嬉しい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系95

科目ナンバリング		U-LET49 39639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号などの聖書テキストの伝統、またラビ文学を含む歴史的な言語文化の変化を概要するとともに、文法の基礎（名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。その際、16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とビニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（初級）（語学）(2)へ続く-----											

ヘブライ語（初級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題や練習問題をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系96

科目ナンバリング		U-LET49 39640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステムと、その文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解については、16 - 17世紀の文法学者の意見にも注目する。											
【到達目標】											
動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含む現代ヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いること。母音記号なしのテキストも多少読めること。											
【授業計画と内容】											
1．名詞文と動詞の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、7．レヴィータ文法（時制と時間）、8．語根 / ギズラー、9．W倒置と北西セム語、10．読解聖書、11．読解ラビ文献、12．読解中世文献、13．読解近代文献、14．読解現代文、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回の授業を要する場合もある。 * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 * * * 学習の区切りで、2~3回の確認クイズをする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、注解レポート（50%）											
-----ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 安平 弦司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世オランダにおけるカトリックとジャンセニスム論争									
【授業の概要・目的】											
<p>近世のオランダ共和国は、改革派（カルヴァン派）を唯一の公的教会とするプロテスタント国家であり、かつ多宗派共存社会でもあった。オランダのカトリック共同体は、差別的待遇を受けながらも17世紀の過程で再建されていったが、ジャンセニスム論争を経て、1723年にユトレヒト教会分裂を経験した。ジャンセニスムとは、近世カトリック教会内部で異端視された思想である。教会分裂により、オランダのカトリック共同体は、ローマ教皇に認可されるもプロテスタントのオランダ政府には否認されたローマ・カトリックと、教皇に否認されるもオランダ政府には認可された古カトリック（ジャンセニスト）に分裂し、両者の分断は現在も続いている。本講義では、ジャンセニスム論争を通じて、17・18世紀のオランダ共和国のカトリック共同体の復興と内部分裂を考察する。そうすることで、宗教改革後の近世ヨーロッパにおける複数宗派の共存・競合という問題を多角的に理解することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近世ヨーロッパにおける宗教的多様性を、プロテスタント国家オランダにおけるカトリック共同体の復興と内部分裂を通じて考察できるようになる。 ・宗教問題、特にカトリックとジャンセニスム論争を通じて近世ヨーロッパを理解するための視座を得る。 											
【授業計画と内容】											
<p>第5回までの講義でオランダ共和国における宗派共存・競合についての概略を示した後、第6回以降でオランダ共和国におけるジャンセニスム論争を多角的に分析する。なお、受講生の反応や学習状況に応じて、授業内容を変更することはあり得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：近世オランダのカトリックについて学ぶ意義 2. オランダ共和国の成立とプロテスタント宗教改革 (1) 3. オランダ共和国の成立とプロテスタント宗教改革 (2) 4. オランダ共和国におけるカトリック共同体再興と対抗宗教改革 (1) 5. オランダ共和国におけるカトリック共同体再興と対抗宗教改革 (2) 6. ジャンセニスム論争の教会史 (1) 7. ジャンセニスム論争の教会史 (2) 8. ジャンセニスム論争の政治文化史 (1) 9. ジャンセニスム論争の政治文化史 (2) 10. ジャンセニスム論争の社会経済史 (1) 11. ジャンセニスム論争の社会経済史 (2) 12. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (1) 13. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (2) 14. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (3) 15. まとめとフィードバック 											
----- 西洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって、講義内容の理解度を評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業資料をもとに講義内容を復習し、疑問点があればそれを言語化しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		公立大学法人大阪公立大学大学院文学研究科 草生 久嗣 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西洋中世における異端問題とビザンツ帝国									
[授業の概要・目的]											
<p>西洋中世史上、11世紀より各地で展開した「中世異端」問題は、様々な論点を開示しつつ20世紀における西欧中世精神史を代表するトピックとなった。この成果に対し、正教会圏および東地中海世界での異端問題の諸相を取り込むことは、「中世異端」問題に新たな展望をひらき、西欧ローマ・カトリック世界における中世史理解を発展的に問い直す機会になると考えられる。</p> <p>13世紀にアルビジョワ十字軍および異端審問制度に帰結した「民衆異端 popular heresy (Moore)」および「宗教運動 Religioese Bewegungen (Grundmann)」現象について、その淵源あるいは先駆として位置付けられがちなビザンツ帝国史上の諸異端、とくに「中世のマニ教 (Runciman, Stoyanov)」の見直しに取り組む。その際、同時代において中世異端概念自体が構築されていく様に着目する「異端を見る眼 (異端学)」の分析を踏まえる。</p>											
[到達目標]											
<p>具体的な事例とその学術的な評価の諸相について学び、従来、中世キリスト教世界が生み出したとされる「正統対異端」という表現について、ビザンツ・東地中海世界の心性を踏まえた解釈が可能になる。これまで一般的に考えられてきた「多数派對少数派」・「主流對傍流」といった二項對立的な枠組みに収まりえない多様性を伴っていたことを理解し、この歴史的知見の見直しが、現代に生きる我々の文化・精神・社会理解に役立たせるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 導入：12世紀宗教改革における「正統と異端」</p> <p>第2回 「異端者の群れ」 中世異端史論 1</p> <p>第3回 東地中海の異端概念 中世異端史論 2</p> <p>第4回 コンスタンティノーブルのボゴミール派</p> <p>第5回 バシレイオス事件の背景</p> <p>第6回 「パノプリア」の12世紀 ビザンツ異端学 1</p> <p>第7回 「異端カタログ」から「異端史」へ ビザンツ異端学 2</p> <p>第8回 イスラーム教派学 (heresiology) ビザンツ異端学 3</p> <p>第9回 コンスタンティノーブルとローマ</p> <p>第10回 異端に対する迫害と戦争</p> <p>第11回 宗教的寛容の所在</p> <p>第12回 新マニ教を見る眼</p> <p>第13回 神学論争・イコノクラスムを見る眼</p> <p>第14回 ムスリムを見る眼</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

第15回 総括：我々の「異端を見る眼」

授業計画は一部変更になる可能性がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート（100点）。詳細は授業中に説明する。
なお、成績評価は、到達目標に照らして行なう。

【教科書】

使用しない
資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）

ヘルベルト・グルントマン（今野國雄訳）『中世異端史』（創文社、1974年）ISBN:4423493225（参照必要箇所は授業中に抜粋配布）

小田内隆『異端者たちのヨーロッパ』（NHK出版、2010年）ISBN:4140911654

ユーリー・ストヤノフ（三浦清美訳）『ヨーロッパ異端の源流 カタリ派とボゴミール派』（平凡社、2001年）ISBN:4582707130（参照必要箇所は授業中に抜粋配布）

渡邊昌美『異端カタリ派の研究 中世南フランスの歴史と信仰』（岩波書店、1989年）ISBN:4000001299（同上）

その他、授業中に随時紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：関連文献を読み、授業内容へのイメージを膨らませておく。

復習：授業内容を批判的に復習する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーにおける、対面での面談は木曜の授業後から3限までの時間帯に行う（日時や場所についてメールによるアポイントメント必要）。オンラインによる面談については、授業内で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学文学部 教授 阿部 俊大			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「レコンキスタ」の展開とその歴史的影響ー中世盛期を中心にー									
【授業の概要・目的】											
<p>西欧世界は、異文化との多様な接触の中で自己を形成してきた。本講義では、中世西欧が最も長期間に渡り恒常的な異文化接触を経験した場である中世イベリア半島（スペイン・ポルトガル）を題材に、特に最も激しい形態で異文化接触が展開された中世盛期を中心に、多様な異文化接触の実情と、その政治・経済・社会・文化への影響を分析する。中世イベリアのキリスト教諸国の中で最も人口に膾炙している、カスティーリャ＝レオン王国の事例を中心に取り上げ、ポルトガルやピレネー諸国の事例は適宜、比較対象として取り上げる。</p> <p>中世西欧の国制とその発展過程について、日本では英仏独の事例がよく知られているが、他の地域の事例についての情報は乏しく、体系化もされていない。イベリア半島の事例を他の西欧諸国と比較しつつ学ぶことで、より複合的・多角的な視点から、中世西欧の国家や社会についての理解を深めることも可能となるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>イベリア半島と他の西欧諸国を対照しつつ、中世西欧の国制の発展、および異文化接触とその影響についての認識と理解を深めることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>初期中世のイスラーム＝スペイン【第1～2週】</p> <p>(1) イスラームによる征服から後ウマイヤ朝成立へ</p> <p>(2) イスラーム化の進行と後ウマイヤ朝の政体</p> <p>初期中世のキリスト教諸国【第3～4週】</p> <p>(3) イベリアの地理と”キリスト教”諸国：アストゥリアス＝レオン</p> <p>(4) カスティーリャの勃興とキリスト教圏の再編</p> <p>中世盛期における「レコンキスタ」の展開【第5～15週】</p> <p>(5) アルフォンソ6世の征服活動と異教徒統治</p> <p>(6) イベリア半島の「教会」と西欧との交流の再開</p> <p>(7) ムラービト朝とカスティーリャ＝レオンの危機</p> <p>(8) キリスト教圏における再植民とその後世への影響</p> <p>(9) トレードの翻訳活動</p> <p>(10) イベリア半島の国家意識：アルフォンソ7世・ピレネー諸国・ポルトガル</p> <p>(11) ムワッヒド朝の進出と騎士修道会</p> <p>(12) アルフォンソ8世の統治と戦争遂行型社会の形成</p> <p>(13) ローマ教皇庁の政策とイベリア諸国の再編</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

- (14) 「大レコンキスタ」とアルフォンソ10世の諸政策
(15) 全体のまとめ

【履修要件】

毎回多くの新しい知識を習得する必要があるため、学習能力・意欲に富む人が受講者として望ましい。

【成績評価の方法・観点】

毎回の小テスト・コメント（40％）と期末試験の成績（60％）。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

D.W.ローマックス 『レコンキスタ 中世スペインの国土回復運動』（刀水書房、1996年）

R.パートレット 『ヨーロッパの形成 950 - 1350年における征服、植民、文化変容』（法政大学出版局、2003年）

関哲行他 『世界歴史体系 スペイン史 1 古代－中世』（山川出版社、2008年）

小林功他 『地中海世界の中世史』（ミネルヴァ書房、2021年）

【授業外学修（予習・復習）等】

参考文献にはできるだけ目を通すこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系100

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、サルルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』、『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』（Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他（オフィスアワー等）)											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系101

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前期に引き続き、サルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』、『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 インTRODクシヨン 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系102

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア帝国末期のジョージア									
【授業の概要・目的】											
19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下の南コーカサス史を、ジョージア中心に概観する。 ロシア人がチェチェン人やジョージア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。南コーカサスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出した。一方、「治安の悪さで悪名高い」南コーカサスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とジョージア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。											
【到達目標】											
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション 第2,3回：「半アジア人」 第4,5回：露土戦争 第6,7回：「ムスリムのジョージア人」の文字と宗教 第8,9回：油田とマンガン鉱山 第10,11回：マルクス主義サークル 第12,13回：義賊と革命 第14回：1905年 第15回：おわりに											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系103

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		第一次世界大戦期の南コーカサス									
[授業の概要・目的]											
南コーカサスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージアの社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南コーカサスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。											
[到達目標]											
第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。											
[授業計画と内容]											
第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、月曜3限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系104

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学大学院国際文化学研究所 衣笠 太郎 講師			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ = 中東欧境界地域の歴史：シレジアを中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>中世以降の「ドイツ」の歴史・文化・社会を、現在のドイツ領域のみならず、広く旧ドイツ領やドイツ語圏の広がりをも踏まえつつ多角的に概観する。本講義では、主にシレジア（シュレージエン / シロンスク）地方に着目して授業を進める。19世紀初頭のナポレオンによるヨーロッパ中央部の支配以来、いわゆるドイツ地域ではドイツ・ナショナリズムが興隆し、1848年革命を経て、1871年のドイツ帝国創設 = 統一国家成立へと至ることになる。しかし、この19世紀以降のドイツ統一国家の形成・展開過程では、多様な言語・文化・宗派・帰属意識を持つ人々が入り乱れることになったがために、そこに居住する人々をめぐって包摂と排除が繰り返された。本講義では、そうした「ドイツ」の多様性や包摂・排除の側面に光を当てながら、シレジア地方の歴史について見ていくこととする。</p>											
【到達目標】											
<p>・近現代のシレジア地方の歴史・社会・文化を学び、それを現代のドイツ = 中東欧やヨーロッパのあり方と比較・対照しながら、両者の共通点・相違点について理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入：「ドイツ」「中東欧」とは何か 第2回 通史：中世のシレジア地方 第3回 通史：近世のシレジア地方 第4回 通史：近代のシレジア地方 第5回 通史：近現代のシレジア地方 第6回 シレジアの分離主義運動：先行研究と分析手法 第7回 シレジアの分離主義運動：歴史的前提 第8回 シレジアの分離主義運動：カトリック社会思想 第9回 シレジアの分離主義運動：混血国民論 第10回 シレジアの分離主義運動：史料の取り扱い 第11回 シレジアの分離主義運動：運動の立ち位置 第12回 シレジアの分離主義運動：大オーバーシュレージエン自由国 第13回 シレジアの分離主義運動：自治構想と分離主義 第14回 シレジアの分離主義運動：運動の終結 第15回 総括とフィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>授業に参加する前提として、ドイツ史や中東欧史の大まかな流れについて概説書などで予習しておくことが望ましい。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート（60点）、授業への参加状況（40点）

- ・授業の最後に授業の理解度ををはかるためのコメントペーパーを書いてもらうので、その内容により授業への参加状況を判断する。
- ・期末にレポートを課す。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

衣笠太郎 『旧ドイツ領全史 「国民史」において分断されてきた「境界地域」を読み解く』（パブリブ、2020年）ISBN:4908468443

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・授業で関連文献を紹介するので、それらを読んで授業内容の理解を深めるよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

質問については、コメントペーパーで受け付けます。メールでの質問も受け付けますので、必要に応じtkinugasa@harbor.kobe-u.ac.jpにメールしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系105

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世ヨーロッパの政治反乱									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義のテーマは、中世ヨーロッパの政治反乱をめぐる諸論点である。 国家、国家的な諸権力、統治者、支配者に向けられる反乱は、政治行為であるとともに、人間集 団の慣習的行為と世界観に根差した広義の文化である。それゆえ、社会史や文化史研究の主要研究 テーマの一つであり、また中世の政治と国家をボトムアップの視点からとらえることを可能にして くれる私たちに開かれた数少ない窓の一つでもある。 本講義ではこのテーマに関わる研究史上の諸論点を概観し、課題と展望を考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)中世ヨーロッパの国制史、政治社会史、政治文化史の基本的な事項や研究史上の論点を理解する ことができる。 (2)(1)について、適切な参考文献を活用しながら考察を深め、自らの言葉で論理的に説明するこ とができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画に沿って授業を進めるが、講義の進展に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イントロダクション なぜ中世ヨーロッパの政治反乱を学ぶのか 第2～3回 「革命」か「反乱」か 中世の政治的変革をめぐる諸論点 第4回 祝祭・慣習・集合心性 歴史人類学的社会史における反乱 第5回 民衆・エリート・社会移動 第6～8回 中世国家論と政治反乱 第9～10回 暴力とコミュニケーション 第11～12回 集団・同盟・ネットワーク 第13回 反乱の主体 第14回 空間とスケール 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートにより評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 西洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・特に履修要件は定めないが、高校世界史の中世ヨーロッパに関する部分の基礎知識を身に付けていることが望ましい。その不足を感じる場合には自ら参考書等で学習し補ってほしい。
- ・随時紹介する参考文献や授業中に配布する資料に目を通すこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

質問その他は授業後やオフィスアワーに受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系106

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世イタリアの反乱の政治文化と社会									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義のテーマは、中世後期イタリアの政治反乱である。</p> <p>中世のイタリアでは、都市コムーネとそこから展開する領域国家を舞台に、高度な政治文化が発達し、広範な層の人々が「政治」行為に関与した。本講義ではそのような政治文化の一環として、中世後期にイタリア半島の人々を動かした政治「反乱」を取り上げる。</p> <p>具体的には、成長する諸領域国家と教会の緊張関係の中で、14世紀の教会国家領で生じた反乱を、一つの国家を越えたネットワークと半島内諸国家関係に焦点を当てて検討する。そして成長する国家権力、諸国家の相互関係と同盟、聖俗の権力の再編の複雑な絡み合の中で、国家、君主、党派、戦争、共通善という諸問題を貫く中世の政治行為としての反乱がなぜ、いかにして成立したかを、イタリア半島の固有の文脈の中で理解した上で、中世ヨーロッパ政治史の中に位置付けることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>1. 中世イタリアとヨーロッパの国制史、政治社会史、政治文化史に関する基本的事項を理解する。</p> <p>2. 中世イタリア半島の具体的な文脈の中で、政治反の原因、条件、現象形態の特徴を理解する。</p> <p>3. 2の理解を中世ヨーロッパ史のより広い文脈の中で理解する。</p> <p>4.1～3について、適切な参考文献を活用しながら理解と考察を深め、自らの言葉で論理的に説明することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画に沿って授業を進めるが、講義の進展に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション なぜ中世イタリアの政治反乱を学ぶのか</p> <p>第2～3回 中世イタリア半島の反乱をめぐる研究史上の諸論点及び課題と展望</p> <p>第4～7回 中世イタリア半島の政治と国家 都市コムーネ、「シニョリーア」、領域国家と諸国家間関係のシステム</p> <p>第8～9回 分裂・暴君・共通善 あるべき統治とゲルフィとギベッリーニをめぐる諸問題</p> <p>第10回 教会国家とイタリア半島</p> <p>第11～14回 八聖人戦争と中北部イタリアの政治反乱</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布し、随時参考文献を紹介する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

・特に履修要件は定めないが、高校世界史の中世ヨーロッパに関する部分の基礎知識を身に付けていることが望ましい。その不足を感じる場合には自ら参考書等で学習し補ってほしい。
・随時紹介する参考文献や授業中に配布する資料に目を通すこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受付ます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系107

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		第二次世界大戦と現代世界									
【授業の概要・目的】											
<p>いうまでもなく、第二次世界大戦はその後の現代世界を強く方向づける出来事であった。最新の研究水準に則してこの戦争を理解することは、現代世界に身を置き、それを乗り越えようとする人々にとって、基礎的な教養といってもよい。主としてヨーロッパ現代史の文脈に据えて、きわめて複合的な第二次世界大戦の全体像を把握し、このトラウマ的経験がその後の世界に与えた影響を考察することが授業の課題となる。なお、2023度の授業は2022年度の改訂版であり、重複する内容が多く含まれる。</p>											
【到達目標】											
<p>高度な複合性を特徴とする第二次世界大戦をトータルに把握し、この戦争がその後の現代世界の展開に及ぼした甚大な影響を理解する能力を身に着けること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) 第二次世界大戦とは (3 回) (2) 1930年代のヨーロッパ (2 回) (3) 第二次世界大戦の展開 1939年 9 月 ~ 1941年12月 (3 回) (4) 第二次世界大戦の展開 1941年12月 ~ 1943年 2 月 (3 回) (5) 第二次世界大戦の展開 1943年 2 月 ~ 1945年 8 月 (3 回) (6) 総括 (1 回)</p> <p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>											
【履修要件】											
前期・後期の授業を通年で受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートによって評価する。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の関心に合わせて、第二次世界大戦関連の書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系108

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中立という選択肢：アイルランドの第二次世界大戦									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業を受け、第二次世界大戦というグローバルな動乱の中で中立のスタンスをとることの意味を、アイルランド（厳密には北アイルランドを除くエール）の経験を通じて考える。この授業もまた2022年度の改訂版であり、重複する内容が多いが、2023年度は特に、エールの首相としてイギリスとアメリカから執拗な参戦圧力を受けながらも中立を堅持したエールの首相デ・ヴァレラに注目する。20世紀の戦争において中立はどれほど有効な選択肢たりうるか、授業の中核的な問いはこれである。</p>											
【到達目標】											
<p>中立国の視点から第二次世界大戦を把握すると同時に、中立というスタンスに伴う困難とその可能性を理解する能力を身に着けること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) 第二次世界大戦の中立国（1回） (2) アイルランド・ナショナリズムとデ・ヴァレラ（2回） (3) 中立の選択（1回） (4) 「緊急事態」の到来（1回） (5) 検閲国家（1回） (6) ドイツの脅威（1回） (7) 参戦圧力と南北統一（1回） (8) アメリカン・ファクター（1回） (9) 「友好的中立」と戦争協力（1回） (10) 北アイルランドの大戦経験（1回） (11) 戦後（1回） (12) 「デ・ヴァレラのアイルランド」（1回） (13) 総括（1回）</p> <p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期の授業を受講していることが望ましい。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次の文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

小関隆『アイルランド革命、1913-23：第一次世界大戦と二つの国家の誕生』（岩波書店、2018年）

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系109

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食をめぐる研究の方法 2 明治大正期の食 3 アジア太平洋戦争までの食 4 戦後の食 5 牛乳の歴史学 6 品種改良の歴史学 7 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p> <p>ポール・ロバーツ 『食の終焉』</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系110

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食糧戦争としての第一次世界大戦 2 有機農業の歴史 3 毒ガスと農薬の歴史 4 トラクターの歴史 5 戦時期の農村女性たち 6 食糧戦争としての第二次世界大戦 7 フィードバック 											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
ポール・ロバーツ 『食の終焉』											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学文学部 助教 岸本 廣大			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「国際社会」としての古代ギリシア ポリスや連邦の外交									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアは、ポリスをはじめ、多様な共同体が並存し、相互にやりとりする「国際社会」であった。本講義では、そのような理解を前提に、古代ギリシア世界の共同体の特徴と、それらによって展開された外交的やりとりについて学ぶ。具体的には、古典期からローマ時代まで（およそ前5世紀～紀元2世紀）のポリスや連邦を対象とし、条約、諸特権の付与、紛争解決、使節演説といったトピックごとに講義する。それらを通じて、アテナイやスパルタといった特定の共同体の歴史ではない、「国際社会」としての古代ギリシアの特質を、歴史学的に理解することが、本講義の目的となる。また、そうした古代ギリシアの特質が、近現代においてどのように受容されたのかについても本講義では扱いたい。それによって後世における歴史の利用や可変的な一面について理解し、歴史に対する批判的な見方を学ぶことも目的の一つとなる。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)古代ギリシア史の基本的な事項や研究史上の論点を理解することができる。 (2)古代ギリシアの共同体の特徴および外交活動について、史料に基づいて理解し、その意義を歴史学的に考察することができる。 (3)近現代における古代史の受容を理解し、歴史の利用に対して批判的に考えることができる。 (4)以上の(1)～(3)について、参考文献を活用しながら、自らの言葉で説明することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>具体的には以下のように進めるが、受講生の理解度などに応じて、順番や内容を変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション 古代ギリシア史の概説とそれを学ぶ意義 2.ポリスとは何か? コペンハーゲン・ポリス・センターの研究から 3.連邦とは何か? 最新の研究動向から 4.条約と「独立」(1)「普遍平和」 5.条約と「独立」(2)アウトノミア 6.特権の相互付与(1)プロクセニア 7.特権の相互付与(2)市民権 8.紛争解決(1)仲裁 9.紛争解決(2)外国人判事 10.使節の演説(1)使節を務めた「国際人」 11.使節の演説(2)外交演説使節の演説 12.外交におけるコミュニケーションとメディア 13.ローマ支配下における「外交」(1)リュキア(小アジア) 14.ローマ支配下における「外交」(2)ギリシア本土 15.近現代における古代ギリシア史の「受容」 フィードバックの方法は、授業中に説明します。 											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

本講義では特別な前提知識は必要としないが、受講前に高校世界史の教科書で本講義に関連する部分（古代ギリシア、ローマ）を読んでおくことを推奨する。さらに、大学生向けの西洋史入門書や初回で紹介するような古代ギリシアに関する概説書にも目を通すのがより望ましい。

【成績評価の方法・観点】

・ 期末レポート(60点)

提示されたテーマについて、講義の内容を踏まえ、参考文献を活用したうえで、自身の考えを論理的に述べることを問う。

・ 平常点(40点)

毎回、講義の内容に関する課題を出す。課題は毎回授業の最初に提示し、対面授業であればその授業の最後に、オンライン授業であればPandAなどで1週間を目安に提出してもらう。それを通じて講義の内容の理解度を確認する。なお、課題への回答に加えて、講義内容についての質問などを書いてよい。その内容に応じて適宜加点することもある。

【教科書】

毎回講義の内容をまとめた資料を、PandAなどを通じて配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

・ 毎回出す課題については、次回の授業の冒頭で解説と前回の内容の復習を行うので、課題を中心に授業内容を復習して理解を深め、さらに参考文献などを読んで自分なりの考えをまとめておくこと。

・ 毎回の授業で示す参考文献に可能な限り目を通し、予習すること。

（その他（オフィスアワー等））

講義に関する質問には、授業後に対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系112

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学部 教授 桑山 由文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ローマ帝政前期のアテネとギリシア知識人									
[授業の概要・目的]											
ローマ帝国は共和政期半ばの前2世紀以降，東方ギリシア文化圏への支配を拡大していった。本講義はとくにギリシア本土のアテネに焦点をあて，この都市がローマ帝政前期にいかなる変容を遂げていったのかを検討すると同時に，ギリシア文化圏出身の知識人がそうしたアテネ，さらにはローマ帝国中央とどのような関係を築いていたのかを検討する。											
[到達目標]											
ローマ帝国支配下のギリシア文化圏およびその史的展開について一定の認識を得ることを到達目標とする。											
[授業計画と内容]											
以下のような流れで実施する。											
1. ガイダンス（1回） 2. 共和政期ローマ帝国の東方進出（2回） 3. アウグストゥス一族とアテナイ（4回） 4. 「アテネ」への変容：1，2世紀ローマ帝国の東方統治とギリシア知識人（6回） 5. 期末試験・フィードバック（2回）*フィードバック方法は授業中に説明											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
学期末の筆記試験（80点） 講義内容に即した記述ができているかどうかと，到達目標の達成度とに基づき評価する。 平常点（20点） 講義中に何度か行うミニレポートおよび授業態度											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
講義内容，配布資料について，授業前に見直しておくこと。授業中に別途指示することもありうる。											
（その他（オフィスアワー等））											
講義内容に関して不明な点があれば，積極的な質問を期待する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系113

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		二つの世界大戦と国際人道支援 イギリスのNGOに注目して									
【授業の概要・目的】											
イギリス史上に顕著な活発なチャリティ活動は、その範囲を国内に限ることなく、帝国全土および世界にまで広がっていた。この文脈を踏まえたうえで、本講義では二つの世界大戦をはさむ時期に実践された国際人道支援の具体的な諸相を、主として3つのイギリス系国際NGOに注目して描いていく。相互不信と敵意で引き裂かれた世界で、民間の「善意」がいかなる意味を持ち得たのかを検討する。国家や国民とは異なる主体に即して戦争と平和の歴史を考えたい。											
【到達目標】											
国際NGOの活動に触れることを通して、二つの世界大戦に彩られた20世紀前半の歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。											
【授業計画と内容】											
大づかみに構図を把握した方が理解が進むので、以下のテーマに従って、講義を進める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．序論 コンテキストの説明（1～2回） 2．三つのNGO イギリス赤十字、セーブ・ザ・チルドレン、オックスファム（3～5回） 3．20世紀初頭～第一次世界大戦（6～8回） 4．戦間期（9～10回） 5．第二次世界大戦（11～12回） 6．戦後期（13回） 7．結論と展望（14回） 8．フィードバック（15回） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。 論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度確認しておくとう理解が深まるであろう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系114

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	ポスト・ナポレオン期の国際秩序とバーバリ諸国問題 イギリスのチャリティ団体に 注目して										
【授業の概要・目的】											
19世紀初頭に、長く続いた大西洋での黒人奴隷貿易と、地中海での「もうひとつの奴隷貿易」、すなわち北アフリカのバーバリ諸国による白人の虜囚化と身代金ビジネスは、ナポレオン戦争終結後に形成される新たな国際秩序において、原則として否定された。本講義では、あるイギリスのチャリティ財団が行った19世紀初頭の虜囚救出実践から、国際的な「もうひとつの奴隷貿易」禁止のプロセスと大西洋奴隷貿易の廃止、そして新たな国際秩序の形成のかかわりを究明する。											
【到達目標】											
相対的に知られていない「もうひとつの奴隷貿易」の基本的な知識を獲得するとともに、ポスト・ナポレオン期の国際秩序の特性を理解できるようになる。											
【授業計画と内容】											
大づかみに構図を把握した方が理解が進むので、以下のテーマに従って、講義を進める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．序論 コンテキストの説明（1～2回） 2．近世地中海と白人奴隷（3～5回） 3．ベットン財団の沿革（6～7回） 4．19世紀初頭の虜囚救出実践（8～11回） 5．国際秩序とバーバリ諸国（12～13回） 6．結論と展望（14回） 7．フィードバック（15回） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。 論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

配布する資料を予習・復習に用いること。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度、確認しておくとう理解が深まるであろう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系115

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習I） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 I（西洋古代史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。一部を同時双方向型メディア授業とし、多様な素材を通じて西洋古代史をより深く理解することも目的の一部とする。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代史の基本的な歴史的事象と代表的な歴史学的論点を理解することで、自身の研究を遂行できるようになる。学部3回生にあっては、卒業論文の研究テーマの選択や一次史料・二次文献の収集・分析の方法の基礎を習得できる。4回生以上は、自身の卒業論文研究をさらに深化させることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。</p> <p>前期の演習では、前年度に引き続き、古典期・ヘレニズム期の経済史を刷新したAlain Bresson, <i>The Making of the Ancient Greek Economy</i> (2016) を講読する。講読にあたって、一次史料の分析を組み合わせることで、基礎的な歴史的知識を養うと同時に、これまで学界で議論されてきた重要な論点の意義と将来性を見抜く能力を獲得する。各受講生は、この演習での経験をもとに、各自の研究の深化を図ってほしい。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（同時双方向型メディア授業、1回） 2. テキスト前半部の復習と遺跡等紹介（同時双方向型メディア授業、2回） 3. テキスト講読と遺跡等紹介（同時双方向型メディア授業、3回） 4. 受講生の研究報告（対面授業、8回、7月15日（土）と7月22日（土）に行う） 5. まとめ・フィードバック（1回） 											
【履修要件】											
<p>古代ギリシア語やラテン語の読解能力、および西洋古代史の専門的知識は必須の履修要件ではない。西洋古代史の分野で卒業論文を執筆することを考えている学生の出席を授業の前提とする。</p>											
----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習I）(2)

【成績評価の方法・観点】

報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。

【教科書】

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

配布したテキストの事前の予習が不可欠である。相当の勉強時間が必要になるかもしれないが、この作業を通じて、自身の研究テーマに関する外国語文献を読み通す力と自信を手に入れることができる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系116

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習I） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 I（西洋古代史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。一部を同時双方向型メディア授業とし、多様な素材を通じて西洋古代史をより深く理解することも目的の一部とする。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代史の基本的な歴史的事象と代表的な歴史学的論点を理解することで、自身の研究を遂行できるようになる。学部3回生にあっては、卒業論文の研究テーマの選択や一次史料・二次文献の収集・分析の方法の基礎を習得できる。4回生以上は、自身の卒業論文研究をさらに深化させることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。 後期の演習では、受講生が順に各自の研究報告をおこなう。その際、それぞれのテーマに関係の深い文献を、受講生全員で講読する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生の研究報告と関連文献の講読ならびに遺跡等の紹介（同時双方向型メディア授業、6回） 2. 受講生の研究報告と関連文献の講読（対面授業、8回、1月27日（土）と1月28日（日）に行う） 3. まとめ・フィードバック（1回） 											
【履修要件】											
<p>古代ギリシア語やラテン語の読解能力、および西洋古代史の専門的知識は必須の履修要件ではない。西洋古代史の分野で卒業論文を執筆することを考えている学生の出席を授業の前提とする。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。</p>											
----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習I）(2)

[教科書]

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

配布したテキストの事前の予習が不可欠である。相当の勉強時間が必要になるかもしれないが、この作業を通じて、自身の研究テーマに関する外国語文献を読み通す力と自信を手に入れることができる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系117

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習II） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 II （西洋中世史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、ヨーロッパ史に関係する欧米の相対的に新しい英語研究文献を読解し議論する。これにより英語で専門研究文献を精読する力を養うとともに、現在の歴史学方法論、解釈理論、史料論、および研究上の諸論点を学び、理解を深め、ヨーロッパ史についての基本的な知識を身に着ける。本演習では中世史を中心に扱うが、テキストの一部は近世も対象とする。</p> <p>今回のテーマは中・近世における「領土territory」である。</p> <p>「領土」とは何だろうか。歴史学のみならず、広く人文諸科学において「領土」は近代主権国家論の中核をなす。近年の前近代史研究は「領土」に対する排他的統治権を行使する主権国家概念を、前近代の現実に基づいて批判的に乗り越えてきた。「領土」は「西洋近代」の思考と行動の枠組みと不可分に結びついているが故に、歴史学を越えて思想、文化、社会を扱う諸分野を横断する重要性を持つ。ゆえに、近代的「領土」観の相対化とともに、前近代の「領土」の現実と「領土」観を統合的に明らかにしてゆくことが、ヨーロッパ前近代史研究が知の枠組みの刷新に活かされるための重要な道の一つであると言える。</p> <p>今回の演習では、この問題に関する最新の研究成果に向き合い、歴史研究の思考力と知識と技術を磨きながら、参加者各自が新たなヨーロッパ史像を考えることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による西洋史学の専門文献の読み方を習得する。 ・ 授業で扱うテーマを中心に、ヨーロッパ史に関する歴史学研究上の諸論点を理解する。 ・ 専門的な文献と史資料の理解に基づいた議論を行い、適格な説明や問題提起を行うことができるようになる。 ・ 各参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業は総合人間学部、人間・環境学研究科、文学研究科の授業と共通。英語文献精読のテキストとして以下のものを用いる。</p> <p>Mario Damen, Kim Overlaet (eds), Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe, Amsterdam University Press, 2022.</p> <p>授業は基本的に以下の計画にそって進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回はイントロダクションとして取り上げる文献の概要と方法論、研究状況についての導入的説明を行う。また中世史を中心にヨーロッパ史研究の基本的な道具を紹介し、授業の進め方の確認と担当の分担を行い、補足的な導入用文献の配布を行う。</p>											
----- 西洋史学（演習II）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習II）(2)

第2回～第14回は文献Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europeの読解・発表・議論を行う。受講生の関心と必要に応じて、適宜補助的な資料の配布と読解、説明、議論を行う。各回の内容は以下の通り。

第1回 イントロダクション

第2回 Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe: An Introduction (Mario Damen and Kim Overlaet)

Part 1 The Multiplicity of Territory

第3回 第1章 Were There ‘ Territories ’ in the German Lands of the Holy Roman Empire in the Fourteenth to Sixteenth Centuries? (Duncan Hardy)

第4回 第2章 Beyond the State: Community and Territory-Making in Late Medieval Italy (Luca Zenobi)

Part 2 The Construction of Territory

第5回 第3章 Clerical and Ecclesiastical Ideas of Territory in the Late Medieval Low Countries (Bran van den Hoven van Genderen)

第6回 第4章 Marginal Might? The Role of Lordships in the Territorial Integrity of Guelders, c. 1325-c. 1575. (Jim van der Meulen)

第7回 第5章 Demographic Shifts and the Politics of Taxation in the Making of Fourteenth-Century Brabant (Arend Elias Oostindier and Rombert Stapel)

第8回 第6章 From Knights Errant to Disloyal Soldiers? The Criminalisation of Foreign Military Service in the Late Medieval Meuse and Rhine Regions, 1250-1550 (Sander Govaerts)

第9回 第7章 Conquest, Cartography and the Development of Linear Frontiers during Henry VIII ’ s Invasion of France in 1544-1546 (Neil Murphy)

第10回 第8章 From Multiple Residences to One Capital? Court Itinerance during the Regencies of Margaret of Austria and Mary of Hungary in the Low Countries (c. 1507-1555) (Yannick De Meulder)

Part 3 The Representation of Territory

第11回 第9章 Heraldry and Territory: Coats of Arms and the Representation and Construction of Authority in Space (Mario Damen and Marcus Meer)

第12回 第10章 The Territorial Perception of the Duchy of Brabant in Historiography and Vernacular Literature in the Late Middle Ages (Bram Caers and Robert Stein)

第13回 第11章 Imagining Flanders: The (De)construction of a Regional Identity in Fifteenth-Century Flanders (Lisa Dements)

第14回 第12章 Mapping Imagined Territory: Quaresimo ’ s Chrographia and Later Franciscan Holy Land Maps (Marianne Ritsema van Eck) / Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe: A Conclusion (Mario Damen and Kim Overlaet)

第15回 フィードバック

[履修要件]

ヨーロッパの歴史や文化に関心を持ち、英語の研究文献を読む意欲を有すること。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

西洋史学（演習II）(3)へ続く

西洋史学（演習II）(3)

[教科書]

Mario Damen, Kim Overlaet (eds) 『Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe』 (Amsterdam University Press, 2022.) ISBN:9789463726139 (テキストとなる文献の入手については別途指示する。補足資料は随時配布する。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

文献の予習は必須。随時紹介・配布する参考となる文献や資料も読んでおくこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

(その他（オフィスアワー等）)

演習では主体的に関わっただけの成長が得られるので、しっかり文献を読み込み準備をした上で、積極的に臨んでください。また、ぜひとも討論を大切にしてください。意見や疑問をぶつけあい共有することで、一人では決して得られないものにたどり着くことができます。共に学ぶためにお互いに貢献し合ってほしいと思います。

質問その他は授業の前後の時間とオフィスアワーに受け付ける他、メール連絡にも対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習II） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 II （西洋中世史演習）									
【授業の概要・目的】											
西洋中世史学の研究方法と研究成果を表現し他者に伝える方法を学ぶ。そのためにまず西洋中世史料論を学び、ついで各参加者が自らの研究課題を定め、具体的な研究を実践し、研究報告を行う。											
【到達目標】											
各演習参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 3回生は、自らの研究課題を選択して史資料や文献を収集、分析するとともに、史料の類型や性質を学ぶ。 4回生は、自らの研究を深化発展させ、まとめ上げる力を身に着ける。											
【授業計画と内容】											
研究の技術と知識習得のための共通課題として、史料論の学習や史資料研究の実習に一部の時間を充てる。今年度はJ・アーノルド『中世史とは何か』、高山博・池上俊一編『西洋中世学入門』第2部「西洋中世社会を読み解くための史料」を参考資料としつつ、史料類型を学び、各回に具体的な史料を取り上げ学習する。 次いで、参加者各自が設定したテーマに沿った個人研究の口頭報告と、参加者全員による質疑応答と討論、助言や指導を行う。その際、研究を進めるプロセスの各ステップにおいて習得すべき事柄に毎回焦点を当てる。 大学院人間・環境学研究科、総合人間学部、文学研究科の授業と共通。 基本的に以下の計画にそって授業を進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。											
第1回 イン트로ダクション 参加者各自の興味や研究課題を確認し、授業の進め方の確認と発表の割り当てを行う。											
第2回 『西洋中世学入門』序論「西洋中世学の世界」（高山博・池上俊一）、『中世史とは何か』第1章「中世を枠付ける リアルとフィクション」											
第3回 『中世史とは何か』第2章「中世を追跡する / 史料と痕跡」											
第4回 『西洋中世学入門』第11章 「統治・行政文書」（佐藤彰一）											
第5回 『西洋中世学入門』第12章 「法典・法集成」（直江真一）											
第6回 『西洋中世学入門』第13章 「叙述史料」（有光秀行）											
第7回 『西洋中世学入門』第14章 「私文書」（徳橋曜）											
第8回 『西洋中世学入門』第15章 「教会文書」（甚野尚志・印出忠夫）											
第9回 受講生の研究発表 -先行研究を整理し問を設定する											
第10回 受講生の研究発表 -史料の性格を把握する											
第11回 受講生の研究発表 -史料を分析する											
第12回 受講生の研究発表 議論を論理的に組み立てる											
第13回 受講生の研究発表 自説を位置付ける・意義付ける											
第14回 研究発表の振り返りと総合討論											
----- 西洋史学（演習II）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習II）(2)

第15回 フィードバック

【履修要件】

ヨーロッパの歴史や文化に関心を有すること。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

【教科書】

高山博・池上俊一（編）『西洋中世学入門』（東京大学出版会，2005年）
ジョン・H・アーノルド（著），図師宣忠・赤江雄一（訳）『中世史とは何か』（岩波書店，2022年）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各自の研究テーマに沿って計画的に史料や文献の読み込み、分析、整理、考察を行い、研究を進めておく。また、口頭報告の準備には十分な時間をとること。

（その他（オフィスアワー等））

演習での研究は、世界にたった一つのあなたの研究成果です。演習ではそれぞれの「たった一つ」を対話の中でともに育て磨き上げてゆきます。積極的に臨み、議論による共有と創造を楽しんでください。質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受付ます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系119

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 講師		小山 哲 安平 弦司	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近世史演習）									
【授業の概要・目的】											
近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヨーロッパの近世史上の主要な問題について、テーマごとに研究上の論点を整理し、多角的に論じた次の本をとりあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や考察の特徴について議論する。</p> <p>C. Scott Dixon and Beat Kümin (eds.), <i>Interpreting Early Modern Europe</i>, Routledge: London and New York, 2020.</p> <p>参加者全員による討論をつうじて、ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、近世史を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるか、この時代を理解するためにはどのような視点や研究の手法が有効か、といった問題を、さまざまな角度から検討する。</p> <p>イントロダクション（第1回）に続けて、各回（第2回～第15回）に上記の本を読み、内容を理解したうえで、近世ヨーロッパ史にかかわる諸問題について議論する。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いにもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。											
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

[教科書]

使用するテキストの入手については、別途指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 毎回、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系120

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 講師		小山 哲 安平 弦司	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近世史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>近世のヨーロッパ史上の個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。必要に応じて近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献をとりあげて読解し、議論する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・受講生各自が研究発表を行なうことにより、各受講生の専門的な研究を深化させるとともに、発表に説得力をもたせるにはどのような工夫が必要かを考え、実践する経験を積む。 ・関連する英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回以降： 参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う。 また、関連するテーマのについて英語による文献を全員で読解し、議論する。 参加者の研究発表には第2回から偶数回を、文献の読解・議論には第3回から奇数回をあてる予定であるが、受講生の人数によって変更することもありうる。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>研究発表、討論への参加の度合い、授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。</p>											
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・受講生各自が関心のあるテーマについて個別発表を行なうので、そのための研究を各自で進めておくことが必要である。
- ・文献を読む回については、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系121

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近代史演習）									
[授業の概要・目的]											
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、まとまった分量の欧米の研究文献を精読することを課す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、本演習では、1～2回目にイントロダクションを行ったうえで、3～13回に、大きくまた斬新なテーマを多方面から詳細に扱っている研究文献Glenda Sluga, <i>The Invention of International Order: Remaking Europe after Napoleon</i> (Princeton University Press, 2021)を、分担を決めて読んでいく。そして14～15回で総括をする。こうして、広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
各回の英語文献の予習は必須。内容理解を深めるために、関連する日本語文献も復習を兼ねて適宜読み進めていくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系122

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近代史演習）									
[授業の概要・目的]											
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、個別の自由発表を行うことを課す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> 西洋近代の諸事象について、歴史的な意識を持って考えられるようになる。 歴史的な諸論点を理解することができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、1回のイントロダクションの後、2～14回に、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらい、批判的に議論をし、幅広い地域の諸テーマについて皆で理解を深め、15回目に総括する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
自由報告を行うための準備はおこたりにく進めるものとし、演習での指摘を活かして勉学を継続すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
受講者に対するこの演習の効果は、自分の報告のためにどれだけしっかり準備したか、そして他の報告にどれだけ批判的に介入し質問や提言などの形で貢献したかに左右される。ただ漫然と読んでまとめる、聞いて理解するというだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系123

科目ナンバリング		U-LET26 46947 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(演習Ⅴ) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲	文学研究科 教授 金澤 周作	文学研究科 講師 安平 弦司	
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 (卒論演習)									
[授業の概要・目的]											
卒業論文の研究テーマについて、参加者が中間報告をおこない、教員3名と受講者の全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、卒業論文の完成度を高めることを目標とする。西洋史学専修4回生は必修。											
[到達目標]											
卒業論文は、文学部での勉強を集大成するものであり、西洋史学専修においても、専門とする時代や領域の違いはあれ、西洋史学の学問的な達成を示す場と位置づけている。この授業の目的は、重要な意義を持つ卒業論文作成に向けて、質の高い論文となるように、教員の助言と参加者全員の討論を通じて、卒論執筆予定者が学んでいくことである。 何を問題として取り上げるか、何を素材として論じるのか、先行の研究がどのような学説を展開し、それにはどのような問題が含まれているのか、史資料の分析の結果浮かび上がった歴史的諸事実や様相をどのように解釈すべきか、得られた結論はより広い研究領域の文脈の中でどのように位置づけられるか、おおむね以上のような点をしっかりと理解し、史資料の分析を通して独自性を備えた自らの学説を手にすることが、本授業の具体的な目標となる。また、問題設定から分析、そして結論に至るまでの過程を、適切な日本語で表現することも、卒業論文において達成すべき課題の一つであり、そうした能力を、中間報告への教員のコメントを聞きながら、受講生が習得することも、この授業の達成すべき目標である。											
[授業計画と内容]											
授業参加者は、第1～30回の授業の中で原則として2回(前期・後期に各1回)、自身の研究の成果を発表する。前期の発表では、卒業論文の研究テーマを設定した上で、そのテーマに関する研究状況を調査して問題点を抽出し、今後の研究の計画を提示することを課題とする。後期の発表では、自ら設定した研究の課題について、史資料や研究文献を踏まえて検討し考察した内容について報告して、卒業論文の概要を提示することを課題とする。授業参加者には、互いの研究発表を聞くことを通じて西洋史学上の様々な研究テーマに関する理解を深めると同時に、討論に積極的に参加し、各自の研究発表について疑問点や問題点を指摘し合うことによって、卒業論文の質を向上させていくことが求められる。 なお、フィードバックについては、その時間に教員が研究室内に待機し、授業内容に関わる質問に来た学生に対して解説する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
成績については、担当する2回(前期・後期の各1回)の研究報告や授業での討論への参加を基に総合的に評価する。卒業論文執筆に向けて、西洋史学研究の基本を習得した上で研究が適切に実践さ											
----- 西洋史学(演習Ⅴ)(2)へ続く -----											

西洋史学(演習Ⅴ)(2)

れ、質の高い論文の執筆へと進んでいるか、その達成度を評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

本演習は、卒業論文の準備のための授業である。したがって、卒業論文の執筆に向けて授業時間外に十分な学習を積み重ねることが、授業に参加する前提である。また、授業後は、自分の報告時はもちろんのこと、他の受講者の報告の時も、授業で指摘された重要点を自らの研究の状況に照らし合わせ取り込み、研究を改訂していく作業が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系124

科目ナンバリング		U-LET26 26950 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>考古学の射程を大幅に広めたことで名高いV・G・Childeの出世作にして最高傑作である『The Dawn of European Civilization』(6版)の精読をつうじて、ヨーロッパ新石器時代の概要、考古学の方法論、本書が世界考古学および日本考古学におよぼした影響、などを習得する。テキストの輪読と内容についての解説および議論が、講読の基本的な枠組みとなる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ先史考古学の展開と現代的課題を理解する。 ・その理解をふまえて、考古学の基本的な方法論を習得し、物質文化的思考を身につける。 ・考古学の基礎的な用語と概念、その英語表現を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション：授業の概要と進め方を説明する。 第2回 テキストの概要の解説 第3～29回 テキスト『The Dawn of European Civilization』(6版)の精読 20回前後までは構文把握を重視した全文訳をする。それ以降は段落の要約を重視したうえで、論理構成を意識しつつ訳出する。 第30回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>考古学の基礎的な概念や方法・作業仮説などを理解していないと履修に困難を来すので、履修の前提として、考古学入門書を読破する程度の作業はすませておくこと。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>総合評価。 平常点評価(50%)：授業時の訳出の出来、質疑への回答の出来などから評価する。 年度末レポート(50%)：受講生各自に課題テキストをあたえ、その全訳と解説を課す。 欠席数によっては、年度末課題の量が多くなる。講義に関する内容で発言を求められた際に、「わかりません」という回答のように自身の見解を明示しない消極的姿勢は、平常点での減点対象となる。</p>											
【教科書】											
<p>Gordon Childe 『The Dawn of European Civilization : 6th edition』 (Routledge & Kegan Paul, 1957年) ISBN:SBN:710049617 (本講読で使用するテキストは6版(1957年初刷)である。別版を購入したり複写すると無駄足になるので要注意。6版は京都大学の図書館に所蔵されていないが、講読担当教員は所蔵しているので、閲覧希望者は申し出ること。)</p>											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

・講義で読むところは予読(できるかぎり訳出)しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

受講生の多寡や専門熟達度を考慮して講読する章を決定し、受講生に通達する。テキストの読み進め方は、文章や段落ごとに和訳担当者を決める1人1段落方式を基本とするが、分量や内容に応じて数文単位になることもある。担当者は講読当日に指名する。日本語訳だけでなく、内容を理解できていることが重要なので、テキストの内容について下調べも必要になる。また、述語や重要事項などについて、調べ物作業を課すことがあるが、その際には出席者分の資料を用意すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系125

科目ナンバリング		U-LET26 26955 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 藤田 風花			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、M. Mazower (2000), The Balkans: From the End of Byzantium to the Present Day, London: Weidenfeld & Nicolsonの一部を読む。本書は、暴力、野蛮、後進性といった否定的なイメージと結びつけられがちなバルカンという地域の視点から、近代ヨーロッパ史を捉えなおそうとするものである。著者は、宗教にもとづく帰属意識のあり方など、この地域に特有の近代国家形成の諸前提を示し、ヨーロッパの近代史についての西欧中心的な見方を批判する。本書の精読をつうじて、英語で書かれた研究文献の読解力を向上させるだけでなく、南東欧における近代国家の形成をめぐる諸問題や、そこから逆照射される西欧の諸問題についての理解を深めることが、本授業の目的である。</p> <p>授業にさいして、予習は毎週必須である。また、毎回授業内に課題として和訳を提出してもらう予定である。</p> <p>本授業は講読の授業であるが、読解するうえで必要と思われる背景知識についても、授業中に適宜解説する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語で書かれた学術文献の基礎読解力を身につける。 ・ 南東欧における国民国家形成史や近世近代ヨーロッパ史にかかわる諸論点を理解できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：オリエンテーション 指定テキストのおおまかな内容や、授業の進め方、予習の仕方、発表の仕方、課題と評価方法等について説明する。</p> <p>第2～14回：訳読・解説 授業は、参加者全員が予習をしていることを前提に進める。その場で担当者を指名し、1人1段落程度を目安に訳読してもらう。</p> <p>第15回：フィードバック フィードバックの内容については、授業中に指示する。</p>											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業中の訳読と毎回の課題内容）によって評価する。

【教科書】

M. Mazower 『The Balkans: From the End of Byzantium to the Present Day』（Weidenfeld & Nicolson, 2000）ISBN:978-1842125441（担当教員がコピーを配布する。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に指定された範囲の予習を必ず済ませること。
予習の際は、辞書を用いて読んでいくだけでなく、関連する内容について適宜自分で調べながら、指定テキストに書かれている内容に対する理解を深めつつ読み進めることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

履修定員を40名とし、履修人数制限を行うため、履修を希望する者は履修人数制限科目申込期間にKULASISから申し込むこと。他学部聴講（文学研究科生含む）および非正規生の履修は認めない。

なお、以下の条件順で抽選を実施し、履修を許可する。

- 西洋史学、科学哲学科学史、メディア文化学、現代史学専修所属の4回生
- 西洋史学、科学哲学科学史、メディア文化学、現代史学専修所属の3回生
- 歴史基礎文化学系、基礎現代文化学系所属の2回生
- 以外の文学部生

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系126

科目ナンバリング		U-LET26 26955 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 宮崎 涼子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、次の本を講読する。 Morgan Pitelka and Alice Y.Tseng(eds.), Kyoto Visual Culture in the Early Edo and Meiji Periods: The arts of reinvention, New York, Routledge, 2016.</p> <p>794年の平安遷都以来、京都は時代によりその存在意義を大きく変化させ、かなりの中断を経ながらも発展を続け、今日では「日本の真髄」としてのアイデンティティが構築されるに至っている。本書は、社会変革により政治的に疎外された二度の特定の時期（17世紀と19世紀後半）の京都の文化生産について、複数の研究者が様々な学問的観点から解釈を示すものである。本書の精読を通じ、英語の学術文献を読解する能力はもちろん、日本近代文化史に関する基礎的知識や歴史研究の方法論的視座を獲得してもらうことが、本授業の目的である。</p> <p>授業ではまずIntroductionを読み、その後は19世紀後半について扱ったPartIIの各章を時間が許す限り読んでいく。授業内では、英書講読という本旨から外れない範囲で、テキストの背景的知識についても適宜確認する時間を設ける。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語で書かれた学術文献を正確に読解できるようになる。 ・ 日本近代文化史に関する基礎的知識を獲得する。 ・ 歴史研究の方法論的視座を獲得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業ガイダンス テキストのおおまかな内容や授業の進め方、予習の仕方、発表の仕方、評価方法等について説明する。</p> <p>第2～13回：テキストの精読 出席者全員が予習していることを前提とし、当日指名する受講者に該当箇所を音読のうえ訳してもらう形で授業を進める。 進度は受講者の英語力等によって調整する。</p> <p>第14回：授業中試験</p> <p>第15回：フィードバック</p>											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業への参加状況、予習の充実度、授業内での発言など・80%）と試験（20%）により総合的に判断する。

【教科書】

Morgan Pitelka and Alice Y.Tseng(eds.) 『Kyoto Visual Culture in the Early Edo and Meiji Periods: The arts of reinvention』 (Routledge, 2016) ISBN:9780367026752

担当教員がコピーを配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に予告された範囲の予習を必ず済ませたうえで授業に臨むこと。

予習に際しては、辞書で分からない語の意味を確認して不自然でない訳文を作成するとどまらず、本文に登場する人物や出来事等についても適宜自分で調べ、テキストの内容をより深く理解しながら読み進めることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

履修定員を40名とし、履修人数制限を行うため、履修を希望する者は事前申込期間にKULASISアンケートシステムから事前申込（予備登録）をすること。

他学部聴講（文学研究科生含む）および非正規生の履修は認めない。

なお、以下の条件順で抽選を実施し、履修を許可する。

西洋史学、科学哲学科学史、メディア文化学、現代史学専修所属の4回生

西洋史学、科学哲学科学史、メディア文化学、現代史学専修所属の3回生

歴史基礎文化学系、基礎現代文化学系所属の2回生

- 以外の文学部生

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系127

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 小俣ラポー 日登美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		「他者」をめぐる様々な歴史的表象と言説を考える									
[授業の概要・目的]											
<p>学術的なドイツ語文献の読解・運用能力を高める目的で、ドイツ近世史をテーマとする研究テキストを購読する。いわゆる大航海時代以降、複数の世界が接続されたことでヨーロッパは様々な他者と邂逅した。このようなテーマに関しては、新世界やアジアに進出していった南欧諸国やフランドル地方についての研究が注目されがちであるが、実は直接の接触がほぼなかったヨーロッパ内陸のドイツ語圏にもその余波はあった。「アメリカ」はバロック期のドイツ語圏にどのような影響を与えたのか、そしてその「他者」認識は、ヨーロッパ内の「他者」(宗教的他者、イスラム教)の把握にどのように反映したのだろうか。この時代は、ドイツ語圏の歴史上、「他者」とのコンタクトが起こした戸惑いや違和感が、特に様々な表象として残された時代である。多様性が叫ばれる現代こそ、多様性が意識され始めた時代を振り返ることは意味があるだろう。</p> <p>本講義では、これらの問題を扱う以下の三つのテキストの精読を行なっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Karl Kohut, Von der Weltkarte zum Kuriositaetenkabinet Amerika im deutschen Humanismus und Barock (1995) ・ Dominik Sieber, Jesuitische Missionierung, priesterliche Liebe, sakramentale Magie (2005) ・ Eckhard Leuschner, Das Bild des Feindes, Konstruktion von Antagonismen und Kulturtransfer im Zeitalter der Tuerkenkriege (2013) <p>出席者は日本語翻訳をあらかじめ各自用意し、割り当てられた担当部分については、学期中に必ず1度は授業中に発表する。その他の出席者も必ず予習をして臨み、意見・質問を出すことが望ましい。</p>											
[到達目標]											
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。また、ドイツ語の検定試験として世界的に有名なゲーテ試験と言われる試験の準備本などを用いて、語彙や文法も勉強する。授業内容によっては適宜、映像・画像を用いながら授業を進めていくので、ドイツ語を勉強するモチベーションの維持のように、この授業を捉えてくなくても構わない。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション											
第2回-第14回 テキスト講読											
第15回 フィードバック											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[履修要件]

ドイツ語の基礎文法を既習していること。

[成績評価の方法・観点]

平常点・授業中小テスト（60パーセント）、担当回の翻訳（40パーセント）で総合的に勘案する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当者は、決められたテキストの指定範囲を事前に予習してきて、皆の前で翻訳する。
ドイツ語文法や語彙の小テストは、特に準備は要求しないが、間違ったところを復習するようにする。

（その他（オフィスアワー等））

上記テキストの全てを読むのではなく、出席者の希望に応じて割り当てを決めるため、自分で読みたい部分の希望を出したい人は、必ず授業の最初の回は出席するようにしましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系128

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 小俣ラポー 日登美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		「他者」をめぐる様々な歴史的表象と言説を考える									
[授業の概要・目的]											
<p>学術的なドイツ語文献の読解・運用能力を高める目的で、ドイツ近世史をテーマとする研究テキストを購読する。いわゆる大航海時代以降、複数の世界が接続されたことでヨーロッパは様々な他者と邂逅した。このようなテーマに関しては、新世界やアジアに進出していった南欧諸国やフランドル地方についての研究が注目されがちであるが、実は直接の接触がほぼなかったヨーロッパ内陸のドイツ語圏にもその余波はあった。「アメリカ」はバロック期のドイツ語圏にどのような影響を与えたのか、そしてその「他者」認識は、ヨーロッパ内の「他者」(宗教的他者、イスラム教)の把握にどのように反映したのだろうか。この時代は、ドイツ語圏の歴史上、「他者」とのコンタクトが起こした戸惑いや違和感が、特に様々な表象として残された時代である。多様性が叫ばれる現代こそ、多様性が意識され始めた時代を振り返ることは意味があるだろう。</p> <p>本講義では、これらの問題を扱う以下の三つのテキストの精読を行なっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Karl Kohut, Von der Weltkarte zum Kuriositaetenkabinet Amerika im deutschen Humanismus und Barock (1995) ・ Dominik Sieber, Jesuitische Missionierung, priesterliche Liebe, sakramentale Magie (2005) ・ Eckhard Leuschner, Das Bild des Feindes, Konstruktion von Antagonismen und Kulturtransfer im Zeitalter der Tuerkenkriege (2013) <p>出席者は日本語翻訳をあらかじめ各自用意し、割り当てられた担当部分については、学期中に必ず1度は授業中に発表する。その他の出席者も必ず予習をして臨み、意見・質問を出すことが望ましい。</p>											
[到達目標]											
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。また、ドイツ語の検定試験として世界的に有名なゲーテ試験と言われる試験の準備本などを用いて、語彙や文法も勉強する。授業内容によっては適宜、映像・画像を用いながら授業を進めていくので、ドイツ語を勉強するモチベーションの維持のように、この授業を捉えてくなくても構わない。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション											
第2回-第14回 テキスト講読											
第15回 フィードバック											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[履修要件]

ドイツ語の基礎文法を既習していること。

[成績評価の方法・観点]

平常点・授業中小テスト（60パーセント）、担当回の翻訳（40パーセント）で総合的に勘案する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当者は、決められたテキストの指定範囲を事前に予習してきて、皆の前で翻訳する。
ドイツ語文法や語彙の小テストは、特に準備は要求しないが、間違ったところを復習するようにする。

（その他（オフィスアワー等））

上記テキストの全てを読むのではなく、出席者の希望に応じて割り当てを決めるため、自分で読みたい部分の希望を出したい人は、必ず授業の最初の回は出席するようにしましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系129

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の第IV章を講読する。											
Daniel Beauvois, La Pologne. Des origines à nos jours, Éditions du Seuil: Paris, 2010.											
本書は、フランスの歴史家によるポーランド史の通史である。第IV章では18世紀のポーランド分割について論じている。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系130

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の第VII章を講読する。											
Daniel Beauvois, La Pologne. Des origines à nos jours, Éditions du Seuil: Paris, 2010.											
本書は、フランスの歴史家によるポーランド史の通史である。第VII章では第二次世界大戦時の状況について論じている。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系131

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下の文書をテキストとする予定である。 (1862) [ゲルツ エン「終わり始まり」]											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系132

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
前記に引き続き以下の文書をテキストとする予定である。 (1862) [ゲルツ エン「終わり始まり」] 後期のみ受講者にも支障のないよう、前期に読んだ部分の日本語要約を配布した上で、新しい章(書簡)から講読していく予定。 ただし、事情によってはテキストを変更する可能性もある。 第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーは、火曜4限とする。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系133

科目ナンバリング		U-LET26 26959 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(前期)									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀のイタリアを概観したSimona Colariziの“Storia del Novecento italiano”の第4章：La nascita della dittatura (1922-1929)の冒頭から読み始めます。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえに、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずで</p> <p>本書の文章は明晰なイタリア語散文であり、これを精読することによって伊語テキストの読解力を効率よく培うことができるでしょう。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・平易なイタリア語文献を自力で読解できるようになること。 ・イタリア近現代史の基礎知識を習得すること。 											
【授業計画と内容】											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回(イントロダクション)											
授業の進め方、評価方法について説明します。あわせて使用テキストと講読する章を簡単に紹介します。											
2回～14回											
必要に応じてイタリア語文法を確認しながら読み進めます。重要な専門用語や固有名詞については適宜説明を入れる予定です。											
15回 フィードバック											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回提示する簡単な和訳の問題をもとに評価します。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習に際しては、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに把握することに努めましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系134

科目ナンバリング		U-LET26 26959 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>ルイーダ・サルヴァトレッリのイタリア史の概説書“Sommaro della storia d'Italia”から、第9章<Papato, Angiò, e Signorie>を精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずで</p> <p>また著者サルヴァトレッリの文章はオーソドックスなイタリア語散文であり、これを精読することで伊語テキストの読解力を効率よく身につけることができます。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語文献を自力で読み解くことができるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、評価方法について確認をします。あわせて後期の講読テキストについて簡単に説明をします。</p> <p>2回～14回(講読) 必要に応じて文法事項を確認しながらテキストを読み進めます。重要な専門用語や固有名詞についても適宜補足説明をする予定です。</p> <p>15回(フィードバック)</p>											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習にあたっては、文法の知識に基づいて正確に文を読み解くことを心がけましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系135

科目ナンバリング		U-LET26 36961 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ポーランド書講読									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の第5章以降を講読する。											
Andrzej Chwalba, Wojciech Harpula, Polska-Rosja. Historia obsesji, obsesja historii, Wydawnictwo Literackie: Krak#243w, 2021.											
本書はポーランドとロシアの関係史のなかから争点となりがちな問題を取りあげて、ポーランドのジャーナリストとポーランド近現代史の専門家が語り合った、対話形式の本である。第5章は、18世紀のポーランド分割の時代を扱っている。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド・ロシア間の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系136

科目ナンバリング		U-LET26 36960 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(実習) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師		小山 哲 金澤 周作 安平 弦司	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学(実習)									
【授業の概要・目的】											
この授業は、学生が西洋史の卒業論文を作成するために必要となる研究能力を、知識と技術の両面から身につけることを目的に開講する。具体的な史料(外国語)の分析法、研究情報の収集手順から西洋史研究の方法論や史学思想、さらには論文における議論の作法まで、具体的に学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋史学の基本的な問題視角を理解することができる。 ・ 研究をはじめするために必要なツールや情報源の基礎的な活用方法を習得できる。 											
【授業計画と内容】											
授業は、専任教員3名のリレー方式で実施される。具体的な内容は、以下の通りである。それぞれイントロダクションと総括の回を含めて9~10回になる(全30回)。											
(1)図書館で西洋史の専門書や学術雑誌に触れることから始めて、研究の具体的な手順や論文の構成、議論のあり方などを学ぶ。											
(2)歴史学(または隣接分野)でしばしば用いられる基本的な概念や考え方について、テキストを読みながら学ぶ。											
(3)実証研究の入門として、外国語で書かれた史料に触れ、そこからどのようなことが読み取れるかを考える。											
(4)研究文献や史料に関する情報収集の方法をマスターすることをめざす。雑誌や文献要覧など冊子体の情報から、web上の様々な専門分野別の史資料サイトまで、実際に自分の仮の研究テーマとキーワードを設定して調査、検索し、有益な文献情報リストを一定のフォームに従って作成する。											
(5)自分で調べて選んだ外国語の文献(研究書ないし複数の論文)を精読して内容を報告する。											
----- 西洋史学(実習)(2)へ続く -----											

西洋史学(実習)(2)

【履修要件】

西洋史学専修学生の必修科目で、3回生で受講することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

到達目標に掲げた点の達成度を評価する。研究視角から具体的な作業の手続きや技術に至るまで一渡り学習することで、京都大学の学士課程に相応しい西洋史学研究の基礎を習得しているかどうか、成績評価の観点となる。

【教科書】

金澤周作監修 『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623087792

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

この授業で習得する知識・技術は、学生各人の卒論研究に直結する。授業課題の研究論文・研究書を予習として読み、報告やレポート提出をこなすだけでなく、この授業で学んだ方法を復習しながら自身の研究に適用し、4回生の卒論演習での報告を目標に、自らの専門研究を進めることが重要である。

（その他（オフィスアワー等））

この授業では、課題をこなすだけでなく、授業時において他の受講者と積極的に議論する姿勢が求められる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系137

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮三国時代墓制の変遷と棺・槨・室									
【授業の概要・目的】											
3～6世紀の朝鮮半島と日本列島の各地では、多大な労力を用いて多様な古墳が築造された。本講義では、棺・槨・室を中心とする埋葬施設の構造と空間原理などに着目しつつ、朝鮮半島各地の三国時代墓制の変遷過程を検討する。											
【到達目標】											
朝鮮三国時代の墓制の展開と特質についての基本的な知識を得る。 墓制を比較研究するための方法論を学ぶ。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角の基礎を身につける。											
【授業計画と内容】											
おおむね以下のような順序で講義を進める											
第1回 墓制を比較検討する視角をめぐって											
第2回 考古学からみた墓制・葬制											
第3回 棺・槨・室をめぐる諸問題(1) - 棺・槨・室の定義											
第4回 棺・槨・室をめぐる諸問題(2) - 木棺・木槨の構造復元法											
第5回 棺・槨・室をめぐる諸問題(3) - 墳丘との関係											
第6回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(1) - 新石器時代～初期鉄器時代 -											
第7回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(2) - 原三国時代 -											
第8回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(3) - 木槨墓における「棺」 -											
第9回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(4) - 石槨墓における「棺」 -											
第10回 横穴式石室の受容と棺の変化(1) - 錦江流域の場合(1)											
第11回 横穴式石室の受容と棺の変化(2) - 錦江流域の場合(2)											
第12回 横穴式石室の受容と棺の変化(3) - 栄山江流域の場合											
第13回 横穴式石室の受容と棺の変化(4) - 洛東江以西地域の場合											
第14回 横穴式石室の受容と棺の変化(5) - 洛東江以東地域の場合											
第15回 朝鮮三国時代墓制の特質 日本列島の比較から											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価(小レポートなど)約30%、学期末レポート 約70%											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の講義で紹介する論文を是非よんで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系138

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		瓦センの製作技術の検討 朝鮮半島出土例を中心に									
[授業の概要・目的]											
朝鮮半島から出土した瓦センの観察に基づき、瓦センの製作技術の分析方法と歴史的評価について検討する。											
[到達目標]											
朝鮮半島から出土した瓦センの検討を通して、考古資料を観察・記録・解釈するための基本的な知識と方法を身につける。 東アジア的な視角から瓦セン研究を進めるための知識と方法を身につける。											
[授業計画と内容]											
おおむね以下のとおり講義をおこなう。 第1回 朝鮮半島瓦センの研究史 第2回 平瓦の製作技術をめぐって(1) 佐原真「平瓦桶巻作り」を読む 第3回 平瓦の製作技術をめぐって(2) - 崔兌先「韓国平瓦製作法の変遷に関する研究」を読む - 第4回 平瓦桶巻作りの民俗例 ビデオ『製瓦匠』をみる 第5～7回 朝鮮半島の平瓦を観察する 第8～10回 朝鮮半島のセンを観察する 第11～第13回 高句麗瓦を観察する 第14回 朝鮮半島瓦センの特質 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
レポート試験70% 平常点評価30%(講義についての小レポートなど)											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
講義中、数回にわたって瓦の観察をおこない、その成果報告をもとに議論を進める。そのため、観察した瓦に関連する学習や、観察成果のレポート作成などを行う必要がある。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系139

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学文化学部 客員教授 山本 雅和			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世界遺産を掘る！（「古都京都の文化財」の考古学）									
【授業の概要・目的】											
<p>平安遷都から明治維新まで千年以上日本の都であった京都には、数多くの文化財があります。その中でも各時代を物語る代表的な文化遺産として、17件の寺院・神社・城郭が、世界遺産「古都京都の文化財」に選定されました。</p> <p>授業では、世界遺産「古都京都の文化財」を対象として、考古学による遺跡の研究法を紹介するとともに、文化財保護の意義および整備・活用について学習します。</p>											
【到達目標】											
<p>世界遺産「古都京都の文化財」についての知識を得る。 史跡・名勝を対象とする考古学的研究法の実践を理解する。 文化財の保護と整備・活用の具体例を学習する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス・「古都京都の文化財」についての意識調査 第2回 概説「古都京都の文化財」 第3回 上賀茂神社（賀茂別雷神社）・下鴨神社（賀茂御祖神社） 第4回 延暦寺 第5回 東寺（教王護国寺） 第6回 仁和寺 第7回 醍醐寺 第8回 平等院 第9回 天龍寺 第10回 金閣寺（鹿苑寺） 第11回 銀閣寺（慈照寺） 第12回 西本願寺（本願寺） 第13回 二条城 第14回 「古都京都の文化財」の整備・活用 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点評価 : 30%（授業内容についての質問・感想、小レポートなど） 期末レポート : 70%</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

各回の授業で資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げる「古都京都の文化財」の寺院・神社・城郭を訪問して、授業内容を復習するとともに現状を検分してください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系140

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合博物館 准教授 村上 由美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		環境考古学概説									
【授業の概要・目的】											
<p>遺跡出土木材を対象資料として多様な情報を引き出し、環境史、技術史を論じるための方法を示す。近年の環境考古学、植物考古学の研究動向を踏まえたうえで、本講義ではとくに木材利用史に焦点をあてて、縄文時代から近世にかけての木材利用の変遷を辿り、人間活動と周辺環境との関わりの歴史を明らかにする。そうした観点から、地域の環境史や技術史を学ぶための題材としても出土木製品や植物遺体は有用であり、博物館や資料館の展示に活かされることも多い。木製品の樹種や資源獲得の基盤となった植生との関係を視野に入れることにより、ひとつの木製品の背景には当時のどのような暮らしや文化、環境があったかを読み取ることが可能である。受講生は、木製品などの有機質遺物から得られる情報をもとに、歴史の一端を論じていく過程を学び、地域の環境史を解明して活用していくための基礎を身につける。</p> <p>講義の後半では、前半の講義内容を踏まえて受講生の専門や興味に即した題材を選び、「地域の博物館で環境史をテーマとした小規模な展示を企画する」との設定のもと展示の計画を立案し、発表を行う。受講生は自らの知見とアイデアを展示という形に集約させる経験を積む中で、「歴史を伝える力」を伸ばしていく。</p>											
【到達目標】											
<p>遺跡で得られる情報をもとに環境史を論じていく方法や枠組みについて理解を深め、一つの素材を対象として通史的に俯瞰する視野を持つ。また、発掘調査報告書の自然科学分析報告を読解する力を身につけるとともに、木製品の基本的な観察法を習得し、個々の情報をもとに歴史像を復原し、提示する方法を学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業のうち1回は、総合博物館において遺跡出土木製品を実際に観察し、木取りや加工痕など木器に残る情報を読み取って記録する作業に取り組む。そして上述のように授業の後半では、受講者が展示計画を立てて発表を行う時間を設ける。各回の授業計画は以下の通りとするが、受講者の理解度や関心に応じて適宜調整する。</p>											
<p>第1回 環境考古学・植物考古学の研究史と方法 第2回 縄文時代の木製品と木材利用 第3回 縄文 弥生移行期の木製品と木材利用 第4回 弥生時代の木製品と木材利用(1) 農具と容器の用材を中心に 第5回 弥生時代の木製品と木材利用(2) 広葉樹から針葉樹へ 第6回 古墳時代の木製品と木材利用 第7回 講義内容に関連した見学(学内ないし京都市内で実施) 第8回 古代の木製品と木材利用 第9回 中近世の木製品と木材利用 第10回 出土木製品から捉えた農具の歴史 第11回 中国の木製品研究概観と日本の木器との比較 第12回 木の考古学と関連諸分野(1) - 自然科学</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

第13回 木の考古学と関連諸分野（2） - 人文科学
第14回 「環境史」に関連した展示計画（受講者による発表と評価）
第15回 展示計画の講評と講義のまとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回提出する小レポート（30%）、展示計画についての発表内容（30%）、期末レポート（40%）を総合して講義の理解度や応用力をみる。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で配付するレジюмеや資料、提出した小レポートの内容を再検討すること
発表に向けての準備を随時行い、題材を集めておくこと

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系141

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		農学研究科 教授 杉山 淳司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		わが国固有の用材観や木の文化に触れながら、木材の仕組みや分析により得られる情報について学習する。									
【授業の概要・目的】											
<p>木材は樹木として長い間自らの体を支え、また材として我々の文化や生活を支えてきた。今日では環境保全はもとより、持続可能な資源としてもますます注目が高まっている。本講義では、木材の多様かつ丈夫な仕組みとその内部に刻まれる情報を、歴史的、考古的な木製品や建築物と関連させて学習する。また、ルーペや顕微鏡による木材識別実習や大学周辺の野外樹木識別実習や建造物見学(合せて3ないし4回)などを通して、木材そのものや木製品調査に必要な手法を学習する。</p>											
【到達目標】											
<p>木材の形成、物性、利用について概観することで、われわれの用材観を考察する基礎的な知識を養う。 木材組織と樹木観察実習を通して、標準的な木材に関する知識やそれらの識別法について自主的に学べる能力を養う。 木材の内部に記録される様々な情報を引き出す先端科学について学習する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と進め方。 2. 木材とは 3. 木材科学の基礎 4. 樹木の見分けかた（吉田構内） 5. 樹木の見分けかた（吉田構内） 6. 樹木の見分けかた（吉田山） 7. 針葉樹材・広葉樹材の巨視的特徴 8. 針葉樹材・広葉樹材の解剖学的特徴 9. 木材の見分けかた 10. 各論：仏像・建造物 11. 各論：出土材 12. 木材学、情報学、考古学の接点 13. 年輪年代・気候学 14. 情報学と考古学の接点 15. フィードバック(質問事項に対する回答) <p>それぞれのトピックで完結するのではなく相互に関連させながら講義をすすめる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（授業への積極性 20点）、小レポート（2回, 20点x2）ならびに期末レポート（40点）により評価するが、独自の工夫がみられるものについては高い点を与える。</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

対面授業の場合：

テキストについては印刷物等を適宜配布する。また、実習に必要な観察用サンプルやルーペを配布する。

対面授業ができない場合：

Pandaシステムにテキストを掲示する。また、実習用のキットについては受け取り日時と場所を指定するか、郵送とする。

[参考書等]

(参考書)

自習用参考書として：

林 将之 葉で見分ける樹木 小学館

佐竹他 フィールド版 日本の野生植物 木本、平凡社

佐伯 浩 この木なんの木 海青社

尼川大録、長田武正、検索入門 樹木 、樹木 、保育社

中川重年 検索入門 針葉樹、保育社

山崎隆之 一度は拝したい京都の仏像 学研新書

鈴木三男 日本人と木の文化、八坂書房

小原二郎 木の文化 鹿島出版会

[授業外学修(予習・復習)等]

適宜講義中に指示する。具体的には：

- 1) 身の回りの木製品の観察とその報告。
- 2) 樹木の観察とその報告。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系142

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		理学研究科 教授 中川 尚史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		考古学(特殊講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>「自然におけるヒトの位置」を知るために、野生霊長類，とくに系統的に人類にもっとも近縁な大型類人猿の社会，生態，行動に関する知見を中心に，形質人類学，生態人類学，比較認知科学の知見を交えて，人類の進化史を検討する。講義の中心的テーマは、社会の進化、人間家族の起源、性の進化、文化の起源、脳と心の進化、攻撃性、協力行動、言語の起源などについて解説し、最近論議されている説を検討する。</p>											
【到達目標】											
人類の社会、生態、行動面での特徴を、その進化過程とともに理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.日本の霊長類学の誕生と人類進化論研究室、霊長類の分類とヒトの位置、人類進化論概説～導入部として 2.社会構造概説、父系社会とその進化(その1) 3.父系社会とその進化(その2)、重層社会とその進化 4.性行動とその進化 5.大脳化を支えた食 6.社会的知性と大脳化の社会仮説(その1) 7.社会的知性と大脳化の社会仮説(その2) 8.共感性と心の理論 9.道具使用と社会行動の文化(その1) 10.道具使用と社会行動の文化(その2) 11.狩猟と肉食，集団間闘争 12.互惠性と食物分配，協力行動，向社会的行動 13.言語の起源(その1) 14.言語の起源(その2) 15.フィードバック 											
【履修要件】											
人類学第2部も受講することが望ましい。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

絶対評価（素点）

平常点（30点）、および学期末に1回のみ行うレポート試験（70点）により評価します。レポート試験は、レポートの課題に則していなければ、単位は認められませんので注意してください。

[教科書]

使用しない

授業中にプリントを配布し、それに沿って行います。また、映像資料も極力使用して、フィールド観察から得られた結果であることを体感してもらえますようにします。

[参考書等]

（参考書）

中川尚史 『"ふつう"のサルが語るヒトの起源と進化』（ぷねうま舎）ISBN:978-4-906791-51-4

西田利貞 『人間性はどこから来たか』（京都大学学術出版会）ISBN:4876980799

山極壽一 『人類進化論 霊長類学からの展開』（裳華房）ISBN:9784785352172

R. ボイド・JB. シルク 『ヒトはどのように進化してきたか』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623058983

河合香史（編著） 『集団-人類社会の進化』（京都大学学術出版会）ISBN:9784876989379

中川尚史・友永雅己・山極壽一 『日本のサル学のアシタ：霊長類研究という「人間学」の可能性』（京都通信社）ISBN:9784903473529

西田利貞・上原重男（編） 『霊長類学を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4582546234

中川尚史 『サバンナを駆けるサル』（京都大学学術出版会）ISBN:9780195171334

中川尚史 『食べる速さの生態学』（京都大学学術出版会）ISBN:4876983046

中川尚史 『サルの食卓-採食生態学入門』（平凡社）ISBN:4582546234

井上英治・中川尚史・南正人 『野生動物の行動観察法：実践 日本の哺乳類学』（東京大学出版会）ISBN:9784130622233

辻大和・中川尚史 『日本のサル 哺乳類学としてのニホンザル研究』（東京大学出版会）ISBN:9784130602334

上記以外は授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

復習としては、講義ノートの整理しながら、授業中に分からなかった点をクリアにし、次の時間に質問するなり、自分で調べるなりして解決するよう努めること。予習としては、同じテーマが続く授業の場合に、前回の内容を思い出しておくことが肝要です。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に指定しません。メールでアポをとったあと研究室に来てください。メールアドレスは、
nakagawa@jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系143

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		理学研究科 教授 中務 真人			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人類学 第2部									
【授業の概要・目的】											
人間は他の生物と異なり、過去、現在、未来を認識することができる。しかし、諸君は生物としての人間（ヒト）の成り立ちについてどれほど正確な知識を持っているだろうか。この講義を通じて、ヒトの進化についての理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの進化に関する基本事項を理解し、ヒトの特性の進化過程を正確に説明できる。 ・課題（レポート等）に対して積極的に取り組む能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の課題について講義を行う予定である。ただし授業理解の程度、最新の研究状況の進展などに対応してテーマの区切り・回数を変えることがある。</p> <p>授業 15回（フィードバック含む）・定期試験</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 化石による進化研究 (2) 動物界におけるヒトの位置 (3) 霊長類の誕生、暁新世プレシアダピス類 (4) 始新世曲鼻類の進化 (5) 始新世・漸新世の真猿類 (6) 前期中新世類人猿 (7) 中期・後期中新世類人猿 (8) 初期猿人 (9) アウストラロピテクス類 (10) 後期鮮新世・前期更新世の人類進化 (11) 中期更新世とヒト的特徴の進化 (12) 後期更新世化石人類 (13) 後期更新世文化 (14) 汎地球種としてのヒト (15) フィードバック 各自学習内容を点検し、質問のある学生は時間内に理学2号館 3 1 1 に来ること。 											
【履修要件】											
人類学第1部もあわせて履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期途中に課すレポート（30点）と学期末の試験（70点）により評価する。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない。
適宜資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)

ロバート・ボイド他 『ヒトはどのように進化してきたか』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4-623-05898-3

高井正成・中務真人 『化石が語るサルの進化・ヒトの誕生』(丸善出版) ISBN:978-4-621-30727-4

[授業外学修(予習・復習)等]

基本的に復習につとめることが重要である。予習が必要な場合は、前回の講義において指示する。復習のため、講義の概要、参考文献の題目を各回に配布するので、それを用いて理解度を確認すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めない。質問等は講義後に尋ねること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系144

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		前方後円墳の世界									
【授業の概要・目的】											
<p>百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録(2019年)も相俟って、このところ前方後円墳への社会的関心が高い。また古墳時代は、国家形成期として考古学・文献史学からの学問的注目を集めてきた。本講義では、前方後円墳を主たる分析材料として、国家形成理論のひとつ「権力資源論」を導きの糸にしながら、「イデオロギー」「経済」「軍事」「領域」「社会関係」の側面から、前方後円墳をはじめとする大型古墳が日本列島の国家形成に決定的な役割をはたしたことを解説する。</p>											
【到達目標】											
<p>前方後円墳というモニュメント的な構築物から国家形成という広大な歴史事象に迫るための、考古学的な手法や手順を理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. イントロダクション【1週】 2. 前方後円墳の世界【3週】 3. 近年の国家形成論【2週】 4. 前方後円墳とイデオロギー【2週】 5. 前方後円墳と経済【2週】 6. 前方後円墳と軍事【1週】 7. 前方後円墳と領域【2週】 8. 前方後円墳と社会関係【2週】</p> <p>* 計15週実施する。 * 事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>(参考書) 都出比呂志 『前方後円墳と社会』(塙書房、2005年) ISBN:4827311978 小林行雄 『古墳時代の研究』(青木書店、1961年) ISBN:4250610012</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

下垣仁志 『古墳時代の国家形成』 (吉川弘文館、2018年) ISBN:9784642093521

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系145

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		前方後円墳の時代									
【授業の概要・目的】											
<p>木簡などの文字史料に恵まれている7世紀以後と対照的に、古墳時代の同時代史料は希少であり、当該期の主要検討対象は考古資料にならざるを得ない。律令国家の前史をなす重要な古墳時代の集団内/間関係を究明するうえで、前方後円墳をはじめとする古墳がはたす役割はきわめて大きい。本講義では、前方後円墳の汎列島/特定地域/特定古墳群などにおける展開様相を俎上に載せ、古墳時代の社会・政治状況の解明を目指す。</p>											
【到達目標】											
古墳時代を代表する考古学的遺構である前方後円墳の社会的・政治的意義について、複数の側面から理解できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>1. イントロダクション【1週】 2. 前方後円墳の概要【1週】 3. 古墳観の推移【3週】 4. 古墳群と前方後円墳【2週】 5. 前方後円墳の地域展開【3週】 6. 前方後円墳の列島展開【3週】 7. 前方後円墳と古代史の接点【2週】</p> <p>* 計15週実施する。 * 事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>(参考書)</p> <p>下垣仁志 『古墳時代の国家形成』(吉川弘文館、2018年) ISBN:9784642093521 和田晴吾 『古墳時代の王権と集団関係』(吉川弘文館、2018年) ISBN:9784642093507 近藤義郎 『前方後円墳の時代』(岩波書店、1983年) ISBN:978-4000045469 (文庫(岩波文庫、2020</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

年)あり)

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系146

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都橘大学 文学部 准教授 中久保 辰夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代の土器文化と東アジア交流									
【授業の概要・目的】											
<p>日本列島各地で生産・使用された古代の土器は、年代の特定、地域間関係の解明など、考古資料として欠かせない情報を秘めている。そして、中国大陸や朝鮮半島各地の文化の影響より東アジア古代土器文化の一角を担っただけでなく、日本固有の土器文化を開花させた。</p> <p>この授業は、Glocalな視点から東アジアにおける異文化受容と日本古代特有の文化形成の関連性を、土器資料から読み解く視座を提供する。講義で扱う時代は、「倭の五王」の時代から遣隋使や遣唐使が活躍する時代であり、最新の発掘調査成果とともに研究の最前線を紹介する。そして、博物館等の典型的な展示品である土器資料から歴史を読み解いていく方法を体得できるようになることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古代東アジア世界の異文化交流に関する幅広い知識を獲得し、国際的な視座と地域に根差した視点という複眼的思考を身につけることができる。 ・ 古墳時代から平安時代を中心とした考古学の基礎知識を得ることができる。 ・ 基礎的な考古資料の1つである土器について、研究最前線を知ることができるとともに、その観察眼が習得できる。 											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画で講義を進める予定であるが、各項目の講義の順序は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。</p> <p>第1回：ガイダンス 考古学者にとっての土器資料とは 第2回：遺跡の年代を把握するための基礎（1） 古墳時代土器編年の現状と課題 第3回：遺跡の年代を把握するための基礎（2） 飛鳥・奈良時代土器編年の現状と課題 第4回：遺跡の年代を把握するための基礎（3） 平安時代土器編年の現状と課題 第5回：世界各地の土器文化 第6回：土器の製作者と地域間交流 第7回：古環境の復元と酸素同位体比年輪年代法 第8回：「倭の五王」の時代と窯業生産のはじまり（1） 第9回：「倭の五王」の時代と東アジアの饗宴（2） 第10回：発掘調査から報告書刊行まで 土器の分析手法 第11回：『播磨国風土記』と古代の饗宴、酒造り 第12回：奈良時代・平安時代の窯業生産 第13回：考古学が復元する古代食の世界と東アジア交流 第14回：土器資料からみた唐風文化と国風文化 第15回：日本古代土器の3つの貌</p> <p>それぞれのトピックで完結するのではなく相互に関連させながら講義をすすめる。 フィードバックは、各授業で受講生からの質問等にこたえる形で行います。</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（授業中課題の回答内容、小テスト） 約40%
学期末レポート 約60%

[教科書]

使用しない
適宜、資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

菱田哲郎『須恵器の系譜』（講談社,1996年）ISBN:978-4062651103
兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室『『播磨国風土記』の古代史』（神戸新聞総合出版センター、2021年）ISBN: 978-4343011312

（関連URL）

<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>(講義中に紹介する遺跡の発掘調査報告書を探し、閲覧する際に参考になります。)

[授業外学修（予習・復習）等]

感染対策を十全に行ったうえで、博物館や資料館にある古墳出土品や集落遺跡出土古代土器を熟覧すると、講義の内容がより深く理解できると思いますので、おすすめします。

（その他（オフィスアワー等））

質問などは、メールなどで受け付けることも可能です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系147

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 人文科学研究所 教授		吉井 秀夫 下垣 仁志 FORTE, Erika	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		East Asian Origins: Ancient History and Material Culture									
【授業の概要・目的】											
<p>In this special lecture, we offer an overview of various archaeological studies about the prehistoric and ancient East Asia, with the results of our researches and studies. We also examine the characteristics of the archaeological studies of the East Asia in Japan, by comparison of the studies in Europe and the US. The department of archaeology in Kyoto University has excavated archaeological sites in Japan, Korea, and China, and has gathered various artifacts from all areas of the world. These archaeological data will be introduced in this special lecture.</p> <p>Study Focus: Visual, Media and Material Culture; Knowledge, Belief and Religion. Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.</p>											
【到達目標】											
<p>By the end of this special lecture, student will get familiar with the artifacts of East Asia, and have general understanding of the issues about the prehistoric and ancient archaeology in East Asia.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>This special lecture will be offered in accordance with the following general structure. The detailed plan for each class will be announced in the introduction.</p> <p>1 Introduction (1 week) Introduction of the special lecture.</p> <p>2 History of the East Asian archaeology in Japan (5weeks) This section will outline the history of archaeological investigations, studies and gathering artifacts in Japan, Korea and China by Japanese archaeologists,</p> <p>3 Archaeology of daily life cultures in prehistoric and ancient Japan(4weeks) This section will outline prehistoric and ancient daily life cultures (clothes, foods, toilet and so on) from structural remains and artifacts excavated in Japan.</p> <p>4 The Eastward Transmission of Buddhist Culture from Archaeological Perspective (3weeks) This section will deal with the transmission of Buddhism to central Asia, with a focus on the material culture of the Tarim Basin area (present Xinjiang Uyghur Autonomous Region in China), a region crossed in antiquity by the network of routes known as the Silk Road.</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

5 Discussion (1 week)

6 Feedback(1week)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Attendance and participation: 40%, Course Essay:60%

【教科書】

使用しない

Not used.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

To be announced in class

【授業外学修（予習・復習）等】

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the reference papers and books announced in class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系148

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 千葉 豊 文学研究科 助教 伊藤 淳史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		縄文・弥生時代研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>1万年あまりに及ぶ縄文時代と、その後の1千年近くにわたる弥生時代は、狩猟採集社会から水稲農耕社会へ、そして初期的な国家の萌芽へと、社会のありようが大きく変容しながら列島史の基盤が形成されていく重要な時期にあたる。本講義では、基本的に文字史料では解明することのできないこれら縄文・弥生時代の社会について、関連する考古学的研究の現在の到達点を検証することを通じて学ぶとともに、さまざまな物質文化の研究手法について認識を深め、問題意識を醸成したい。</p>											
【到達目標】											
<p>考古学の最も基礎的な目的である、遺跡・遺物といった物質的資料から歴史を復原するための研究手法について、特性が的確に理解できるようになる。またその理解を通じて、考古学調査者や研究者として、実証的に資料を取り扱い研究を遂行する実践力を身につけるとともに、文化財として資料が現代社会にもつ意義について認識できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下に記すように、第1週をガイダンスとして、講義計画全体の概略説明に充てるほか、残り14週について、前半の2～8週を縄文時代（千葉担当）、後半の9～15週を弥生時代（伊藤担当）を扱う。本年度は土器研究を主要な対象としつつ、関連するその他の事象にも触れながら進める。また、講義に際しては、京都大学のキャンパスも縄文・弥生時代の重要な遺跡であることから、野外における遺跡現地の巡検や出土資料を前にした議論なども適宜とりいれ、各自の意見も求めながら理解を深めていくような形態も予定している。</p>											
<p>第1週 イン트로ダクション（千葉・伊藤） 第2週 縄文土器研究の画期となった論説(1) 第3週 縄文土器研究の画期となった論説(2) 第4週 土器から年代と地域を読む(1) 第5週 土器から年代と地域を読む(2) 第6週 土器研究の展望 - 分類から系統へ - 第7週 京都大学構内にある縄文集落 第8週 環状集落をどう理解するか - 縄文集落研究の課題 - 第9週 「弥生式」時代から「弥生」時代へ - 学史の確認から - 第10週 弥生時代のはじまりをめぐる議論 - 前期の土器編年から - 第11週 土器様式と地域色 - 近畿地方の中期弥生土器研究から - 第12週 弥生社会の西日本と東日本 - 東海以東の弥生土器との比較から - 第13週 弥生社会の広域変動(1) - 中～後期の弥生土器様相の変化から - 第14週 弥生社会の広域変動(2) - 集落・墓制研究などの現状から - 第15週 弥生から古墳へ - 庄内式をめぐる研究動向から -</p>											
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----											

考古学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講義中の発言や小課題の内容などからうかがわれる参加意欲で評価する）。

[教科書]

毎回資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

指示された論考や資料等は熟読し内容を確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 向井 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代の墓制と靈魂の祭祀									
[授業の概要・目的]											
<p>古代中国では、人間のたましいは精神をつかさどる「魂」と肉体をつかさどる「魄」からなり、人間が死ぬと「魂」が「魄」から分離すると信じられた。とりわけ儒教が理想とする古代の制度によれば、「魂」は廟で祀り、「魄」は墓に葬るものであり、両者が混交することは許されなかった。しかし、漢代には埋葬後も墓での祭祀がおこなわれ、墓前や墓側に死者の靈魂を祀る建物が設けられた。こうした墓での祭祀が衰退していくのが、後漢末の動乱をへて華北を統一した曹魏の時代である。この講義では、こうした中国古代墓制と靈魂祭祀の展開をふまえ、とくに近年新たに発見された前漢海昏侯劉賀墓や曹操高陵、洛陽曹魏大墓などの事例に着目し、その考古学的な研究成果をもとに、古代中国の他界観や靈魂観をさぐることを目的とする。</p>											
[到達目標]											
<p>中国古代の墓制については、中国考古学の主要な研究テーマとして、長い研究の蓄積がある。さらに近年の中国における考古学的調査の急速な進展により、時代・地域ごとの調査と研究は大きく進んだ。ただ、他界観や靈魂観については、研究者ごとに見解が異なる部分があり、必ずしも議論が尽くされているとはいえない。この講義では、先行研究の議論をふまえ、考古資料・図像資料・文献史料を総合的に分析し、物質資料から形而上の觀念へとせまる方法を学ぶことを目標とする。</p>											
[授業計画と内容]											
<ul style="list-style-type: none"> 伝統中国の靈魂観 秦始皇帝陵と兵馬俑坑 前漢皇帝陵の調査 馬王堆漢墓の発掘 前漢海昏侯墓の発見 前漢海昏侯墓をめぐる諸問題 槨墓から室墓へ 墓中の神坐 墓主図像の変遷 墓と宗廟の祭祀 曹操高陵の発見 近年発見の曹魏大型墓をめぐる諸問題 石牌銘文からみた曹魏墓の副葬品 石牌銘文からみた曹魏の喪葬儀礼 厚葬から薄葬へ 											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点20%と学期末レポート80%をあわせて評価する

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系150

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 向井 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国中古の墓制と他界観									
[授業の概要・目的]											
<p>中国の墓制はおおむね戦国時代から前漢代にかけて竪穴式埋葬施設から横穴式埋葬施設へと交代し、また人間や動物の殉葬・犠牲にかわって木製や陶製の俑が副葬されるようになる。こうした墓制の変化は当時の人びとの他界観の変化を反映したものと考えられ、漢代には大量の副葬品をともなう巨大な墓が無数に造営された。こうした厚葬の習俗は、魏晋代に衰えて薄葬化していくものの、北朝では再び巨大な墳丘と陵園をともなう厚葬墓が造営され、それが隋唐時代の陵墓に継承された。この講義では、先行する漢代と後続する隋唐以降の墓制を視野に入れながら、魏晋南北朝を中心とした時期の墓制について検討する。墓の埋葬施設の構造、墳丘や陵園・墓園などの地上施設、墓室内の装飾や副葬品に対する考古学的分析によって当該時期の墓制の変遷を整理するだけでなく、壁画の図像学的検討や関連する文献・碑刻史料の解釈を加えて、当時の人びとの観念にせまることを授業の目的とする。</p>											
[到達目標]											
<p>中国魏晋南北朝時代の墓制は、朝鮮三国や日本の古墳時代の墓制を理解するうえで無視することができない。鏡や帯金具など、特定の文物をめぐる交流については長い研究の歴史があり、墓の構造や空間利用についても近年ようやく研究が進みつつあるとはいえ、他界観については研究者ごとに見解が異なっている。その主な原因は、考古資料から当時の人びとの観念にせまる方法論の未熟さにあるといつてよい。この講義では、考古資料の分析に加えて、同時代の文献史料と図像資料の分析を重点的におこなうことにより、物質資料から形而上の観念へとせまる方法を学ぶことを目標とする。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>中国古代の墓と犠牲 殉葬から俑へ 墓制にみる漢晋変革 近年における呉墓の新発見 魏晋墓に用いられた雲母の葬具 招魂葬をめぐる議論 南朝墓「竹林七賢図」の新発見 安岳三号墓の発見と研究 北魏壁画墓の発見 北魏初期の墓制と他界観 北魏の墓制変革 方山永固陵のインパクト 東魏・北齊の皇帝陵と貴族墓 隋煬帝墓の発見 北朝隋唐墓の他界観</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点20%と学期末レポート80%をあわせて評価する。

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系151

科目ナンバリング		U-LET27 37040 SJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(演習Ⅰ) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		三回生演習									
【授業の概要・目的】											
考古学の方法論や基礎知識を身につけることを目的とする。授業では、考古学に関わる重要な論文を熟読し、その内容や論理構成を分析・紹介し、現在の考古学における主題や方法論を批判的に摂取する。また状況に応じて、考古資料を実際に観察・記録・報告する実習もおこなう。											
【到達目標】											
<p>学術論文を熟読し、その内容・論理構成を正しく理解できるようになる。</p> <p>学術論文の検討を通して、考古学における基本的な方法論を身につける。</p> <p>考古資料を正しく観察・記録・報告する技術を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>発表者は与えられた課題論文や自ら選択した論文の内容を、基礎となる考古資料とあわせて紹介し、論文の論理構造や問題点を指摘する。出席者は発表内容に関して質問し、異論を提示する。また状況に応じて、考古資料を実際に観察・記録・報告する実習もおこなう。受講者数によって変動するが、おおむね以下のように進める予定である。</p> <p>前期</p> <p>第1回 ガイダンス（授業計画の説明および報告順序の決定）</p> <p>第2回 講義（演習の進め方について）</p> <p>第3～14回 課題論文の報告および討論</p> <p>第15回 夏期課題の分担を決定</p> <p>後期</p> <p>第1～3回 夏期課題の報告および討論</p> <p>第4～15回 課題論文の報告および討論</p>											
【履修要件】											
授業に出席し発表を担当することが前提となる。											
【成績評価の方法・観点】											
課題である論文をどれだけ明確に分析し理解できているか、また他の受講者の報告に対して活発に議論できているかを評価する。また必要に応じて課するレポート課題も評価の際の参考とする。											
----- 考古学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

考古学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない
発表に際しては、各自レジュメを準備すること。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
発表内容に関する参考書は、発表者が検索すること。教員も随時紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の課題論文を読むことはもちろんのこと、他の受講者の課題論文も読むこと。また、各自で考古学の基本的な方法論に関する書籍・論文を読み、理解を深めること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系152

科目ナンバリング		U-LET27 37042 SJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(演習II) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、担当者(受講者)による発表とその後の討議をつうじて、考古学の具体的な方法論と知識を身につけるとともに、発表と討論の作法を習得する。さらに、学部生は卒業論文に向けて自身の研究テーマを絞り、大学院生はみずからの研究をいっそう深化させることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>考古資料や関連文献から情報をひきだし、具体的な方法論に即して考察を構築する手法を習得できるようになる。発表内容を理解したうえで、より高次の議論へと発展させるための討論の作法を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>年間を通じて、考古学に関する発表と討論の技術を磨いてゆく。前期は、各自の問題意識と関心にあわせ、研究発表と課題論文の発表などを課す(参加人数に応じて後者を省略する場合もある)。後期は、受講者が各自の研究関心に沿ったテーマを設定し、それに関する研究報告と討論をおこなう。初回に受講人数に合わせて発表予定を組むので、万障繰りあわせて出席すること。 * コロナ禍の状況次第では、授業方式の変更なども起こりうる。変更時には可及的速やかに連絡をするので、受講生は授業関連の連絡をこまめにチェックすること。</p> <p>受講者数によって変動するが、おおむね以下のように進める予定である。</p> <p>【前期】 第1回 前期の授業計画の説明・報告順序の設定など 第2～15回 報告および討論</p> <p>【後期】 第1～15回 各自の研究テーマに関する報告および討論</p>											
【履修要件】											
<p>考古学の専門性がかなり高くなるので、考古学実習をすでに履修しているか、履修予定の学生であることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>発表内容・討議への参加度合い・レポートの出来栄などから総合的に評価する。発表者の無断欠席は、単位認定を放棄する行為とみなす。やむを得ない事情による欠席時には代替課題を課す。</p>											
----- 考古学(演習II)(2)へ続く -----											

考古学(演習II)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

与えられた課題をこなし、発表・レポート作成に結実させるべく、関連遺物・遺跡の積極的な観察・踏査をおこなうこと。また各自、博物館見学・現地説明会見学・資料調査・発掘調査に積極的に参加・関与することで、テーマの発見と考古学への知見を深められたい。

(その他(オフィスアワー等))

課題をクリアすべく、できるだけ多くの文献にあたり知識を深められたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系153

科目ナンバリング		U-LET27 37045 SJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(演習Ⅲ) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 千葉 豊 文学研究科 教授 吉井 秀夫 文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		卒業論文指導									
[授業の概要・目的]											
卒業論文作成を目的とした研究に関する中間発表をおこない、教員や他の出席者からの批評を受け、よりよい論文の完成をめざす。各人が、研究の進捗状況にしたがって、段階的に成果を発表する。											
[到達目標]											
授業での中間発表およびそれに関する質疑応答をもとに、卒業論文を書き上げる。											
[授業計画と内容]											
5月の連休頃までに各自研究テーマを確定する。前期末までの発表では、そのテーマにかかわる研究史や問題点を整理し、夏休みを中心とした作業計画・研究計画を提示する。後期前半には、夏休み中におこなった資料収集成果やその分析成果の途中経過を整理・発表する。後期後半の報告では、論文目次案を提示した上で、研究成果を総括する。受講者数により日程は調整するが、おおむね以下の通りで進める予定である。											
前期											
第1回 ガイダンス											
第2～8回 研究テーマの検討											
第9～15回 第1回報告											
後期											
第1～7回 第2回報告											
第8～15回 第3回報告											
[履修要件]											
卒業論文の作成と提出が前提となる。 本演習とは別に、忘れずに卒業論文の登録をすること。											
[成績評価の方法・観点]											
演習時の発表内容によって評価する。											
[教科書]											
使用しない											
----- 考古学(演習Ⅲ)(2)へ続く -----											

考古学(演習Ⅲ)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

卒業論文を書き上げるために、できる限りの時間を用いて資料収集・遺物の実見と検討・分析などの作業を進めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはとくに設けないが、卒業論文作成に関する相談は常時対応する。電話やメールなどで、教員のアポを取ること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系154

科目ナンバリング		U-LET27 27050 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(講読) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>考古学の射程を大幅に広めたことで名高いV・G・Childeの出世作にして最高傑作である『The Dawn of European Civilization』(6版)の精読をつうじて、ヨーロッパ新石器時代の概要、考古学の方法論、本書が世界考古学および日本考古学におよぼした影響、などを習得する。テキストの輪読と内容についての解説および議論が、講読の基本的な枠組みとなる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ先史考古学の展開と現代的課題を理解する。 ・その理解をふまえて、考古学の基本的な方法論を習得し、物質文化的思考を身につける。 ・考古学の基礎的な用語と概念、その英語表現を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション：授業の概要と進め方を説明する。 第2回 テキストの概要の解説 第3～29回 テキスト『The Dawn of European Civilization』(6版)の精読 20回前後までは構文把握を重視した全文訳をする。それ以降は段落の要約を重視したうえで、論理構成を意識しつつ訳出する。 第30回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>考古学の基礎的な概念や方法・作業仮説などを理解していないと履修に困難を来すので、履修の前提として、考古学入門書を読破する程度の作業はすませておくこと。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>総合評価。 平常点評価(50%)：授業時の訳出の出来、質疑への回答の出来などから評価する。 年度末レポート(50%)：受講生各自に課題テキストをあたえ、その全訳と解説を課す。 欠席数によっては、年度末課題の量が多くなる。講義に関する内容で発言を求められた際に、「わかりません」という回答のように自身の見解を明示しない消極的姿勢は、平常点での減点対象となる。</p>											
【教科書】											
<p>Gordon Childe 『The Dawn of European Civilization：6th edition』(CRoutledge & Kegan Paul、1957年) ISBN:SBN:710049617 (本講読で使用するテキストは6版(1957年初刷)である。別版を購入したり複写すると無駄足になるので要注意。6版は京都大学の図書館に所蔵されていないが、講読担当教員は所蔵しているので、閲覧希望者は申し出ること。)</p>											
----- 考古学(講読)(2)へ続く -----											

考古学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で読むところは予読(できるかぎり訳出)しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

受講生の多寡や専門熟達度を考慮して講読する章を決定し、受講生に通達する。テキストの読み進め方は、文章や段落ごとに和訳担当者を決める1人1段落方式を基本とするが、分量や内容に応じて数文単位になることもある。担当者は講読当日に指名する。日本語訳だけでなく、内容を理解できていることが重要なので、テキストの内容について下調べも必要になる。また、述語や重要事項などについて、調べ物作業を課すことがあるが、その際には出席者分の資料を用意すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系155

科目ナンバリング		U-LET27 27060 PJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(実習) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 千葉 豊 文学研究科 助教 伊藤 淳史 文学研究科 教授 吉井 秀夫 文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		考古学実習									
[授業の概要・目的]											
<p>考古資料は基本的に唯一無二であるが、写真や実測図にもとづく叙述によって、研究者の間である程度までは資料を共有できる。本講義では、考古資料をおもに実測図で表現するテクニックを取得する。考古資料には土器・石器・金属器・瓦など各種あり、ものによって図法や表現法が微妙に異なる。できるだけ多くの資料を実測して、それらを身につけるのが授業の目的となる。</p>											
[到達目標]											
<p>さまざまな考古資料の実測図を作成するための基本的な技術を身につける さまざまな考古資料を適切に観察・記述できるようにする</p>											
[授業計画と内容]											
<p>前期 第1回 ガイダンス 第2～7回 須恵器 第8～10回 弥生土器 第11～12回 縄文土器施文法 第13～14回 縄文土器 第15回 フィードバック</p> <p>後期 第1回 土器レイアウト 第2回 土器トレース 第3～5回 金属器(うち1回は鏡) 第6～8回 野外測量 第9回 金属器レイアウト 第10回 金属器トレース 第11～14回 瓦 第15回 フィードバック</p>											
[履修要件]											
<p>実測道具・製図道具の数や教室のスペースなどの関係で、受講可能な人数は15人までとする。</p>											
----- 考古学(実習)(2)へ続く -----											

考古学(実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

すべての授業に出席することを前提とし、授業の節目に提出した実測図とレポートにより評価する。

[教科書]

使用しない

実測作業の基本となる実測道具の一部は受講生の実費負担となる。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

実習中に実測した遺物のレポート作成を通して、実習で学んだことを整理し、さらに関連文献を読むことにより、理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはとくに設けない。各課題を消化しないと次のステップに進めないなので、時間外授業にも教員は対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容